

その名のごとくウメにつくが、少ない。

クロチビタマムシ *Trachys pseudoscrobiculata pseudoscrobiculata*

極めて珍しい種で、県内でせは小田原からの記録があるが、絶滅した可能性も高い。なお、次のものの標本は見ることは出来なかった。

アカガネチビタマムシ *Trachys tsushimae*

ウツギなどに見られ、各地に多い。

コウゾチビタマムシ *Trachys broussonetiae*

コウゾ、カジノキにつく。

マメチビタマムシ *Trachys reitteri*

各種のマメ類につき、多い。

ナガタチビタマムシ *Trachys griseofasciatus*

かなり少ない種である。

ヤノナミガタチビタマムシ *Trachys yanoi*

ケヤキにつき各地で普通に見られる。

ドロイロチビタマムシ *Trachys cupricolor*

ケヤキに見られるが、少ない。

ダンダラチビタマムシ *Trachys variolatus*

クヌギ、カシワ、カシ類につき、平地に普通。

ハイイロヒラタチビタマムシ *Habroloma griseonigrum*

クヌギ、カシ類につき、この仲間ではもっとも多い。

2.1.8.11. ナガハナノミダマシ上科

2.1.8.11.1. ナガハナノミダマシ科

2.1.8.11.1.1. ナガハナノミダマシ亜科

ニホンナガハナミダマシ *Eurypogon japonicus*

山地にかなり見られるようである。

ヒサマツナガハナノミダマシ *Eurypogon hisamatsui*

かなり稀な種である。

2.1.8.11.2. ホソクシヒゲムシ科

ムネアカクシヒゲムシ *Horatocera niponica*

ブナから幼虫が見つかったことは興味深い。成虫は朽木や倒木などから見られる。山地に普通である。

2.1.8.12. コメツキムシ上科

2.1.8.12.1. コメツキムシ科

2.1.8.12.1.1. ヒゲコメツキムシ亜科

ヒゲキメツキ *Pectocera fortunei*

固定は極めて容易。各地に普通。

2.1.8.12.1.2.サビキコリ亜科

サビキコリ *Agrypnus binodulus binodulus*

コメツキの中でもっとも多い普通種。樹液などにも集まる。

ムナゴロサビキコリ *Agrypnus cordicollis*

前種に次いで多い。

ホソサビキコリ *Agrypnus fuliginosus*

あまり多くない。

ヒメサビキコリ *Agarypnus scroja scrofa*

皆瀬川からハマベヒメサビキコリの記録があるが、本種の誤りと思われる。河原の石下などに見られる普通種である。

イチハシチビサビキコリ *Adelocera ichihashii*

かなり稀な種で、県内の記録も少ない。

コガタノサゴコメツキ *Lacon parallelus parallelus*

少ない種である。

オオサビコメツキ *Lacon maeklinii*

山地性の種で、稀である。

ウバタマコメツキ *Paracalais berus*

マツ類に多いが、最近、急に少なくなった。

オオクシヒゲコメツキ *Tertigus lewisi*

大型の種で、あまり多くない。

2.1.8.12.1.3.ヒサゴコメツキ亜科

ヒラタヒサゴコメツキ *Colioascerus saxatilis saxatilis*

河原の石の下などに多い。

オオバヤシミヤマヒサゴコメツキ *Hyalolithus motschulskyi ohbayashii* Ohira, 1968

山地のガレ場や溪流の石下などに生息する珍しい種で、丹沢固有の亜種である。なお、箱根には別亜種のハコネミヤマヒサゴコメツキ *Hypolithus motschulskyi hiranoi* Ohira が生息する。

チャグロヒサゴコメツキ *Hypolithus brunneofuscus*

少ない種である。

2.1.8.12.1.4.ベニコメツキ亜科

ルイスウスイロカネコメツキ *Cidonopus marginipennis*

かなり稀な種である。

ウスチャイロカネコメツキ *Nothodes marginicollis*

本種も少ないものである。

タテジマカネコメツキ *Gambrinus vittatus*

山地に多い。

クロカネコメツキ *Gaambrinus atricolor*

少ない種である。

キアシヒメカネコメツキ *Kibunea approximans*

カネコメツキの間でもっとも多い。

ムラサキヒメカネコメツキ *Kibunea eximia*

かなり稀な種と思われる。

ガロアムネスジダンドラコメツキ *Harminius galloisi*

次種によく似ているが、はるかに少ない種である。

オオツヤハダコメツキ *Stenagostus umbratilis*

ライトトラップによく集まる。山地に普通である。

チャイロツヤハダコメツキ *Scutellathous comes comes*

フトツヤハダコメサキ *Harminathous suturalis*

高桑がホソチャイロツヤハダコメツキとして記録しているのは本種のことと思われる。

クロツヤハダコメツキ *Hemicrepidius secessus secessus*

この仲間ではもっとも多い普通種。

ヒメクロツヤハダコメツキ *Hemicrepidius desertor desertor*

ルリツヤハダコメツキ *Hemicrepidius subcyaneus*

ルリ色した美しい種。あまり多くない。

ニホンベニコメツキ *Denticollis nipponensis nipponensis*

一見、コメツキムシらしくない感じを受ける。各地に普通である。

ミヤマベニコメツキ *Denticollis miniatus*

前種に似ているが、本種のほうが少ない。

ミヤマフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus kurofunei*

山地性の種である。

チャグロヒラタコメツキ *Calambus mundulus*

シリブトヒラタコメツキ *Eanoides puerilis*

あまり多くない種である。

ダイミョウコメツキ *Anostirus daimio*

山地性の美麗種で、♂はかなり少ない。県内では次の1例のみ。筆者は花に来ていたものを採集した。

ドウガネヒラタコメツキ *Corymbitodes gratus*

この仲間では多い普通種。

オオベニホソヒラタツメツキ *Corymbitodes rubripennis*

県内唯一の記録である。

ベニホソヒラタコメツキ *Corymbitodes nikkoensis*

珍しい種である。前種との区別は微妙で、同じものかも知れない。

クロホソヒラタコメツキ *Corymbitodes concolor*

各地で見られる。

コゲチャホソヒラタコメツキ *Corymbitodes obscuripes*

やや少ない。

ヒメシモフリコメツキ *Actenicerus orientalis*

シモフリコメツキ *Actenicerus pruinosis*

ヘリアカシモフリコメツキ *Actenicerus modestus modestus*

2.1.8.12.1.5.コメツキ亜科

アラハダチャイロコメツキ *Ectamenognus rugipennis*

ミゾムネアカコメツキ *Ampedes canalicollis*

少ない種である。

ヒメハネビロアカコメツキ *Ampedes miles*

県内唯一の記録である。

ヒメクロコメツキ *Ampedes carbunculus*

この仲間ではもっとも多い普通種。

オオアカコメツキ *Ampedes optabilis*

倒木や朽木の樹皮下から得られる。

アカコメツキ *Ampedes orientalis*

本種も各地に見られ、スギやマツの朽木に多い。

ツماغロコメツキ *Ampedes niponicus*

山地性の美麗種で、稀である。

アカハラクロコメツキ *Ampedes hypogastrisuc hypogastricus*

マツやスギの朽木などに普通。

アカアシクロコメツキ *Ampedes japonicus japonicus*

各地に多い。

アオムネアカコメツキ *Ampedes azurescens*

記録は1例だけのようである。

チビクロコメツキ *Ampedes pauxillus*

ホングウチビクロコメツキ *Ampedes honguanus*

県内唯一の記録である。

ムネアカクロコメツキ *Ischnodes sanguinicollis makio*

山地に見られるが、かなり稀な種である。

ムネアカツヤケシコメツキ *Megapenthes opacus*

本種も山地の花に見られるが、稀な種である。

クロサワツヤケシコメツキ *Megapenthes kurosawai*

記録は1例のみ。

キマダラコメツキ *Gamepenthesis pictipennis*

この属のものは黄色の斑紋があり、美しい。花や朽木から発見される。

ヒメキマダラコメツキ *Gamepenthesis similis*

前種より少ない

ヒメホソコメツキ *Procræus helvolus*

花に集まるが、多くない。

ホソツヤケシコメツキ *Hayekpenthesis pallidus pallidus*

各地に見られる。灯火に飛来することもある。

クチブトコメツキ *Silesis musculus musculus*

コメツキの中ではかなり多い普通種である。

クチボソコメツキ *Glyphonyx illepidus*

あまり多くない。

キバネクチボソコメツキ *Glyphonyx bicolor bicolor*

ハバムナビロコメツキ *Sadoganus babai*

河原の石下などから得られるが、少ない。

カバイロコメツキ *Ectinus sericeus sericeus*

各地に見られる普通種。

ヨツキボシコメツキ *Ectinnoides insignitus insignitus*

小さいが同定は容易。花上に多く、各地に普通に見られる。

ホソナガクロヒメコメツキ *Dalopius tamui Kishii*

高桑がニホンヒメコメツキ *Dalopius niponensis* として記録したのは本種のことと思われる。

クロスジヒメコメツキ *Dalopius patagiatus*

キバネホソコメツキ *Dolerosomus gracilis*

各種の花に多い。

ヒゲナガコメツキ *Neotrichophorus junior junior*

それほど多くはない。

オオナガコメツキ *Elater sieboldi*

大きなコメツキで、各地に見られる。

オオクロナガコメツキ *Elater niponensis*

少ない種である。

ヒメオオナガコメツキ *Elater kometsuki*

コガネホソコメツキ *Shirozulus bifoveolatus*

ミドリヒメコメツカ *Vuilletus viridis viridis*

金緑色に輝く美麗種で、花などに多い。

2.1.8.12.1.6.クシコロツキ亜科

オオクロクシコメツキ *Melanotus relictus*

アカアシオオクシコメツキ *Melanotus cete*

クシコメツキの仲間ではもっとも多い普通種。

ハネナガオオクシコメツキ *Melanotus japonicus*

各地に見られる。

クシキメツキ *Melanotus legatus legatus*

この属ではもっとも多い普通種。大きさにかなり大小がある。

クロツヤクシコメツキ *Melanotus annosus*

クロクシコメツキ *Melanotus senilis senilis*

ヒラタクロクシコメツキ *Melanotus correctus correctus*

コガタクシコメツキ *Melanotus erythropygus*

マルクビクシコメツキ *Melanotus caudex*

ナガチャクシコメツキ *Melanotus spernendus spernendus*

2.1.8.12.1.7.ミズギワコメツキ亜科

クロケツヤミズギワコメツキ *Oedostethus selluris*

ヨツモンミズギワコメツキ *Migiwa quadrillum*

キウシミズギワコメツキ *Migiwa tutus*

カタモンチビコメツキ *Pronegastrius humeralis humeralis*

ニホンチビマメコメツキ *Quasimus japonicus*

ミズギワコメツキの中ではもっとも多い。

ヘリムネマメコメツキ *Yukoana carinicollis*

2.1.8.12.1.8.ハナコメツキ亜科

オオハナコメツキ *Platynychus nothus nothus*

ハナコメツキの仲間ではもっとも多い種。

アカアシハナコメツキ *Platynychus adjutor adjutor*

ホソハナコメツキ *Cardiophorus naponicus*

クロコハマコメツキ *Paracardiophorus opacus*

コハナコメツキ *Paracaardiophorus pullatus*

2.1.8.12.2. ヒゲブトコメツキ科

ナガヒゲブトコメツキ *Aulonthroscus longulus*

あまり多くない種である。

Aulonthroscus sp.

体長は 4mm とこの属では大きな種で、1 例だれの記録である。

チャイロヒゲブトコメツキ *Trixagus turgidus*

どちらかと云うと平地に多いようである。

2.1.8.12.3. コメツキダマシ科

2.1.8.12.3.1. ミゾナシコメツキダマシ亜科

ナガコメツキダマシ *Isorhipis banghaasi*

山地に普通である。

ホソナガコメツキダマシ *Isorhipis foveata*

県内では堂平以外の記録は少ない。

シコクカクムネコメツキダマシ *Melasis shikokensis*

かなり珍しい種である。

ヒメフトコメツキダマシ *Bioxylus japonensis*

ブナの立ち枯れから得られた。

ガロアヒメフトコメツキダマシ *Bioxylus galloisi*

山地性の種で、少ないものと思われる。

ツヤヒメコメツキダマシ *Xylobius rufomarginatus*

本種もブナの立ち枯れなどの樹にとまっているのを観察できる。

オニコメツキダマシ *Hylochaes haarmandi*

コメツキダマシの中ではもっとも多い種で、同定も容易。

ヒメコメツキダマシ *Hylis japonicus*

この属のものは同定が難しい。もっとも普通のものを本種とした。

クロスジヒゲコメツキダマシ *Proxyllobius galloisi*

この属は触角第 4~11 節に中央隆突起線があるのが特徴。

ナカスジヒゲコメツキダマシ *Proxyllobius logicornis*

あまり多くない。

2.1.8.12.3.2. ミゾコツメキダマシ亜科

コヒメミゾコメツキダマシ *Dromaeolus bervipes*

ツヤヒメミゾコメツキダマシ *Dromaeolus rufulus*

ヒメチャイロコメツキダマシ *Fornax consobrinus*

少ない種である。

コチャイロコメツキダマシ *Fornax nipponicus*

各地にかなり見られるようである。

オオチャイロコメツキダマシ *Fornax victor*

この属最大の種。多くはない。

2.1.8.12.3.3. フチトリコメツキダマシ亜科

エダヒゲコメツキダマシ *Sarpedon atratus*

触角に特徴があり、同定しやすい。あまり多くはない。

マメフチトリコメツキダマシ *Clypeorhagus marginatus*

あまり多くはない。

フチトリコメツキダマシ *Microchagus pectinicornis*

クチヒゲミゾコメツキダマシ *Microchagus ramosus*

トゲナカミゾコメツキダマシ *Rhacopus modestus*

ナガミゾコメツキダマシ *Dirrhagofarsus lewisi*

アイヌコメツキダマシ *Farsus ainu*

大きさにかなり大小がある。平地にも見られる。

2.1.8.13. ホタル上科

2.1.8.13.1. ベニホタル科

2.1.8.13.2. ホタル科

2.1.8.13.3. ホタルモドキ科

2.1.8.13.4. ジュウカイボン科

2.1.8.14. カツオブシムシ上科

2.1.8.14.1. マキムシモドキ科

2.1.8.14.1.1. ヒラタキムシモドキ亜科

マキムシモドキ *Peltastica amurensis*

かなり少ない種である。

2.1.8.14.2. ヒメトゲムシ科

ケモンヒメトゲムシ *Nosodendron asiaticum*

山地性の少ない種で、樹液に集まる。

2.1.8.14.3. カツオブシムシ科

2.1.8.14.3.1. マルカツオブシムシ亜科

シロオビマルカツオブシムシ *Anthrenus nipponensis*

屋内害虫だが、各種の花に集まる。

ヒメマルカツオブシムシ *Anthrenus verbasci*

屋内害虫だが、マーガレットなどの花に多い。

2.1.8.14.3.2. ケカツオブシムシ亜科

チビケカツオブシムシ *Trnodes rufescens*

鳥の糞などに混ざっている毛を食うらしい。あまり多くない。

2.1.8.15. ナガシנקイ上科

2.1.8.15.1. ナガシנקイムシ科

2.1.8.15.1.1. コガタナガシנקイムシ亜科

ニホンタケナガシנקイ *Dinoderus japonicus*

枯れ地メダケなどに見られる。

カキノフタゲナガシנקイ *Sinoxylon japonicum*

各所の枯枝に見られる。多くはない。

2.1.8.15.2. ヒョウホンムシ科

2.1.8.15.2.1. ヒョウホンムシ亜科

ナガヒョウホンムシ *Ptinus japonicus*

本科の中ではもっとも多い普通種。野外でも得られるが、記録は少ない。

2.1.8.15.3. シバンムシ科

2.1.8.15.3.1. オオシバンムシ亜科

ケオビトサカシバンムシ *Pthnomorphus exilis*

あまり多くはないが、各地で得られる。

2.1.8.15.3.2. マツシバンムシ亜科

コガタマツシバンムシ *Ernobius curticolis*

各地に見られるが多くはない。

2.1.8.15.3.3. セスジシバンムシ亜科

タバコシバンムシ *Lasioderma serricorne*

乾燥物を食う害虫であるが、野外でも稀に採れる。

2.1.8.15.3.4. キノコシバンムシ亜科

コクロキノコハバンムシ *Dorcatoma japonicus*

キノコに見られる少ない種である。

オオホコリタケシバンムシ *Caenocara tsuchiguri*

キノコに集まる種で、それほど少なくない。

2.1.8.16. カッコウムシ上科

2.1.8.16.1. コクヌスト科

2.1.8.16.1.1. コクヌスト亜科

オオコクヌスト *Trogossita japonica*

幼虫・成虫ともマツなどの樹皮下に生息し、キクイムシ類を捕食する。

コクヌスト *Tenebroides mauritanicus*

貯穀害虫としてよく知られているが、稀に野外からも得られる。

オオマダラコクヌスト *Leperina tibialis*

山地に生息し、神奈川県では少ない種である。

2.1.8.16.1.2. マルコクヌスト亜科

セダカコクヌスト *Thymalus parviceps*

朽木や枯枝から発見され、山地に普通に見られる。

オオズセダカコクヌスト *Thymalus laticeps*

サルノコシカケ類から得られるが、あまり多くない。

ユヤマセダカコクヌスト *Thymalus punctidorsum*

次の記録しかなく珍しい種と思われる。

ハロルドヒメコクヌスト *Ancyrons haroldi*

平地から山地にかけて普通に見られ、ケヤキなどの樹皮下で越冬する。

チビコクヌスト *Latolaeva japonica*

一見、ヒタホソカタムシの1種のように見える。山地に見られるが少ない。

2.1.8.16.2. カッコウムシ科

2.1.8.16.2.1. ホソカッコウムシ亜科

ホソカッコウムシ *Cladiscus obeliscus*

山地に多い。

イガラシカッコウムシ *Tillus igarashii*

平地から山地に見られるが、あまり多くない種で、灯火に飛来することが多い。

ネアカヒメカツコウムシ *Tilloidea notata*

少ない種である。

モンサビカッコウ *Neoclerus ornatulus*

食菌性の種で、堂平付近ではカワラタケなどのキノコに群がっていることがある。

一般的には少ない種である。

ヨツモンチビカッコウ *Isoclerus pictus*

かなり珍しい種のようなものである。次のものが唯一の記録。

2.1.8.16.2.2. カッコウムシ亜科

ムナグロナガカッコウムシ *Opilo niponicus*

本科の中ではもっとも普通の種で、平地から山地にかけて多い。

キオビナガカッコウムシ *Opilo carinatus*

前種によく似ているが、山地性の種と思われ、県下ではかなり少ない。

クロダングラカッコウムシ *Stigmatium nakanei*

山地に多く、各地に見られる。

アリモドキカッコウムシ *Thanassium lewisi*

春、マツの木をはい回っているのを観察できる。しかし、それ以後は見たことがない。

2.1.8.16.2.3.ノコヒゲカッコウムシ亜科

ムネアカマルカッコウムシ *Allochotes dichrous*

少ない種のように、今回の調査で初めて発見された。

キムネツツカッコウムシ *Tenerus maculicollis*

あまり多くはない。

2.1.8.16.3. ジョウカイモドキ科

2.1.8.16.3.1. ケシジョウカイモドキ亜科

ケシジョウカイモドキ *Dasytes vulgaris*

各地に普通であるが、♂は極めて少ない。

クロアオケンジョウカイモドキ *Dasytes japonicus*

前種よりはるかに少ない。

2.1.8.16.3.2. ジョウカイモドキ亜科

キムネヒメジョウカイモドキ *Hypebaeus picticollis*

県内未記録種。全国的に見てもかなり稀なまのと思われる。

ヒロオゴジョウカイモドキ *Laius historio*

キアシオビジョウカイモドキ *Laius pellegrini*

あまり多い種ではない。

ツマキアオジョウカイモドキ *Malachius prolongatus*

ジョウカイモドキの中ではもっとも普通のもので各地に極めて多い。なお、長野県などには大型のよく似た別種がいるので、丹沢の高地では特に注意してほしい。

ヒメジョウカイモドキ *Nepachys japonicus*

各地にかなり見られる。

2.1.8.17. ツツシンクイ上科

2.1.8.17.1. ツツシンクイ科

ツマグロツツシンクイ *Hylecoetus dermestoides cossis*

大山が基準産地である。山地に見られるが、ほとんどが♀で、♂は極めて稀である。

2.1.8.18. ヒラタムシ上科

2.1.8.18.1. ケシキスイ科

2.1.8.18.1.1. ヒゲボソケシキスイ亜科

キイロチビハナケシキスイ *Heterhelus japonicus*

ニフトコの花に多く集まる普通種。

クロチビハナケシキスイ *Heterhelus morio*

本種もニフトコに花に集まる。前種とは色彩以外では区別が出来ず、同種の可

能性が高い。

コクロチビハナケシキスイ *Brachypterus urticae*

2.1.8.18.1.2.デオケシキスイ亜科

カタベニデオキシイ *Urophorus humeralis*

腐った果実などから得られる。

ムネカドオデキシイ *Carpophilus acutangulus*

クリイロデオキシイ *Carpophilus marginellus*

コスモポリタンな種で、各地に見られる。

トドデオキシイ *Carpophilus titanus*

あまり多くない。

クロハナケシキスイ *Carpophilus chalybeus*

ケシキスイの中ではもっとも多い普通種。

クリヤケシキスイ *Carpophilus hemipterus*

貯蔵食品の害虫である。

ルイスデオキシイ *Carpophilus lewisi*

少ない種である。

2.1.8.18.1.3.ケシキスイ亜科

モンチビヒラタケシキスイ *Haptoncus ocularis*

腐った果実などに多く、各地に見られる。

ツヤチビヒラタケシキスイ *Haptoncus concolor*

マメヒラタケシキスイ *Haptoncurina paulula*

種々の花に集まる普通種。

キバナガラヒラタケシキスイ *Epuraea mandibularis*

アシマガリヒラタケシキスイ *Epuraea curvipes*

ツギキヒラタケシキスイ *Epuraea commutata*

各地に普通に見られる。

コゲチャヒラタケシキスイ *Epuraea japonica*

山地に多い普通種。

カクアシヒラタケシキスイ *Epuraea bergeri*

この属でもっとも多い普通種。

セグロヒラタケシキスイ *Epuraea densepunctata*

かなり少ない種である。

ヒゲブトヒラタケシキスイ *Epuraea depressa*

触角の末端節がマルク大さいので、同定しやすい種である。山地に見られるが、多くない。

ヒメヒラタケシキスイ *Epuraea domina*

カンキツ類の落果によく見られる。

ナミヒラタケシキスイ *Epuraea pellax*

ムナクボヒラタケシキスイ *Epuraea foveicollis*

ハコネヒラタケシキスイ *Epuraea funeraria*

山地に見られる。

クロヘリヒセタケシキスイ *Epuraea terminalis*

クロテンヒラタケシキスイ *Epuraea deleta apposita*

少ない種である。

カクホソヒラタケシキスイ *Epuraea rapax*

かなり少ない種である。

ホソキヒラタケシキスイ *Epuraea parilis*

花や果実に多い。

キボシヒラタケシキスイ *Omosita colon*

腐敗した動植物質に集まる。

ニセキボシヒラタケシキスイ *Omosita japonica*

かなり稀な種である。

ヘリグロヒラタケシキスイ *Omosita discoidea*

腐肉や骨に集まる種で、堂平ではシカと思われる骨から採集した。

アカホシクロヒラタケシキスイ *Ipidia sexgyttata octusis*

ブナの朽木などに見られるが、かなり珍しい種である。

コクロヒラタケシキスイ *Ipidia sibirica*

キノコや朽木から得られるが、少ない。

クロヒラタケシキスイ *Ipidia valiolora*

朽木や樹液に集まり、各地に多い。

ウスグロキバケシキスイ *Prometopia unidentata*

朽木などに見られるが、やや稀である。

アミモンヒラタケシキスイ *Physoronia hilleri*

キノコや樹皮下から得られる普通種。

キノコヒラタケシキスイ *Physoronia explanata*

本種もキノコや樹皮下から得られ、各地に多い。

ケモンケシキスイ *Atarphia fasciculata*

ケシキスイとしては特異な形態で、同定は容易。キノコや樹皮下に見られ、各地に多い。

ヨツモンヒセタケシキスイ *Atarphia quadripunctata*

前種と同様なところに見られるが、かなり稀である。

アカマダラケシキスイ *Lasiodactylus pictus*

カキの実などの腐った果実類に集まる。平地に多い普通種。

ニセアカマダラケシキスイ *Lasiodactylus borealis*

一般的には全種よりかなり少ない種であるが、灯火採集で得られることが多い。

ウスオビキノコケシキスイ *Pocadites dilatimamus*

朽木やキノコから得られる。平地から山地にかけて多く見られる。

ネアカカクケシキスイ *Pocadites rufobasalis*

この属はいずれもキノコなどにみられるが、本種は少ない種である。

ホコリタケケシキスイ *Pocadiodes japonicus*

ホコリタケなどから採集されるが、稀な種である。

コゲチャセマルケシキスイ *Amphicrossus japonicus*

平地に多く、樹液に集まる普通種である。

ナガコゲチャケシキスイ *Amphicrossus lewisi*

本種も樹液に来るが、少ない。

チビムクゲケシキスイ *Circops suturalis*

あまり多くない。

コクロムクゲケシキスイ *Aethina inconspicua*

少ない種である。

クロモンムクゲケシキスイ *Aethina maculicollis*

各地に多いふつうしゅ。

キイロセマルケシキスイ *Cycharamus dorsalis*

キノコや花に集まる普通種で、山地に多い。

クロマルケシキスイ *Cyllodes ater*

前種よりかなり少ない。

ニセクロマルケシキスイ *Cyllodes dubius*

この属ではもっとも多い普通種で、山地のキノコや樹皮下から得られる。

ヒメクロマルケシキスイ *Cyllodes breviusculus*

全種同様キノコなどに見られるが、ムスク内種である。

マルマルケシキスイ *Cyllodes semiglobosus*

キノコによく見られる。

ヨツボシアカマルケシキスイ *Cyllodes punctidorsum*

ヒラタケなどのキノコに見られるが、やや稀である。

ツキワマルケシキスイ *Cyllodes literatus*

本種もキノコなどに集まるが、少ない。

ワモンマルケシキスイ *Cyllodes nakanei*

丸い紋のある種で、キノコや枯れ木の樹皮下に多い。山地ではどこでも普通である。

タテスジマルケシキスイ *Neopallodes omogonis*

あまり多くない。

モンクロアカマルケシキスイ *Neopallodes hilleri*

この属では多い種である。

ネアカマルケシキスイ *Neopallodes inermis*

一見、ネアカチビオオキノコに似ている。キノコや樹皮下から得られる。

ツヤマルケシキスイ *Neopallodes vicinus*

シリグロオオケシキスイ *Oxycnemus lewisi*

スッポントケというキノコに集まることが知られている。大型の美しい種で、かなり少ない。

2.1.8.18.1.4.チビケシキスイ亜科

キムネチビケシキスイ *Meligethes denticulatus honshuensis*

各地に見られる普通種。この亜科のものは花に多く見られる。

ムネアカチビケシキスイ *Meligethes flavicollis*

チビケシキスイの仲間では多い種で、各地に普通である。

トゲナシホソチビケシキスイ *Meligethes turbidescens*

筆者が次種としてユーシンから記録したものは本種であったので、ここに訂正してお詫びする。

トゲナシチビケシキスイ *Meligethes placidus*

多くない。

ドロイムチビケシキスイ *Meligethes haroldi*

オオアカチビケシキスイ *Meligethes cyaneus*

箱根では多いが、全国的には珍しいもので、これが丹沢から初めての記録である。箱根仙石原ではサンショウバラなどにみられる。

キベリチビケシキスイ *Meligethes violaceus*

チビケシキスイの仲間ではもともと多い普通種。種々の花に集まる。

エチゴチビケシキスイ *Meligethes astacus*

クリの花に集まる。少ない種である。

チャイロチビケシキスイ *Meligethes shimoyamai*

今まで県内では記録のなかった種である。筆者は大薩摩で採集したことがあり、山地性の種で稀なものらしい。

2.1.8.18.1.5.オニケシキスイ亜科

ヒラタオニケシキスイ *Librodor binaevus*

ヒョウモンケシキスイ *Librodor panterlinus*

斑紋に変化があり、黒化した個体が多い。

アカハラケシキスイ *Librodor rufiventris*

各地に多い。

ヨツボシケシキスイ *Librodor japonicus*

クヌギなどの樹液にカブトムシやクワガタともに集まる。この仲間ではもっとも多い普通種。

ツツオニケシキスイ *Librodor subcylindricus*

細くて筒状をしている。枯れ木の樹皮下などから得られる。

2.1.8.18.2.タマキスイ科

キムネタマキスイ *Cybocephalus nipponicus*

1mm ほどの微小甲虫で、樹皮下などに見られるが多くはない。

2.1.8.18.3.ネスイムシ科

2.1.8.18.3.1.デオネスイ亜科

ホソムネデオネスイ *Monotoma logicollis*

平地に多い普通種。

トビイロデオネスイ *Monotoma picipes*

各地に見られる。

ニセデオネスイ *Europs ferrugineum*

少ない種である。

ホソデオネスイ *Europs temporis*

本種も多くない種である。

オバケハデオネスイ *Mimemodes monstrosus*

平地にも多く、この科の中ではもっとも多い種である。枯れたトウモロコシの茎から採集したこともある。

ニセケブカネスイ *Rhizophagoides kojimai*

朽木などから得られる。

2.1.8.18.3.2.ネスイムシ亜科

クロヒメネスイムシ *Rhizpphagus puncticollis*

少ない種である。

チビネスイ *Rhizophagus parviveps*

本種も多くない。

ムナビロネスイ *Rhizophagus nobilis*

ヤマトネスイ *Rhizophagus japonicus*

山地の朽来や立ち枯れの樹皮下に多い普通種。

ムクゲネスイ *Rhizpphagus subvillosus*

かなり稀な種である。

2.1.8.18.4. ヒメハナムシ科

チビズマルヒメハナムシ *Rhalacrus luteicornis*

少ない種である。

ホソヒゲヒメハナムシ *Litochrus rufoguttatus*

この科では大きいほうで、赤い紋があり、わかりやすい。各地に見られる。

ベニモンアシナガヒメハナムシ *Heterolitus voronatus*

本種も赤紋のある種で、この仲間ではもっとも多い普通種。

キイロアシナガヒメハナムシ *Heterolitus nopponicus*

全体が赤褐色の種で、かなり多い。

トビイロヒメハナムシ *Olibrus consanguineus*

あまり多くない。

フタスジヒメハナムシ *Olibrus paarticeps*

今まで県内から記録からなかったもの。

ヨコスジチビヒメハナムシ *Stilbus avunculus*

あまり多くない種である。

アカボシチビヒメハナムシ *Stilbus bipustulatus*

本属の中では赤い紋があり、わかりやすい。やや少ない。

2.1.8.18.5. ヒメキノコムシ科

マルヒメキノコムシ *Aspidiphorus japonicus*

朽木などに生えた粘菌にいる普通種で、各地に多い。

2.1.8.18.6. ヒラタムシ科

2.1.8.18.6.1. ヒラタムシ亜科

ヒメヒラタムシ *Uleiota arborea*

低山から山地にかけて朽木や枯れ木に多い。

ヒゲナガヒメヒラタムシ *Dendrophagus longicornis*

山地性のものだが多くない。

ベニヒラタムシ *Cucujus coccinatis*

赤くて、扁平な美しい種。自費下に多く見られる。

エゾベニヒラタムシ *Cucujus opacus*

前種によく似ているが、かなり少ない

ルリヒラタムシ *Cucujus mnischechi*

大型でルリ色をした美麗種で、ブナの倒木の樹皮下などから発見されるが、丹沢ではかなり稀なものである。

クロムネキカワヒラタムシ *Pediacus japonicus*

山地に多く見られる。

2.1.8.18.6.2.チビヒラタムシ亜科

クロホシチビヒラタムシ *Notolaemus nigroomatus*

黄褐色の地の黒紋のある顕著な種で、山地に多く見られる。

モンチビヒラタムシ *Notolaemus cribratus*

あまり多くない。

オオキバチビヒラタムシ *Nipponophloeus dorcoides*

大あごが強大な種で、特に雄は顕著である。種々の樹皮下に普通である。

セマルチビヒラタムシ *Xylolestes laevior*

小型の種の中ではもっとも多い種である。

2.1.8.18.7. ツツヒラタムシ科

ツツヒラタムシ *Ancistria apicalis*

少ない種である。枯枝などに見られる。

2.1.8.18.8. ホソヒラタ科

2.1.8.18.8.1.ホソヒラタムシ亜科

ヒラムネホソヒラタムシ *Protasilvanus lateritius*

従来、本州からは報告がなかったので、次のものは最北(北限)の記録であろう。

ライトトラップで採集された。

フタトゲホソヒラタムシ *Silvanus bidentatus*

枯れ木などに普通に見られる。

ヒメフタトゲホソヒラタムシ *Silvanus lewisi*

この仲間ではもっとも多い普通種。

ホソヒラタキスイ *Silvanoprus inermis*

あまり多くない。

ミツカドコナヒラタムシ *Silvanoprus scuticollis*

南の方に分布域がある種で、少ない。

ホソミツカドコナヒラタムシ *Silvanoprus groucellei*

少ない種である。

2.1.8.18.8.2.セマルヒラタムシ亜科

ミツモンセマルヒラタムシ *Psamoecus triguttatus*

各地に極めて多い普通種。灯火にも集まる。通常、黒紋があるが、消えているものも多い。

クロオビセマルヒラタムシ *Pasmmoecus fasciatus*

前種と同様に各地に見られる。

セマルホソヒラタムシ *Cryptomorpha sculptifrons*

南の方に多い種で、次の記録は興味深い。

2.1.8.18.9. キスイムシ科

2.1.8.18.9.1. ガマキスイ亜科

ガマキスイ *Telmatophilus orientalis*

荒れ地や湿地に見られる。少ない種である。

2.1.8.18.9.2. キスイムシ亜科

ヒラムネマルキスイ *Serratomaria tarsalis*

ササマルキスイ *Serratomaria vulgaris*

やや少ない。

ムネスジキスイ *Henotiderus centromavlatus*

ニホンヒゲブトキスイ *Cryptophagus japonicus*

少ない種である。

クロモンキスイ *Cryptophagus decoratus*

ヨツモンキスイ *Cryptophagus callosipennis*

2.1.8.18.9.3. セマルキスイムシ亜科

ケナガセマルキスイ *Atomaaria horridula*

各地に普通である。

マルガタキスイ *Curelius japonicus*

微少な種だが各地に普通。灯火に集まる。

2.1.8.18.10. オオキスイ科

ヨツボシオオキスイ *Helota gemmata*

クヌギなどの樹液に集まる普通種。

ミドリオオキスイ *Helota cereopunctata*

山地種の珍しい種で、花に集まる。

2.1.8.18.11. キスイモドキ科

ズグロキスイモドキ *Byturu atoricollis*

上翅の色彩は変化するので、色では区別できない。種々の花に見られる普通種である。

キスイモドキ *Byturus affinis*

前種と同様、花上に見られるがやや少ない。

2.1.8.18.12. ムクゲキスイ科

アカグロムクゲキスイ *Biphyllus lewisi*

朽木や枯れ木をたたくと落ちてくる。各地に多い。

カタモンムクゲキスイ *Biphyllus humeralis*

本種もでこでも見られる普通種。

ケマダラムクゲキスイ *Biphyllus fluexiosus*

それほど多くない種である。

フトナミゲムキゲキスイ *Biphyllus complexus*

かなり少ない種である。

ハンスモンムクゲキスイ *Biphyllus rufopictus*

ムクゲキスイの仲間ではもっとも多い種で、各地に普通である。

ベニモンムクゲキスイ *Biphyllus suffusus*

各地に多い普通種である。

クリイムロクゲキスイ *Biphyllus throscoides*

あまり多くない

セスジムクゲキスイ *Biphllus marmoratus*

少ない種である。

ナミゲムクゲキスイ *Biphyllus inaequalis*

山地に多い種である。

2.1.8.18.13. コメツキモドキ科

2.1.8.18.13.1. ナガムクゲキスイムシ亜科

ヒラガナガムクゲキスイ *Cryptophilus obliterated*

平地に見られる普通種。ワラや枯れ木にいる。

アカスジナガムクゲキスイ *Cryptophilus hiranoi*

枯れ木、薪、ワラなどに見られるが、あまり多くない種である。

ヒラタコメツキモドキ *Xanoscelinus hiranoi*

三浦富士が基準産地のコメツキモドキらしからぬ形態をした、興味深い種である。低山帯に生息し、枯れ木などから得られる。

2.1.8.18.13.2. マメコメツキモドキ亜科

チビコメツキモドキ *Henoticonus triphylloides*

かなり少ない種である。

2.1.8.18.13.3. コメツキモドキ亜科

アオバヒメコメツキモドキ *Anadastus praetermissus*

草地に見られる。

ツマグロヒメコメツキモドキ *Anadastus praecustus*

色彩に多少の変化はあるが、わかりやすい種で、各地に多い。

ルイスコメツキモドキ *Languriomorpha lewisi*

各地に普通に見られる。Lewis は *Languria geniculata* Harold として記録している。

クロアシコメツキモドキ *Lagurimorpha nigratarsis*

少ない種である。

2.1.8.18.14.オオキノコムシ科

2.1.8.18.14.1.オオキノコムシ亜科

オオキノコムシ *Eucaustes praenobilis*

ブナの倒木の樹皮下やサルノコシカケなどのキノコから得られる大型の美麗種。

カタモンオオキノコ *Aulacochilus japonicus*

平地から山地にかけてカワラタケなどに多い。

クロヒラタケカカキノコ *Renania atrocyanea*

朽木や樹皮下に見られ、山地性の種だが、各地に多い。

ツヤヒメオオキノコ *Setelia scitura*

少ない種である。

クロバチビオオキノコ *Pseudamblyopus similis*

山地性の種で、各地に多い。

カタモンチビチオオキノコ *Spondotriplax horioi*

少ない種である。

ムモンシリグロオオキノコ *Pselaphandra inornata*

極めて珍しい種で、次のものが県内唯一の記録。

キイロチビオオキノコ *Rhodotritoma sufflava*

かなり少ない種である。県未記録種。

ヨツボシオオキノコ *Eutriplax tuberculifrons*

ブナなどに生えるヒラタケ類に多く集まる。各地に普通である。

クロハバビロオオキノコ *Neotriplax atrata*

平地から山地にかけて、もっとも普通の種である。

アカハバビロオオキノコ *Neotriplax lewisii*

平地に多い種で、カワラタケなどに見られる。

ハコネキスジチビオオキノコ *Triplax nakanei hakonensis*

箱根産のものより黒化が進み、ほとんど真っ黒である。とりあえず箱根亜種としておく。少ない種である。

キアシチビオオキノコ *Triplax canalicollis*

ホソチビオオキノコ *Triplax japonica japonica*

平地から山地にかけて多く見られる。

セモンチビオオキノコ *Triplax discicollis*

山地性の種で各地に多い。

シベリアチビオオキノコ *Triplax sibirica connectens*

山地に多い普通種。

セグロチビオオキノコ *Aporotritoma laetabilis*

あまり多くない。

コヒゲチビオオキノコ *Aporotritoma arakii*

珍しい種である。

アカヒゲチビオオキノコ *Aporotritoma ruficornis*

少ない種で、大山の記録が唯一のもの。

アングロチビオオキノコ *Aporotritoma atripes*

大山が基準産地の珍しい種である。

クロチビオオキノコ *Tritoma naponensis*

オオキノコではもっとも多い普通種。平地から山地に掛けてカワラタケなどに生息している。

ハラアカチビオオキノコ *Tritoma pallidiventrīs*

あまり多くない。

フタモンハバビロオオキノコ *Tritoma biplagiata*

かなり少ないようである。

ネアカチビオオキノコ *Tritoma lewisianus*

本州と四国に分布するが、本州では神奈川県に分布が集中している興味深い種で、春から夏に多い。

オオサワチビオオキノコ *Tritoma osawai*

一見、前種に似ており、同じようなところで得られるが、夏から秋に見られる。県内の記録は次のものだけである。

ヒシモンチビオオキノコ *Tritoma discalis*

あまり多くはない。

ベニヘリチビオオキノコ *Tritoma circumcincta*

キベリハバビロオオキノコ *Tritoma pallidicincta*

ベニモンチビオオキノコ *Tritoma sobrina*

平地にも見られる種で、カワラタケなどに見られる。

ミツボシチビオオキノコ *tritoma maculifrons*

黒紋がある美しい種で、斑紋には変化がある。山地に見られるが、多くない。

フタオビチビオオキノコ *tritoma latifasciata*

少ない種である。

ツマグロチビオオキノコ *Tritoma nogropunctata*

あまり記録の無い珍しい種である

ムツホシチビオオキノコ *tritoma towadensis*

低山帯から中山帯に見られる種で珍しい。

トモンチビオオキノコ *Tritoma asashinai*

赤褐色の地に黒紋のある美しい種で、あまり多くない。

コモンチビチオオキノコ *Tritoma cenchris*

小型の美麗種で、少ない。

2.1.8.18.14.2.ホソガタオオキノコムシ亜科

ニホンホソオオキノコ *Eacne japonica*

シイタケの害虫とされている。野外のシイタケに見られる。

ズグロホソオオキノコ *Dacne zonalia*

この属の中ではもっとも多い普通種。

ベニモンムナビロオオキノコ *Microsternus perforatus*

山地性のあまり多くない美麗種。

カタボシエリグリオオキノコ *Magalodacne bellula*

オオキノコと同様、立ち枯れたブナなどに多い普通種。

ヒメオビオオキノコ *Episcapha fortunei*

平地に多く見られる種で、山地では得たことがない。

ミヤマオビオオキノコ *Episcapha gorhami*

朽木や樹皮下から得られる。山地に極めて多い。

2.1.8.18.15.ミジンクスイムシ科

キウチミジンクスイ *Propalticus kiuchii*

丹沢にはかなり生息していることがわかった。

2.1.8.18.16.カクホソソカタムシ科

2.1.8.18.16.1.カクホソカタムシ亜科

ナガマルホソカタムシ *Mychocerus orientalis*

箱根の大雄山産のヒョウホンがパラタイプの1つになっている。マツなどの朽木の樹皮下から発見されるが、多くはない。

アカブトカクホソカタムシ *Philothermopsis crassipes*

本種も朽ちたマツなどの樹皮下から得られる。各地に多い。

カクホソカタムシ *Cerylon sharpi*

ブナなどの太い枯れ木の樹皮下から発見されるが、多くはない。

ダエンカクホソカタムシ *Philothermus depressus*

前種と同様のところに見られるが、多くはない。

アメイロカクホソカタムシ *Philothermus pubens*

少ない種である。

アラメカクホソカタムシ *Ectomicutus rugicollis*

本種も少ない種である。

ムネビロカクホソカタムシ *Cautomus hystriculus*

マツなどの枯れ木の樹皮下から得られるが、多くはない。

2.1.8.18.17. ミジンムシ科

2.1.8.18.17.1. ヒラタミジンムシ亜科

ベニモンツヤモジンムシ *Parmulus politus*

もともとわかりやすい種で、朽木などに多く、各地に普通である。

オオミジンムシ *A;oparmulus yuasai*

今まで県内でははっけんされなかった未記録種で、この仲間では 2mm とやや大きい。

チャイロミジンムシ *Alloparmulus rugosus*

平地から山地にかけて見られる。

ナカグロミジンムシ *Arthrolips lewisii*

マエキミジンムシ *Arthrolips oblongus*

枯れ草や積んであるワラの中などに多い。各地に普通。

2.1.8.18.17.2. ムクゲミジンムシ亜科

ムクゲミジンムシ *Sercoderus lateralis*

少ない種である。

2.1.8.18.17.3. ミジンムシ亜科

テントウミジンムシ *Corylophodes punctipennis*

朽木などに見られるが、あまり多くない。

マルガタミジンムシ *Orthoperus japonicus*

本種も少ない

2.1.8.18.18. テントウダマシ科

2.1.8.18.18.1. ホソテントウダマシ亜科

イツホシテントウダマシ *Leiestes deroratus*

微小種ながら美しい紋様がある。少ない種である。

ホソテントウダマシ *Panamonus brevicornis*

かなり少ない種である。

2.1.8.18.18.2. ムクゲテントウダマシ亜科

チャバネムクゲテントウダマシ *Stenotarsus chrysomelinus*

少ない種である。

カタベニケブカテントウダマシ *Ectomychus basalis*

朽木などから得られるが、多くはない。

クロモンケブカテントウダマシ *Ectomychus musculus*

朽木などに多い。

2.1.8.18.18.3.オオテントウダマシ亜科

クリバネツヤテントウダマシ *Lycoperdina castaneipennis*

この属はいずれもホコリタケに生息する。完熟したホコリタケのなかに幼虫、成虫ともに潜り込んでいる。

ヨツボシテントウダマシ *Ancylopus pictus asiaticus*

畑や荒地などで、地上を這い回っている。もっとも多い普通種である。

キボシテントウダマシ *Mycetina amabilis*

キノコに見られ、各地に多い。

イカリモンテントウダマシ *Mycetina ancoriger*

朽木などに見られるが、多くはない。

2.1.8.18.18.4.テントウダマシ亜科

ルリテントウダマシ *Endomychus gorhami gorhami*

この仲間ではもっとも多い普通種。枯れ木に生えたキノコに見られる。

ヒラノクロテントウダマシ *Endomychus nigropiceus*

前種によく似ているが、青味はなく完全に黒い。あまり多くはない。

ウスグロテントウダマシ *Endomychus ohobayashii*

少ない種である。

2.1.8.18.18.5.ツヤヒメマキシム亜科

ツヤヒメマキシム *Holoparamesus signatus*

従来、独立した科、またはヒメマキシム科であったが、本科に含めるようになった。あまり多くない。

2.1.8.18.19. マルテントウダマシ科

ダエンテントウダマシ *Mychothenus asiaticus*

各地に見られるが、多くはない。

ヒメマルガタテントウダマシ *Dexialia minor*

少ない種である。

コマルガタテントウダマシ *Idiophyes niponensis*

あまり多くない

マルガタテントウダマシ *Bystodes orbicularis*

この仲間ではもっとも多く見られる普通種。朽木や樹皮下に多い。

2.1.8.18.20. テントウムシ科

2.1.8.18.20.1. メツブテントウムシ亜科

クロツヤテントウ *Serangium japonicum*

微小種だが、各地に多い。

クロジュウニホンシテントウ *Potina versicolor*

極めて稀な種らしく、県下では記載以来、採れていない。

ムツボシテントウ *Sticholotis punctata*

♂が見られないため、単為生殖をするらしい。平地にも見られる。

2.1.8.18.20.2. ヒメテントウムシ亜科

ハレヤマメテントウ *Pseudoscymnus hareja*

各地に普通に見られる。

クビアカヒメテントウ *Pseudoscymnus sylvaticus*

あまり多くない。

セスジヒメテントウ *Nephus patagiatus*

平地に多い種。次の記録は興味深い。

トビイロヒメテントウ *Scymnus paganus*

多くない種である。

カグヤヒメテントウ *Scymnus kaguyahime*

少ない種である。

ツマアカヒメテントウ *Scymnus dorcatomoides*

各地に普通に見られる。

クロヒメテントウ *Scymnus japonicus*

あまり多くない。

カワムラヒメテントウ *Scymnus kawamurai*

各地で普通である。

コクロヒメテントウ *Scymnus posticalis*

ヒメテントウの仲間ではもっとも多い種。

ニセツマアカヒメテントウ *Scymnus rectoides*

かなり多い種。

クロヘリヒメテントウ *Scymnus hoffmanni*

あまり多くはない。

カバイロヒメテントウ *Scymnus fuscatus*

本種もあまり多くはない。

ツマフタホシテントウ *Hyperaspis asiatica*

少ない種である。

フタホシテントウ *Hyperaspis japonica*

コナカイガラムシの天敵として知られる。各地に普通。

2.1.8.18.20.3.クチビルテントウムシ亜科

フタモンクロテントウ *Cryptognus orbiculus*

やや多い種。

ヨツボシテントウ *Phymatosternus lewisii*

各地に普通である。

ヒメアカホシテントウ *Chilocolus kuwanae*

平地に多い普通種。

2.1.8.18.20.4.ヒラタテントウムシ亜科

ベニヘリテントウ *Rodolia limbata*

この属ではもっとも多い。

アカイロテントウ *Rodolia concolor*

かなり少ない種である。

2.1.8.18.20.5.テントウムシ亜科

アイヌテントウ *Coccinella ainu*

河原などに生息しており、やや稀である。

ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata*

もっともポピュラーなテントウムシで、どこでも多い。

マクガタテントウ *Coccinella crotchii*

河原や荒れ地に多い種だが、記録は少ない。

ウスキホシテントウ *Oenopia hirayamai*

あまり多くない。

ヒメカメノコテントウ *Propylea japonica*

もっとも多い普通種。

シロトホシテントウ *Calvia deceemguttata*

各地に見られる普通種。

シロジウシホシテントウ *Calvia quatuordecimguttata*

各地に普通に見られる種だが、*ab.scutulata* Weise と呼ばれる黒地に黄紋のあるものもあり、これは少ない。鳥屋伊勢沢、札掛、秦野峠、八沢、加入道山、三国山の記録はこれに当たる。

ムーアシロホシテントウ *Calvia muii*

やや多い種である。

ジウロクホシテントウ *Soppida oblongoguttata*

かなり稀な種である。

ウンモンテントウ *Anatis halonis*

山地性の種であるが、多くはない。

ナミテントウ *Harmonia axyridis*

もつとも普通な種で、よく似たクリサキテントウとの区別は難しい。

ダンダラテントウ *Menochilus sexmachulatus*

南のほうに多い種で、県内では主に平地に見られるが、少ない。

カメノコテントウ *Aiolocaria hexaspilota*

大型で見事なテントウムシで、山地に多い。

キイロテントウ *Illus koebelei koebelei*

どこでも多い種。同定は極めて容易。

シロジュウロクホシテントウ *Halysia sedecimguttata*

山地性の種らしく、少ない。

2.1.8.18.20.6.マダラテントウムシ亜科

ニジュウヤホシテントウ *Epilachna vigintioctopunctata*

ジャガイモなどの害虫で普通であるが、次種よりはるかに少ない。

ルイヨウマダラテントウ *Epilachna yasutomii*

いわゆるオオニジュウヤホシテントウムシ群で、従来、オオニジュウヤホシテントウといわれていたものと思われる。次のものはとりあえずこの種に当てるが、真のオオニジュウヤホシテントウが生息しているかは筆者には分からない。

トホシテントウ *Epilachna admirabilis*

アマチャヅルやカラスウリなどを食害する。

2.1.8.18.21.ミジンムシダマシ科

クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus*

朽木などに多い普通種。落葉下でも得られる。

2.1.8.18.22.ヒメマキムシ科

ヒメマキムシ *Stephostethus chinensis*

もつとも普通に見られる種である。

ムナボソヒメマキムシ *Stephostethus angusticollis*

前種に比べて少ない。

ナカネケシマキムシ *Corticaria nakanei*

かなり珍しい種である。

ウスチャケシマキムシ *Corticaria gibbosa*

どこでも見られる。

ヤマトムシマキムシ *Melanophthalma japonica*

少ない種である。

2.1.8.18.23. ホソカタムシ科

2.1.8.18.23.1. ホソカタムシ亜科

ヒメナガセスジホソカタムシ *Bitoma niponia*

平地にも見られるが、少ない種である。

ツヤケシヒメホソカタムシ *Microprius opacus*

あまり多くない種である。

クロモンヒメヒラタホソカタムシ *Cicones niveus*

かなり稀な種である。

サシゲホソカタムシ *Neotrichus hispidus*

やや多い種。

ノコギリホソカタムシ *Endophloeus serratus*

枯れ木などに多い普通種。

ヒサゴホソカタムシ *Glyphocryptus brevicollis*

平地にも見られるが、多くはない。

ホソマダラホソカタムシ *Sympanotus pictus*

枯れ木に多い。

マダラホソカタムシ *Trachypholis variegatus*

ツヤナガヒラタホソカタムシ *Penthelispa vilis*

樹皮下などに多い。各地に普通に見られる。

2.1.8.18.23.2. ムキヒゲホソカタムシ亜科

サビマダラオオホソカタムシ *Dastarcus longulus*

やや大型の種で、かなり少ない。

2.1.8.18.24. デバヒラタムシ科

デバヒラタムシ *Prostomis latoris*

山地に多い。

ヒメデバヒラタムシ *Prostomis mordax*

2.1.8.18.25. コキノコムシ科

フタオビコキノコムシ *Triphylloides seriatus*

少ない種である。

コモンヒメコキノコムシ *Litargus japonicus*

あまり多くない。

マダラヒメコキノコムシ *Litargops maculosus*

本種も多くない。

ヒゲブトコキノコムシ *Mycetophagus antennatus*

各地に見られる。

クロコキノコムシ *Mycetophagus ater*

この仲間ではもっとも多く、朽木やキノコなどに普通。

コマダラコキノコムシ *Mycetophagus pustulosus*

ナミモンコキノコムシ *Mycetophagus undulatus*

オオコキノコムシ *Mycetophagus grandis*

あまり多くない。

ヒレルコキノコムシ *Mycetophagus hillerianus*

アカバヒゲボソコキノコムシ *Parabaptistes reitteri*

朽木や枯れ木などをたたくと落ちてくる。各地に多い普通種。

ウスグロヒゲボソコキノコムシ *Parabaptistes lewisi*

チャイロヒゲボソコキノコムシ *Parabaptistes irregularis*

2.1.8.18.26. ツツキノコムシ科

ダルマツツキノコムシ *Nippnonapterocis brevis*

カワウソタケなどに見られるが、かなり少ない種である。

オオツツキノコムシ *Cis boleti polypori*

平地から山地にかけて、種々のキノコに見られる。もっとも多い普通種である。

ミヤマツツキノコムシ *Cis niponicus*

ハバビロツツキノコムシ *Cis brevipennis*

Cis rufocastaneus Nakane et Nobuchi, 1955

どういわけか和名がない。少ない種と思われる。

ゴマフツツキノコムシ *Cis hieroglyphicus*

あまり多くない種である。

ミツウナツツキノコムシ *Cis seritulus*

カワラタケなどに見られる。

コウノツツキノコムシ *Cis konoi*

神奈川県未記録種である。

ニッコウツツキノコムシ *Cis nikkoensis*

少ない種と思われる。

フタツノツツキノコムシ *Euxestocis bicornutus*

マダラツツキノコムシ *Orthocis ornatus*

平地に普通に見られる。

フタツノツツキノコムシ *Neoenearthron bicarinatum*

カワウソタケなどに見られるが、少ない。

クロエグリツツキノコムシ *Eunearthron mohrii*

チュウジョウエグリツツキノコムシ *Eunearthron chujoi*

各地に多い普通種。

ミツノツツキノコムシ *Odontocis denticollis*

ツヤツツキノコムシ *Octotemnus laminifrons*

ツツキノコの中ではもっとも多い普通種。

カタキバツツキノコムシ *Octotemnus japonicus*

ヒメツヤツツキノコムシ *Octotemnus parvulus*

オオツヤツツキノコムシ *Octotemnus glabriculus*

2.1.8.18.27. キノコムシダマシ科

2.1.8.18.27.1. コキノコムシダマシ亜科

クロコキノコムシダマシ *Pisenus rufitarsis*

あまり多くない種である。

アカバコキノコムシダマシ *Pisenus insignis*

枯れ枝などをたたくと落ちてくる。各地に見られる普通種である。

2.1.8.18.27.2. キノコムシダマシ亜科

マダラキノコムシダマシ *Abstrulia japonica*

やや少ない種である。

キムネキノコムシダマシ *Tetratoma nobuchii*

かなり少ない種である。

2.1.8.18.27.3. モンキナガクチ亜科

モンキナガクチキムシ *Penthe japana*

やや大型の甲虫で、同定は容易。朽木などに多い。

2.1.8.18.28. ナガクチキムシ科

2.1.8.18.28.1. ニセハナノミ亜科

カツオガタナガクチキ *Synstrophus macrophthalmus*

各地にもっとも多く見られる。樹皮下で越冬する。

ミヤマヒメナガクチキムシ *Hallomenus nipponicus*

アヤモンヒメナガクチキ *Holostrophus orientalis*

ヨツボシヒメナガクチキ *Holostrophus lewisi*

山地に普通である。

アヤモンニセハナノミ *Orchesia elegantula*

本種も各地に普通に見られる。本属のものはその名の通りノミのように跳ねる。

アカオビニセハナノミ *Orchesia imitans*

マルモンニセハナノミ *Orchesia diversenotata*

この仲間ではもっとも少ない種である。

コイチャニセハナノミ *Orchesia marseuli*

少ない種である。

カバイロニセハナノミ *Orchesia ocularis*

山地に多い。

チビノミナガクチキ *Lederia japonica*

この属はいずれも落葉下に生息し、ノミのように跳ねる微小種である。本種は山梨県などには多いようなので、山地で得られるはず。

2.1.8.18.28.2.ナガクチキムシ亜科

ミツボシホソナガクチキ *Abdera trisignata*

一見ナガクチキに見えない種で、平地に生息するが、あまり多いものではない。

ミスジナガクチキ *Stenoxylita trialbofasciata*

山地性の美麗種で、珍しい。

ヒロイホソナガクチキ *Dapsiloderus nomurai*

美麗種の代表格で稀である。

ムソモンナガクチキ *Dircaeomorpha validicornis*

本種も奇麗な紋があり、美しい。かなり少ないようだ。

フタオビホソナガクチキ *Dircaea erotyloides*

山地性の種で、枯れ木などで得られる。しばしばライトトラップに飛来する。

キオビホソナガクチキ *Phloeotrya flavitarsis*

山地に多く見られる。

コモンホソナガクチキ *Phloeotrya trisignata*

山地に見られるがあまり多くはない。

オオクロホソナガクチキ *Phloeotrya bellicosa*

ナガクチキでは最大の種で山地に多い。

クロホソナガクチキ *Phloeotrya rugicollis*

平地から山地かけて多く見られる。

ビロウドホソナガクチキ *Phloeotrya obscura*

本属ではもっとも多い種。平地から低山にかけて見られる。

モモキホソナガクチキ *Phloeotrinus femoralis*

やや山地性で、それほど多くはない。

カタクボホソナガクチキ *Phloeotrynus filiformis*

チビホソナガクチキ *P. parvula*(Lewis)とされていたもので、水野(1992)により和名ごと変更になった。あまり多い種ではない。

コメツキガタナガクチキ *enchodes crepusculus*

県内未記録種。少ない種である。

ヒメホソナガクチキ *Serropalopus* sp.

本種は *Phloeotrinitis filiformis* (Marseul) の学名で報告したが、水野(1992)によれば本種には名前がついていないという。

キスジナガクチキ *Mikadonius gracilis*

他県では多いようだが、神奈川県ではかなり少ないようだ。

ミヤケヒメナガクチキ *Symphora miyakei miykei*

あまり多い種ではない。

ヨツボシキバネナガクチキ *Stolius vagepictus*

一見ナガクチキには見えないが、同定は容易。

カタアカナガクチキ *Hira humerosignata*

少ない種である。

ムナクボナガクチキ *Euryzilora lividipennis*

筆者はライト・トップで得た。かなり少ない種であるらしい。

ヨツモンホソナガクチキムシ *Spilotus uninotata*

ネアカツツナガクチキ *Hypulus cingulatus*

美しい種で、山地に見られるが、少ない種である。

ヒゴツツナガクチキ *Hypulus higonius*

従来、次種と混同していたようで、次の記録の内、檜洞丸以外は次種として記録したもので、訂正済み。

トゲムネツツナガクチキ *Hypulus actangulus*

現在まで、箱根では得られておらず、丹沢の山地帯のみに生息し、あまり多くない。

ムネアカナガクチキ *Phryganophilus ruficollis rosti*

かなり稀な種で、記録は1例のみ。

ボウズナガクチキ *Bonzicus hypocrita*

腿節の先端が黄色くて、極めて印象的な種。あまり多くない。

セアカナガクチキ *Ivania coccinea*

赤いナガクチキで、同定は容易。それほど多いものではない。

ミゾバネナガクチキ *Melandrya modesta*

山地性の種だが多いものではない。

オオナガクチキ *Melandrya duvia niponica*

山地性の種で少ない。

アオバナナガクチキ *Melandrya rufipes gloriosa*

ピカピカに光る美麗種で、この属のものとしては多いものだが、朽木上を極めて活発に動き回るので、採りにくい。

クロナガクチキ *Prothalia atricolor*

本種も山地性の種で多くない。

ヘリアカナガクチキ *Prothalpia ordinaria*

本種も山地性の種で少ない。

アカモンナガクチキ *Prothalpia rufonotata*

記録は次のものだけで、少ない種である。

ウスモンナガクチキ *Eumelandrya obsoletomaculata*

山地に見られるが、あまり多くはない種である。

2.1.8.18.28.3.アオオビナガクチキムシ亜科

アオオビナガクチキ *Osphyra orientalis*

ナガクチキとしては特異な生態で、おもにクリの花などに集まる。

2.1.8.18.29.ハナノミ科

2.1.8.18.30.オオハナノミ科

2.1.8.18.31.ヒラタナガクチキムシ科

ヒメコメツキガタナガクチキ *Synchroa melanotoides*

低山から山地にかけて普通である。朽木などに多く、夜間、樹上を這い回っている。

2.1.8.18.32.クビナガムシ科

クビナガムシ *Cephaloon pallens*

成虫は花に集まる。各地に普通である。

クビカクシナガクチキ *Scotodes niponicus*

山地より平地に多く見られる。

ツメホソクビナガムシ *Stenocephaloon metallicum*

山地性の珍しい種で、少ない。幼虫がブナより発見されたのは興味深い。

2.1.8.18.33.カミキリモドキ科

2.1.8.18.34.アカハネムシ科

2.1.8.18.34.1.ヘリハネムシ亜科

キスジヘリハネムシ *Ischalia luteolineata*

珍しい種で、次のものが県内結一の記録。

2.1.8.18.34.2.アカハネムシ亜科

オカモトツヤアナハネムシ *Tosadendoroides okamotoi*

本種も極めて珍しい種である。

クシヒゲビロウドムシ *Pseudodendroides ocularis*

山地性の種で多くない。神奈川県新記録である。

オオクシヒゲビロウドムシ *Pseudodendroides niponensis*

あまり多くはない。

ムネアカクロアカハネムシ *Pseudopyrochroa atripennis*

同定は極めて容易。各地に普通である。

ムナビロアカハネムシ *Pseudopyrochroa laticollis*

アカハネの中ではもっとも多い種である。

ミゾアカハネムシ *Pseudopyrochroa brevitarsis*

ムナグロオニアカハネムシ *Pseudopyrochroa flavilabris*

かなり少ない種である。

オニアカハネムシ *Pseudopyrochroa japonica*

雄の頭部に鬼の角状の突起があり、おもしろい形態をしている。各地に普通に見られる。

ウスイロアカハネムシ *Pseudopyrochroa peculiaris*

あまり多くはない。

ヒメアカハネムシ *Pseudopyrochroa rufula*

少ない種である。

アカハネムシ *Pseudopyrochroa vestiflua*

各地に普通の種である。

2.1.8.18.35. アリモドキ科

2.1.8.18.35.1. オクビボソムシ亜科

ケナガクビホソムシ *Neostereopalpus niponicus*

大型の種で、山地にはかなり見られる。平地での記録は少ないようである。

オオクビボソムシ *Stereopalpus gigas*

県内では次の記録しかない少ない種である。

2.1.8.18.35.2. クビボソムシ亜科

ヒゲナガクビボソムシ *Macratia antennalis*

本種は箱根の仙石原ではかなり見られるが、丹沢からの採集例は少ない。全国的には珍しい種であるらしい。

2.1.8.18.35.3. アリモドキ亜科

クロスジイッカク *Notoxus haagi haagi*

胸に大きな突起がある顕著な、水らしい種で、県内の記録も少ない。

クロチビアリモドキ *Anthicomorphus niponicus niponicus*

山地にかなり見られる。

ヘリアカアリモドキ *Anthicomorphus suturalis*

やや大型の美麗種で、同定は容易。山地でしばしば得られる。

ツヤチビホソアリモドキ *Anthicus laevipennis*

各地に見られるが、そう多くはない。

ウスモンホソアリモドキ *Anthicus confucii confucii*

クロホシホソアリモドキ *Sapintus litorosus*

この仲間ではやや大きく美しい種である。最近やっと採集できた。少ないものらしい。

アカモンホソアリモドキ *Sapintus marseuli*

各地に普通に見られる。

ムナグロホソアリモドキ *Sapintus cohaeres*

本種も各地に多い。

2.1.8.18.36. ニセクビボソムシ科

マダラニセクビボソムシ *Phytobaenus amabilis*

あまり多くはない。

クシヒゲニセクビボソムシ *Picemilinus flabellicornis*

触角が櫛ひげ状をしていて、同定は容易。少ない種のようなのだ。

アシマガリニセクビボソムシ *Pseudolotelus distortus*

♂は中脛節に特徴があるので分かりやすいが、♀は田の種と粉らわしい。少ない種である。

セグロニセクビボソムシ *Syzeton brunnidorsis*

あまり多くない。

2.1.8.18.37. ツチハンミョウ科

2.1.8.18.37.1. ツチハンミョウ亜科

マメハンミョウ *Epicauta gorhami*

幼虫はイナゴやフキバッタ類の卵塊などに寄生する。以前は畑などによく見られたが、最近では全く見られなくなった。県絶滅危惧種である。

ヒメツチハンミョウ *Meloe coarctatus*

幼虫はハナバチ類の巣に寄生する。成虫は秋に出現し、土中で越冬し翌年の春から現れ、交尾産卵する。

マルクビチハンミョウ *Meloe corvinus*

本種もハナバチ類に寄生する。成虫は早春より初夏にかけて出現する。

メノコツチハンミョウ *Meloe menoko*

ハナバナ類の巣に寄生する。成虫は晩秋のみに見られる。

2.1.8.18.37.2. ゲンセイ亜科

キイロゲンセイ *Zonitis japonica*

低山から山地にかけて多い種で、灯火によく集まる。幼虫はオオハキリバチなどのハナバチ類の巣に寄生する。

ツマグロキゲンセイ *Zonitis cothurnata cothurnata*

平地に生息する珍しい種である。生態は前種とほぼ同様と推定されている。

2.1.8.18.38.ハナノミダマシ科

2.1.8.18.39.チビキカワムシ科

2.1.8.18.39.1.ノコギリチビキカワムシ亜科

ツヤチビキカワムシ *Lissodema laevipenne*

チビキカワムシの中ではもっとも多い普通種。

クイロチビキカワムシ *Lissodema dentatum*

コチビキカワムシ *Lissodema minutum*

フタオビチビキカワムシ *Lissodema pictipenne*

ヒトオビチビキカワムシ *Lissodema plagiatum*

県内未記録種。山地性の種と思われる。

カドムネチビキカワムシ *Lissodema validicorne*

ヒゲホソチビキカワムシ *Lissodema tomaroides*

ニホンチビキカワムシ *Lissodema japonicum*

2.1.8.18.39.2.チビキカワムシ亜科

マルムネチビキカワムシ *Sphaeriestes niponicus*

各地に多い。

2.1.8.18.39.3.ハネカクシダマシ亜科

モンシロハネカクシダマシ *Inopeplus quadrinotatus*

朽木などに見られるが、少ない種である。山地より平地に多く、しばしば灯火に飛来する。

2.1.8.18.39.4.ヒラタクチキムシ亜科

ヒラタクチキムシダマシ *Prostominia lewisi*

あまり多い種ではない。枯枝をたたくと落ちてくる。

2.1.8.18.39.5.クチキムシダマシ亜科

ヒメクチキムシダマシ *Elacatis oculaaris*

やや少ない種である。

オオクチギシダマシ *Elacatis kraatzi*

各地に普通に見られる。

2.1.8.18.40.コブゴミムシダマシ科

アトコブゴミムシダマシ *Phellopsis suberea*

県内未記録種。山地性の種で、朽木に見られる。

2.1.8.18.41.ハムシダマシ科

2.1.8.18.41.1.ハムシダマシ亜科

ニセハムシダマシ *Lagria babai*

今まで、次種と混同しており、過去の記録は再検討する必要がある。筆者の標本 20 数頭中には本種は含まれていなかったが、浜口哲一氏採集品の中に1♀があった。県新記録である。

ハムシダマシ *Lagria rufipennis*

もつとも多い普通種。

アオハムシダマシ *Arthromacra decora*

種々の花に集まる普通種である。通常、金緑色をしているが、赤味のかかったものなど変異がある。Lewis の記録は *A. viridissima* Lewis としてのもの。

ナガハムシダマシ *Macrolagria rufbrunnea*

本種も花などに集まる普通種。

クロケブカハムシダマシ *Marcolatria robustices*

県内で、初めて記録される。前種に比べてかなり少ない。

ツヤナガハムシダマシ *Macrolagria hirsuta*

県内未記録種。

2.1.8.18.41.2.チビヒサゴミムシダマシ亜科

アラメヒゲブトハムシダマシ *Luprops cribrifrons*

次種に比べてかなり少ない。成虫で越冬する。

ヒゲブトハムシダマシ *Luprops orientalis*

枯枝に普通に見られる。

2.1.8.18.42.クチキムシ科

2.1.8.18.42.1.クチキムシ亜科

オオクチキムシ *Alleculea fuliginosa*

大型の種でこの仲間ではもつとも多く、各地に普通である。

ホソオオクチキムシ *Alleculea cryptomeriae*

全種によく似ているが、山地性の種らしく、少ない。

ヒメオオクチキムシ *Alleculea nipponica*

かなり少ない種である。

クチキムシ *Alleculea melanaria*

各地に多い普通種である。

Alleculea ontakenisis Maeda et Nakane, 1988

和名がなく、かなり少ない種のような。

アオバクチキムシ *Alleculea aeneipennis*

ウスイロクチキムシ *Alleculea simiola*

ホソアカクチキムシ *Alleculea tenuis*

少ない種である。

クリイロクチキムシ *Borboresthes acicularis*

クロホシクチキムシ *Pseudocistela haagi*

同定は容易だが、かなり稀である。

フナガタクチキムシ *Lsomira oculata*

あまり多くはない。

アカバネツヤクチキムシ *Hymenalia rufipennis*

次種より少ないが、稀ではない。

クロツヤバネクチキムシ *Hymenalia unicolor*

各地に普通である。

ヨツボシヒメクチキムシ *Mycetochara collina*

かなり少ない種である。

ムネアカヒメクチキムシ *Mycetochara scutellaris*

前種によく似た種で、次のものが唯一の記録である。

2.1.8.18.43. ゴミムシダマシ科

2.1.8.18.43.1. スナゴミムシダマシ亜科

スナゴミムシダマシ *Gonocephalum japanum*

この属の種はいずれも砂地に生息するもので、海岸でも得られる。本種はこの仲間ではもっとも多い種である。

コスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coriacerum*

河川や海岸の砂地に多い。

ヒメスナゴミムシダマシ *Gonocephalum persimile*

河原などの砂地に多い。

ホスナゴミムシダマシ *Gonocephalum sexuale*

河川などの砂地に生息するが、多いのではない。

カクスナゴミムシダマシ *Gonocephalum reticulatum*

2.1.8.18.43.2. カブトゴミムシダマシ亜科

クビカクシゴミムシダマシ *Dicraeosia bacillus*

平地に産するが、少ない種である。しばしば落葉下から得られる。

クワガタゴミムシダマシ *Atasthalomorpha dentifrons*

腐ったサルノコシカケ類によく見られる

コブスジツノゴミムシダマシ *Boletoxenus bellicosus*

本種もサルノコシカケなどのキノコに多く見られる。

ニセコブスジツノゴミムシダマシ *Boletoxenus incurvatus*

サルノコシカケ類に見られるが前種よりかなり少ない。

2.1.8.18.43.3.キノコゴミムシダマシ亜科

モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi* Iwisi

キノコに見られ、山地より平地に多い。

オオモンキゴミムシダマシ *Diaperis niponensis*

山地にサルノコシカケ類に見られるが、少ない種である。

フタモンツヤゴミムシダマシ *Scaphidema ornatellum*

朽木に多い普通種。

ウスモンツヤゴミムシダマシ *Scaphidema discale*

本種も山地に多く、前種よりはるかに多く見られる。

オオキメキノコゴミムシダマシ *Platydema lynceum*

横浜が基準産地であるが、平地ではほとんど採集できない。どちらかと云えば少ない種である。

マルツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema kurama*

山地の枯木や朽木から得られる。

クロツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema nigroaeneum*

本属の中では多い種で山地の朽木やキノコなどから普通に採集できる。

アオツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema marseuli*

本属の中ではもっとも普通の種で、平地に多い。

チビキノコゴミムシダマシ *Platydema sylvestre*

山地に見られるが、やや少ない種である。

ツノボソキノコゴミムシダマシ *Platydema recticorne*

各地に普通に産する。

ヒラツノキノコゴミムシダマシ *Ischnodactylus paralelicornis*

かなり少ない種で、朽木に発生するキノコに見られる。

ヨツボシゴミムシダマシ *Basanus erotyloides*

山地の朽木に多く見られる。

ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta*

平地から低山地にかけて、松の朽木などに極めて普通に見られる種である。

2.1.8.18.43.4.テントウゴミムシダマシ亜科

クロホシテントウゴミムシダマシ *Derispia maculipennis*

朽木などに見られるが、少ない。

ニセクロホシテントウゴミムシダマシ *Derispis japonicola*

前種と同様、朽木、キノコなどにも集まるが、本種の方が多い。

クロテントウゴミムシダマシ *Leiochrodes convexus*

少ない種で、落葉下から発見される。

キイロテントウゴミムシダマシ *Leiochrodes masidai*

河川敷などに多いようで、洪水の時などでも得られるが、一般的には少ない。

2.1.8.18.43.5.ヒラタゴミムシダマシ亜科

ムネミヅヒラタゴミムシダマシ *Clamoris canalicollis*

堂平では、ブナなどの倒木からかなり採集できるが、他では得たことがない。

2.1.8.18.43.6.エグリゴミムシダマシ亜科

コクヌストモドキ *Tribolium castaneum*

屋内害虫だが、野外でも得られる。

ヒラタコクヌストモドキ *Tribolium confusum*

ブナの枯枝から得られたのは興味深い。

モトヨツコブゴミムシダマシ *Uloma bonzica*

以前ヨツコブゴミムシダマシと云われていた種で、松の朽木などにごく普通である。一ノ沢の記録は単にヨツコブゴミムシダマシとされていて学名がないが、本種とした。

エグリゴミムシダマシ *Uloma marseuli marseuli*

松の朽木などに極めて普通である。

ヒコサンヨツコブゴミムシダマシ *Uloma hikosana*

本属の中では少ない種である。

ガイマイゴミムシダマシ *Alphitobius diaperinus*

鶏小屋などに発生する。しばしば灯火にも来る。

クロホソゴミムシダマシ *Hypophloeus colydioides*

山地の朽木などに多い普通種。

2.1.8.18.43.7.ゴミムシダマシ亜科

ヨツノゴミムシダマシ *Toxicum tricornutum*

平地から山地にかけて、朽木などに極めて普通である。

ヒメツノゴミムシダマシ *Cryphaeus duellius*

かなり少ない種のような。

コツヤホソゴミムシダマシ *Menophilus lucans*

あまり多くない

ルリゴミムシダマシ *Encyalesthus violaceipennis*

朽木などに見られるが、少ない種である。

オオユミアシゴミムシダマシ *Promethis insomnis*

北方系の種と思われ、次の記録だけの珍しいものである。

ヒメユミアシゴミムシダマシ *Promethis noctivigila*

本種も山地に見られ、稀なものである。

ユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgipes*

最近、記録されたが、何故少ないのかわからない。どちらかと云うと平地に多いと思うのだが、大型の種なので、環境に弱い可能正も考えられる。

2.1.8.18.43.8.ニジゴミムシダマシ亜科

マルツヤニジゴミムシダマシ *Addia scatebrae*

山地に産するが、少ない種である。犬越路ではライトトップに飛来した。

ニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus lunuliger lunuliger*

平地から山地にかけて、菌類、朽木などに多い。大きさにかなりの大小がある。

ルリツヤヒメキマワリモドキ *Simalura coerulea*

平地から低山に見られるが、稀である。

クロルリゴミムシダマシ *Metaclisa atrocyanea*

山地に見られるが少ないもので、次の記録しかない。

ズビロキマワリモドキ *Gnesis helopioides helopioides*

分布域が南の方にある種で、県内では海岸に近いところで、枯木や朽木から得られている。丹沢では少なく、珍しい記録である。

2.1.8.18.43.9.マルクビゴミムシダマシ亜科

Tarpela lewisi Masumoto, 1993

最近、記載された種で、箱根駒ヶ岳のものがホロタイプになっている。従来、本属は同定が難しく特に♀は分かりにくかったが、整理されて分りやすくなった。本種はかなり広範囲に分布しているものと思われる。♂は少ないが、秋に多く採れるようである。

ヒメマルネゴミムシダマシ *Tarpela elegantula*

前種に比較して少ない。枯木などから見つかる。

マルムネゴミムシダマシ *Tarpela cordicollis*

♂は同定が容易だが、個体数は少ない。

2.1.8.18.43.10.ヒサゴゴミムシダマシ亜科

ヒサゴゴミムシダマシ *Misolampidius rugipennis*

山地の朽木などに見られるが、少ない。

ツヤヒサゴゴミムシダマシ *Misolampidius okumurai*

前種よりはるかに多いが、山地のみに生息している。

2.1.8.18.43.11.キマワリ亜科

コマルキマワリ *Elixota curva*

平地から山地にかけて朽木や枯木に普通に見られる。樹皮下などで成虫越冬する。

ヒメキマワリ *Plesiophthalmus laevicollis*

かなり少ない種である。

キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus*

各地に極めて普通に見られる。越冬は幼虫で行われるようで、成虫は 4～5 月に出現する。

2.1.8.18.43.12.ナガキマワリ亜科

クロナガキマワリ *Strongylium noponicum*

山地の朽木などによく見られる。

ヒメナガキマワリ *Strongylium impigrum*

本種も山地の朽木や枯木に多い。

ウスイロゴミムシダマシ *Strongylium brevicorne*

あまり多くはない。

セコブナガキマワリ *Strongylium gibbosipenne*

かなり珍しい種である。

ホソヒゲナガキマワリ *Ainu tenicornis*

あまり多くはない。

2.1.8.18.43.13.スジコガシラゴミムシダマシ亜科

スジコガシラゴミムシダマシ *Heterotarus carinula*

所属が不安定で、ハムシダマシに含まれていたこともある。

2.1.8.19.ハムシ上科

2.1.8.19.1.ホソカミキリムシ科

2.1.8.19.2.カミキリムシ科

2.1.8.19.3.ハムシ科

2.1.8.19.3.1.ナガハムシ亜科

クロナガハム *Orsodacne arakii*

塔ノ岳からオバケ沢が基準産地のハムシで、山地の花に集まっている。箱根では見たことがない。

2.1.8.19.3.2.モモデトハムシ亜科

ワモンナガハムシ *Zeugophora annulata*

この属ではもっとも多く、山地のマユミに普通見られる。

ムナグムナガハムシ *Zeugophora bicolor*

あまり多くない。

クロホシモモブトハムシ *Zeugophora chujoi*

全国的には極稀種に属するが、箱根、丹沢では、それほど稀ではない。マユミを食うと思われる。

オビモンナガハムシ *Zeugophora unifasciata*

マユミを食うが、少ない。

2.1.8.19.3.3. マメゾウムシ亜科

エンドウゾウムシ *Bruchus pisorum*

エンドウの害虫だが、少ない。

ソラマメゾウムシ *Bruchus rufimanus*

ソラマメの害虫で、前種とともにコスモポリタンな種類である。

サムライマメゾウムシ *Bruchidius japonicus*

従来、別種とされていたシロモンマメゾウムシ、キアシマメゾウムシは本種の同物異名。ヤマハギなどに見られ、多くはない。

ヒゲナガマメゾウムシ *Bruchidius lautus*

草原に多く、クサフジなどに見られる。

ネムノキマメゾウムシ *Bruchidius terreus*

ニセアカシア、ネムノキに見られる。

シリアカマメゾウムシ *Bruchidius urdanus*

本種もニセアカシアの種子を食う。

チャバラマメゾウムシ *Callosobruchus ademptus*

幼虫はクズを食うという。しばしば種々の花に集まる。

2.1.8.19.3.4. ネムクイハムシ亜科

イネネクイハムシ *Donacia provostii*

湿地や池に生息し、ヒツジグサ、ジュンサイ、ヒシなどを食う。県内では少ない。

スゲハムシ *Plateumaris sericea*

本種も湿地のスゲ類見られる。

2.1.8.19.3.5. クビボソハムシ亜科

ルイスクビナガハムシ *Lilioceris lewisi*

マイヅルソウ、ナルコユリなどに見られる山地性の美麗種で、少ない。

ホソクビナガハムシ *Lilioceris parvicollis*

サルトリイバラに多い。

キイロクビナガハムシ *Lilioceris rugata*

ヤマイモの葉に多く見られる。

アカクビナガハムシ *Lilioceris subpolita*

サルトリイバラやシオデに見られるが、多くはない。

ルリクビボソハムシ *Lema cirsicola*

この仲間では多い種で、各地のアザミ類に普通に見られる。三国山付近では黒化した個体が多い。

アカクビボソハムシ *Lema diversa*

平地に多い種で、ツユクサに見られる。

スゲクビボソハムシ *Lema dilecta*

湿地など見られるが、少ない。食草はイボクサなど。

キベリクビボソハムシ *Lema adamsii*

ヤマイモの葉上に見られるが、少ない。

ヤマイモハムシ *Lema honorata*

ヤマイモに多い普通種。

トホシクビボソハムシ *Lema decempunctata*

クコの葉上に多く見られる。黒紋があるものやないものなど斑紋変化がある。

アワクビボソハムシ *Oulema dilutipes*

本種は初めキアシクビボソハムシとして記録したが、すでに訂正(1977)済み、食草はエノコムグサなど。

2.1.8.19.3.6.ナガツツハムシ亜科

ヨツボシナガツツハムシ *Clytra arida*

三国峠ではハギの仲間に多い。

キボシルリハムシ *Smaragdina aurita*

イタドリ、ハギ、ヤナギなど種々の葉上に多い。

ムナキルリツツハムシ *Smaragdina semiaurantiaca*

どちらかというと平地に多い普通種。

2.1.8.19.3.7.ツツハムシ亜科

ハギツツハムシ *Pachybrachis eruditus*

その名が示すようにハギ類に多い。

タマツツハムシ *Adiscus lewisii*

クヌギ、コナラなどに多く、クリの花にも来る。

バラルリツツハムシ *Cryptocephalus approximatus*

種々の葉上に多く、ツツハムシの中ではもっとも多い普通種。

ルリツツハムシ *Cryptocephalus aeneoblitus*

前種に極めてよく似ており、交尾器を見ないと同定は困難である。前種の中に含まれている可能性もなくはない。

ヤツボシツツハムシ *Cryptocephalus japanus*

クヌギ、コナラ、クリなど種々の葉を食う。あまり多くはない。

ツマキクロツツハムシ *Cryptocephalus difformis*

県内未記録種。稀な種である。

クロボシツツハムシ *Cryptocephalus signaticeps*

種々の葉上に多い普通種。

ヨツモンクロツツハムシ *Cryptocephalus nobilis*

各地の雑木林に見られるが少ない。

セスジツツハムシ *Cryptocephalus parvulus*

ハンノキ、シデ、ナラなどを食草とするが、多くはない。

チビルリツツハムシ *Cryptocephalus confusus*

コナラに多く見られる。

キアシチビツツハムシ *Cryptocephalus amicus*

マルバハギ、コナラなどを食草とするが、多くはない。

ハコネチビツツハムシ *Cryptocephalus hakonensis*

箱根の仙石原の標本をもとに記載された種で、その後の報告は次のものが唯一の記録。

タテスジキツツハムシ *Cryptocephalus nigrofasciatus*

あまり多くはない種で、食草はヤマハギ、ハシバミ、ヤナギ類。

カシワツツハムシ *Cryptocephalus scitulus*

クヌギ、ミズナラなどに多い普通種。

2.1.8.19.3.8.コブハムシ亜科

ムシクソハムシ *Chlamisus spilotus*

この仲間ではもっとも多い種で、クヌギやコナラなどに見られる。その名が示すとおり、ある種の虫の糞によく似た形態を持っている。

ハバビロコブハムシ *Chlamisus japonicus*

かなり少ない種である。

ミズキコブハムシ *Chlamisus interjectus*

その名の通りミズキに見られるが、多い種ではない。

ツツジコブハムシ *Chlamisus laticollis*

ツツジ類に普通。葉の先端によくとまっているのを観察できる。

ヒメコブハムシ *Chlamisus diminutus*

県内未記録種。

カシワコブハムシ *Chlamisus diminutus*

カシワなどに見られるが、県内では稀な種である。

2.1.8.19.3.9.ツヤハムシ亜科

ドウガネツヤハムシ *Oomorphoides cupreatus*

タラノキに普通に見られる。青色と銅色との2型がある。

アオグロツヤハムシ *Oomorphoides nigrocaeruleus*

本種もタラノキなどに見られるが、かなり少ない。

ヒメツヤハムシ *Oonorhynchus japonus*

前2種より一回り小さい種で、ツワブキに見られるが、少ない。

2.1.8.19.3.10.サルハムシ亜科

ウスイロサルハムシ *Basilepta pallidula*

あまり多い種ではない。食草はマツ、スギ、クヌギ、ナラなど。

チャイロサルハムシ *Basilepta balyi*

サルハムシの仲間ではもっとも多い種で、ハナノキなどに普通に見られる。色彩は変化に富み、黒くなるものがある。

アオバネサルハムシ *Basilepta jflvipes*

ヨモギに多く見られる普通種。色彩は変化に富み、青、緑、赤、黄など多彩である。

ムネアカサルハムシ *Basilepta ruficollis*

多彩は安定しており、前胸背が赤褐色を呈している。それほど多くはない。

ムナゲサルハムシ *Basilepta hirticollis*

食草はイヌツゲだが少ない種である。

ヒメキバネサルハムシ *Pagria signata*

本種も色彩、斑紋が変化に富み、全体が真っ黒なものもある。

イモサルハムシ *Colasposoma dauricum*

サチマイモ、ヒルカムオなどに見られるが、最近、少なくなった。

ドウガネサルハムシ *Scelodonta lewisii*

ノブドウなどに見られるが、少ない種である。

トビサルハムシ *Trichochrysea japana japana*

ナラ、クヌギ、クリなどに見られ、各地に多い。

クロオビカサハラハムシ *Hyperaxia fasciata*

カシワ類などに見られる普通種。

マダラアラゲサルハムシ *Demotina fasciculata*

カシ類に多く、平地に普通である。

カサハラハムシ *Demotina modesta*

キカサハラハムシ *Xanthonia placida*

あまり多くはない。

アカガネサルハムシ *Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchi*

金赤緑色に輝く美麗種で、ノブドウに多い。

リンゴコフキハムシ *Lypesthes ater*

ウメ、クルミ、リンゴ、ナシなどを食害する。白い粉をつけた個体も見られる。

2.1.8.19.3.11.ホソハムシ亜科

カバノキハムシ *Syneta sdamsi*

山地に普通の種である。食草はカンバ、シデ、ブナ、ナラなど。

2.1.8.19.3.12.ハムシ亜科

ヤナギルリハムシ *Plagiodera versicolora*

各種のヤナギに極めて多い。

コガタルリハムシ *Gastrophysa atrocyanea*

ギンギンに多い種で、平地に普通。

ニッコウルリハムシ *Chrysolina nikkoensis*

非常に稀で、次のものが唯一の記録。県の絶滅危惧種である。

ヨモギハムシ *Chrysolina aurichalcea*

その名の通り、ヨモギに見られ、各地に極めて普通。青色と銅色のものとある。

ハッカハムシ *Chrysolina exanthematica*

ハッカの仲間に見られ、多くない。

ルリハムシ *Linnaea aenea aenea*

ハンノキ類に極めて多い普通種。通常、金緑色だが、時に赤味を帯びる個体も見られる。

ドロノキハムシ *Chrysomela populi*

県の絶滅危惧種。かつては平地にも生息していたが、最近では山地でも全く報告がない。食草はドロノキ、ヤマナラシ、ヤナギ類など。

クルミハムシ *Gastrolina depressa*

その名の通り、クルミを食害する。

ミヤマヒラタハムシ *Gastrolina peltoidea*

ヤマハンノキなどに多く見られる。丹沢では普通だが、不思議なことに箱根では得られていない。

ズグロキハムシ *Gastrolinoides japonicus*

食草はシデ類、トサミズキ類で、あまり多くない。

フジハムシ *Gonioctena rubripennis*

この仲間ではもっとも多い種で、各地のフジに多数見られる。

ヤツボシハムシ *Gonioctena nigropilata*

エノキに見られる。色彩は変化に富んでおり、黒いものが無紋に近いものまである。

トホシハムシ *Gonioctena japonica*

山地のハンノキ類に見られる。蛭ヶ岳産は *G.sibirica* Weise として記録したが、本種であったことはすでに訂正済み。

ヒラノトホシハムシ *Gonioctena hiranoi*

本種も山地のハンノキ類に見られるが、やや少ない。ヤツビ峠からヒメトホシハム

シとして記録したものは本種の誤りであったことはすでに訂正済み。

サクラムジハムシ *Gonicotena morinotoi*

山地のナナカマドに見られるが、少ない

2.1.8.19.3.13.ヒゲナガハムシ亜科

ズグロアラメハムシ *Lochmaea capreae*

ヤナギ類に多く見られる。丹沢では普通であるが、箱根では発見されていない。

アザミオオハムシ *Galeruca vicina*

夏から秋にかけてアザミ類の葉上に多い。

スジグロオオハムシ *Galeruca spectabilis*

珍しい種で、記録も少ない。

イチゴハムシ *Galerucella grisescens*

平地に多い種である。

イタヤハムシ *Pyrhalta fuscipennis*

各地に多い。

エノキハムシ *Pyrhalta tibialis*

生きている時は黄白色だが、乾燥標本にすると茶褐色になる。エノキなどに見られるが、あまり多くない。

カエデハムシ *Pyrhalta seminigra*

かなり少ない種である。

アカタデハムシ *Pyrhalta semifulva*

食草はサクラ、トサミズキなどで、この仲間ではもっとも多い普通種。

ブチヒゲケブカハムシ *Pyrhalta annulicornis*

サンゴジュ、ガマズミなどに見られるが、多くはない。

サンゴジュハムシ *Pyrhalta humeralis*

本種もサンゴジュやガマズミに見られ、各地に多い。

ニレハムシ *Pyrhalta maculicollis*

ニレやケヤキを食樹とするが、それほど多くはない。

ウエツキブナハムシ *Chujoa uetsukii*

ブナを食害するというのが、記録は次のものでだけである。

ウリハムシ *Aulacophora nigripennis*

前種と同様、ウリ類に多い普通種。

ヨツボシハムシ *Paridea quaddriplagiata*

次種より少ないが、各地に見られる。

アトボシハムシ *Paridea angulicollis*

- アマチャヅルなどに普通に見られる。各地に多い。
- クロバヒゲナガハムシ *Taumacera tibialis*
 少ない種である。
- クワハムシ *Fleutiauxia armata*
 クワやコウゾに多い普通種。
- キムネアオハムシ *Cneorane elegans*
 草原に見られ、ヤマハギなどを食うという。少ない種である。
- キアシヒゲナガアオハムシ *Clerotilia flavomarginata*
 本種もあまり多くない。
- ハンノキハムシ *Agelastica coerulea*
 ハンノキ、カンバに見られる普通種。
- イチモンジハムシ *Morphosphaera japonica*
 イヌビワ、オオイタビなどを食うというが、かなり少ない。
- ケブカクロナガハムシ *Hesperomrpha hirsuta*
 少ない種である。食草はヤマハンノキ。
- ルリウスバハムシ *Stenoluperus cyaneus*
- ヒゲナガウスバハムシ *Stenoluperus nipponensis*
- フタスジヒメハムシ *Medythia nigrobilineata*
 マメ類の害虫で、河川敷などでよく採れる。
- クロウスバハムシ *Luperus moorii*
- ムナキホソヒゲナガハムシ *Luperus laricis laricis*
- ルリヒラタヒメハムシ *Calonicrus iniquus*
 かなり珍しい種で、トリカブトなどを食うという。
- オオルリヒメハムシ *Calomicrus nobyi*
 食草はボタンヅルで、多くない。
- ハラグロヒメハムシ *Calomicrus cyaneus*
 ボタンヅル、センニンソウに見られ、各地に普通である。
- キバラヒメハムシ *Exosoma flaviventre*
 コナラやノリウツギなどを食樹とし、各地に多い。
- ハラマダラヒメハムシ *Exosoma akkoae*
 県内未記録種である。
- ウリハムシモドキ *Atrachya mentriesi*
 マメ科植物に見られ、極めて普通である。
- キイロクワハムシ *Monolepta pallidula*
 クワやコナラなどに多い普通種。

ホタルハムシ *Monolepta dichroa*

マメ科植物に極めて多い。

ムナグロツヤハムシ *Arthrotus niger*

色彩が極めて富んでおり、黄褐色のものから真っ黒のものまである。各地に極めて普通に見られる。

アオバノコヒゲハムシ *Sphnoraia intermedia*

各地に見られるが、多くない。

キクビアオハムシ *Agelasa nigriceps*

サルナシに普通に見られる。

ヨツキボシハムシ *Hamushia eburata*

食草はウシハコベなどで、地上を這っているものが多い。

イタドリハムシ *Gallerucida bifasciata*

その名の通り、イタドリなどに普通である

ムツキボシハムシ *Gallericida lewisi*

やや山地性の種で、少ない。食草はユキノシタである。

ズグロアカハムシ *Gallericida flavipennis*

ノブドウに見られるが、多くはない。

2.1.8.19.3.14.ノミハムシ亜科

コカミナリハムシ *Altica viridicyanea*

アカバナトビハムシ *Altica oleracea*

オオマツヨイグサ、アカバナなどに多い普通種。

アザミカミナリハムシ *Altica cirsicola*

アザミ類に見られる。

イチゴカミナリハムシ *Altica fragariae*

カミナリハムシ *Altica cyanea*

この属では大型の種で、チョウジタデなどに多い。

ミズタマソウカミナリハムシ *Altica circaeae*

ヒメカミナリハムシ *Altica caerulescens*

ホソルリトビハムシ *Apthonaltica angustata*

アケビを食草とし、各地に多い。

アラハダトビハムシ *Zipangia lewisi*

ガマズミを食うハムシで、各地に多い。

ガマズミトビハムシ *Zipangia obscura*

その名が示すようにガマズミ、ヤブウツキなどに多い普通種。

ルリチビカミナリハムシ *Ogloblinia berberii*

かなり稀な種である。

チャバネツヤハムシ *Phygasia fluvipennis*

カガイモに見られる。

フタホシオオノミハムシ *Pseudodera xanthospila*

大型のノミハムシで、サルトリイバラを食う。各地に普通。

ナガトビハムシ *Liprus punctatostriatus*

ギボウシなどに見られる。各地に多い。

カタクリハムシ *Sangariola punctatostriata*

ウバユリ、カタクリなどに見られる種で、初夏に各地に多い。

ホオノキセダカトビハムシ *Lanka magnoliae*

その名のごとくホオノキを食樹とするが、かなり少ない種である。

ヒゲナガアラハダトビハムシ *Trachyaphthona sordida*

あまり多くはない。

ツブノミハムシ *Aphthona perminuta*

ノミハムシの類ではもっとも多い普通種で、クリ、コナラ、ブナ、イヌシデなどを食草とする。

サメハダツブノミハムシ *Aphthona strigosa*

アカメガシワに普通見られる。

トケジホソトビハムシ *Luperomorpha tokejii*

基準産地が大山で、多くない。

クワノミハムシ *Luperomorpha funesta*

マメ類、カンキツ類、クワ、コゾウなどを食草とする種で、少なくない。

キアシノミハムシ *Luperomorpha tenebrosa*

マメ類、ハギ、フジなどに見られる普通種で、各地に多い。

キスジノミハムシ *Phyllotreta striolata*

アブラナ科の植物につく種で、平地では普通である。

カクムネアシナガトビハムシ *Longitarsus quadraticollis*

オオバコトビハムシ *Longitarsus scutellaris*

オオバコに多い普通種。

イヌノフグリトビハムシ *Longitarsus holsaticus*

イヌノフグリなどに見られるが、多くはない。

ヨモギトビハムシ *Longitarsus succineus*

ヨモギ類に見られ、多い。

ムラサキシキブアシナガトビハムシ *Longitarsus boraginicolus*

ケラサキシキブに見られるが、多くはない。

タツナミソウアシナガトビハムシ *Longitarsus scutellariae*

スズキアシナガトビハムシ *Longitarsus suzukii*

少ない種である。

コクロアシナガトビハムシ *Longitarsus morrisonus*

ヒゲナガルリマルノミハムシ *Hemipyxis plagioderoides*

各地に多い普通種である。

キバネマルノミハムシ *Hemipyxis flavipennis*

本種もどこでも見られる種である。

テントウノミハムシ *Argopistes biplagiatus*

イボタ、ネズミモチなどを食樹とし、各地に見られるが、多くはない。

ヒメテントウノミハムシ *Argopistes tsekooni*

イボタが食草で、前種より小さい。かなり少ない種である。

オオキイロマルノミハムシ *Argopus balyi*

ボタンヅル、センニンソウに見られ、各地に多い。

アカイロマルミノハムシ *Argopus punctipennis*

アザミに多い普通種。

クラークマルノミハムシ *Argopus clarki*

富士火山帯を中心に分布する種で多くない。

アカバナタマノミハムシ *Sphaeroderma nigricolle*

食そうはサルトリイバラやウバユリで、あまり多くない種である。

アケビタマノミハムシ *Sphaeroderma akebia*

アケビに見られるが、多くはない。

ムネアカタマノミハムシ *Sphaeroderma placidum*

ボタンヅルを食草とする種で、各地に見られる。

フキタマノミハムシ *Sphaeroderma balyi*

少ない種である。

ツマキタマノミハムシ *Sphaeroderma ap8icale*

この属ではかなり多く、同定は容易で、各地に見られる。

ヒロアシタマノミハムシ *Sphgaeroderma tarsatum*

ササ類に見られる。

ヘリグロタマノミハムシ *Spharoderma ohkuboi*

四国から記載された珍しい種で、本州の記録は極めて少ない。

キイロタマノミハムシ *Sphaeroderma unicolor*

Ohono は *S.fuscicorne* Baly として記録した。各地に普通である。

セマルトビハムシ *Minota nigropicea*

ワラビ、ヤブソテツなど[°]のシダ植物を食う。少ない種である。

タマアシトビハムシ *Philopona vibex*

後付節の爪が球状に膨らんでおり、奇妙な形態をしている。オオバコを食草とし、各地に見られる。

トラノオトビハムシ *Lythraria salicariae*

ミドリトビハムシ *Crepidodera japonica*

丹沢ではヤナギ類に極めて多い種だが、箱根には分布していない。

オオキイロノミハムシ *Asiorestia obscuritarsis*

カクムネトビハムシ *Asiorestia laevicollis*

サシゲトビハムシ *Lipromima minuta*

スルデが食草の種で、各地に見られる。

アラメクビボソトビハムシ *Pseudoliprus nigrinus*

ヤマブドウ、ツタなどに見られ、山地に多い。

クビボソトビハムシ *Pseudoliprus hirtus*

前種に比して少ない。

フタイロヒサゴトビハムシ *Chaetocnema bicolorata*

ミゾソバを食草とした種で、多くはない。

ヒサゴトビハムシ *Chaetocnema ingenua*

食草はメヒシバで、各地に普通。

ヒメドウガネトビハムシ *Chaetocnema concinnicollis*

エノコログサ、メヒシバを食草とする種で少なくない。

チュウジョウナガスネトビハムシ *Psylliodes chujoe*

かなり少ない種である。

ダイコンナガスネトビハムシ *Psylliodes subrugosa*

アブラナ科を食草とし、各地に多い。

アサトビハムシ *Psylliodes attenuata*

アサ、カナムグラに見られ、各地に多い。

ナスナガスネトビハムシ *Psylliodes angusticollis*

ナス、イヌホホズキ、トマト、ジャガイモなどを食害する種で多い。

ルリマルノミハムシ *Nonarthra cyanea*

幼虫はスギゴケを食うことが判明したが、成虫は種々の花上から採集され、花を食うものと思っている。各地に極めて普通である。

コマルノミハムシ *Nonarthra tibialis*

花上から得られるが、前種よりはるかに少ない。

2.1.8.19.3.15.トゲハムシ亜科

ヒメキベリトゲハムシ *Dactylispa angulosa*

食草はコナラ、サクラ、ウツボグサ、ヤマハッカなど多様で、各地に普通に見られる。

キベリトゲハムシ *Dactylispa masonii*

食草はフキ、ヨメナなどのキク科植物で、多くはない。

クロルリトゲハムシ *Rhadinosa nigrocyanea*

食草はススキで、葉上に止まっている。各地に普通。

2.1.8.19.3.16.カメノコハムシ亜科

ジンガサハムシ *Aspidomorpha indica*

ヒルガオなどに見られる。よく似たスキバジンガサハムシは少ない。

カメノコハムシ *Cassida nebulosa*

アカザやシロザなどに見られる。

ヒメジンガサハムシ *Cassida fuscorufa*

ヨモギに見られる普通種。

ヒメカメノコハムシ *Cassida piperata*

イノコズチやアカザにいる普通種。

アオカメノコハムシ *Cassida rubiginosa*

アザミ類に多く見られる。

セモンジンガサハムシ *Cassida versicolor*

サクラ、ナシなどを食草とし、各地に普通の種である。

コガタカメノコハムシ *Cassida vespertina*

ボタンヅルに見られ、各地に普通。

ルイスジンガサハムシ *Thlaspidia lewisii*

イボタやコバノネリコに見られるが、少ない種である。

イチモンジカメノコハムシ *Thlaspidia cribrata*

ヤブムラサキやムラサキシキブに多い普通種。

2.1.8.20. ゾウムシ上科

2.1.8.20.1. ヒゲナガゾウムシ科

2.1.8.20.2. オトシブミ科

2.1.8.20.3. ミツギリゾウムシ科

2.1.8.20.4. ホソクチゾウムシ科

2.1.8.20.5. ゾウムシ科

2.1.8.20.6. オサゾウムシ科

2.1.8.20.7. ナガキクイムシ科

2.1.8.20.7.1. トゲナガキクイムシ亜科

ヤチダモノナガキクイムシ *Crossotarsus niponicus*

ナガキクイムシ科ではもっとも多い普通種で、種々の樹木に穿孔する。各地に多い。

チュウガタナガキクイムシ *Platypus modestus*

オニグルミ、ブナ、コナラ、トチノキなどに穿孔する。少ない種である。

シナノナガキクイムシ *Platypus severini*

クマシデ、ハンノキ、ブナ、トチノキ、ツバキなどに穿孔する。多くない。

2.1.8.20.8. キクイムシ科

2.1.8.20.8.1. キクイムシ亜科

ニレノオオキクイムシ *Scolytus esuriens*

サワグルミ、ハルニレ、オオボダイジュなどに穿孔する。多くない。

ニレノカワキクイムシ *Scolytus frontalis*

ケヤキ、カシワ、サクラなどに穿孔する。この属ではもっとも多い種である。

2.1.8.20.8.2. カワノキクイムシ亜科

ルイスオオキクイムシ *Hyorrhynchus lewisi*

ハンノキ、ブナ、カエデ、ミズキなどに穿孔するという。少ない。

ワダオオキクイムシ *Pseudohyorrhynchus wadai*

ハンノキ、ブナ、ミズキなどに見られるが、やや稀である。

ニイシマキクイムシ *Sueus niisimai*

各種広葉樹に穿孔する。やや多い。

マツノスジキクイムシ *Hylurgops intersitialis*

トウヒ、カラマツ、マツ属につく。

ウスイロキクイムシ *Hylurgops palliatus*

針葉樹につく。少ない種である。

ヤチダモノキクイムシ *Hylesinus laticollis*

ハルニレノキクイムシ *Neopteleobius scutulatus*

ハルニレ、ケヤキ、カツラ、カエデ類に穿孔する種で、各地に多い。

ヒバノコキクイムシ *Phloeosinus lewisi*

ヒバなどの針葉樹につく。多くない。

イズキクイムシ *Phloeosinus izuensis*

筆者は神奈川県昆虫調査報告書(1981)にヒバノコキクイムシと記録したが、本種であったことはすでに訂正(1995)した。前種より多い。

2.1.8.20.8.3. ザイノキクイムシ亜科

クワノコキクイムシ *Cryphalus exiguus*

シデノコキクイムシ *Cryphalus carini*

タブノコキクイムシ *Hypothenemus* sp.

各地に見られる。

クロツヤキクイムシ *Trypodendron proximum*

少ない種である。

カナクギノキクイムシ *Indocryphalus pubipennis*

種々の広葉樹につき、各地に見られる。

ブナノコウトマルキクイムシ *Pseudopecilispis pilosus*

ブナ、イヌブナに穿孔する種で、かなり見られる。

トウヒノネノキクイムシ *Dryocoetes autographus*

筆者がアトマルキクイムシ *D. rugicollis* Eggers として次のものを記録したが、野淵博士に見てもらったところ、本種であった。ここに訂正する。

コガネキクイムシ *Cyrtogenius luteus*

次のものはハイマツアトマルキクイムシといて記録したが、本種であったことはすでに訂正(1995)済みである。各地に見られる。

ツルノコキクイムシ *Pseudocosmoderes attenuatus*

ハネミジカキクイムシ *Xylosandrus brevis*

広葉樹の細い枝につき、各地に多い。

ハンノキキクイムシ *Xylosandrus germanus*

一般的に見られるのはすべて♀で、♂は極めて少なく、形態も全く異なる。広葉樹につき、各地に普通である。

シイノコキクイムシ *Xylosandrus compactus*

広葉樹の小枝につき、微小な種だが、多い。

サクキクイムシ *Xylosandrus crassusculus*

各地に多い普通種

ルイスザイノキクイムシ *Xyleborus lewisi*

やや大型の種で各地に普通である。

サクラノホソキクイムシ *Xyleborus attenuatus*

シイノホソキクイムシとして大山から記録したが、本種の誤りである。

サクセスキクイムシ *Xyleborus saxeseni*

各地に多い普通種。

クワノキクイムシ *Xyleborus atratus*

種々の樹木につき、各地に極めて普通に見られる。

トドマツオオキクイムシ *Xyleborus validus*

トドマツばかりではなく、広葉樹にも穿孔する。この属はもっとも多い普通種である。

ツヤナシキクイムシ *Xyleborus adumbratus*

大山が基準産地で、種々の樹木に穿孔する。各地に見られる。

シャウスキクイムシ *Xyleborus schaufussi*

各地に普通に見られる。ブナ、クリ、ハイノキなどにつくという。

ウスキイロキクイムシ *Cnestus murayamai*

シラカシノキクイムシ *Accanthotomicus spinosus*

シラカシ、ウラジロカシなどに穿孔する種で、大山が基準産地である。

2.1.8.20.8.4.キザハシキクイムシ亜科

ミカドキクイムシ *Scolytotplatypus mikado*

キクイムシの中ではもっとも多く、わかりやすい種である。種々の樹木に穿孔する。

ダイミョウキクイムシ *Scolytotplatypus daimio*

各種の広葉樹につき、各地に多い。

タイコンキクイムシ *Scolytotplatypus tycon*

各地にかなり見られる。

ショウゲンキクイムシ *Scolytotplatypus shogun*

この属ではもっとも少ない種である。

2. 1. 9. 1. 1. 歩行虫類

2. 1. 9. 1. 1. 1. ハンミョウ科 *Cicindelidae*

コハンミョウ *Cicindela specularis*

ミヤマハンミョウ *Cicindela sachaliensis*

本種の記録については、産地の標高が低すぎることからその信憑性に疑いもたれている。しかし、丹沢山地の高所に分布することは十分に考えられるので、将来の再確認が望まれる。

コニワハンミョウ *Cicindela transbaicalica*

各地の砂地の河川敷に見られる。なお、大坪・久保・渡が神奈川初記録のアイヌハンミョウとして記録した個体は、本種の誤りであることが判明したので、訂正し本県のアイヌハンミョウの記録を削除する。

ニワハンミョウ *Cicindela japana*

ハンミョウ *Cicindela chinensis japonica*

2. 1. 9. 1. 1. 2. カワラゴミムシ科 *Omophronidae*

カワラゴミムシ *Omophron aequalis*

2. 1. 9. 1. 1. 3. オサムシ科 *Carabidae*

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii*

ホソアカガネオサムシ *Carabus vanvolxemi*

堂平には、かつて多産していたが、1980年代半ばころから減少し、現在ではほとんどみられなくなっている。シカの食害による下草の消失などの環境変化が原因と思われる。

ルイスオサムシ *Carabus lewisianus*

主稜部など高所に多く、山麓部から中腹にかけて生息する次種クロオサムシとは垂直分布をわかつ。大山では上下の棲み分けが見られるが、中腹の一部では両種の混生も知られている。

クロオサムシ *Carabus arborecti esakianus*

オオオサムシ *Carabus dehaanii*

搬入土砂に紛れて移入されたものと考えられ、1例の記録のみである。土着種ではなく偶産種と見なすほうが妥当であろう。

アオオサムシ *Carabus insulicola insulicola*

クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus*

コクロナガオサムシ *Leptocarabus arboreus fujisanus*

山稜部の森林にきわめて多い。

ホソヒメクロオサムシ *Leptocarabus harmandi tanzawaensis*

丹沢固有亜種。山稜部の森林に多い。

マイマイカブリ *Damaster blaptoides oxuroides*

クロキノカワゴミムシ *Leistus obtusicollis*

ミヤママルクビゴミムシ *Nippononebria chalceola*

サドマルクビゴミムシ *Nebria sadona*

フタモンマルクビゴミムシ *Nebria pulcherrima*

河原に見られるが少ない。

カワチマルクビゴミムシ *Nebria lewisi*

泥質の河原に多く、水田などにも見られる。

オオマルクビゴミムシ *Nebria macrogona*

キベリマルクビゴミムシ *Nebria livida angulata*

河原に見られる。最近はあまり多くないようである。

ミヤマメダカゴミムシ *Notiophilus impressifrons*

ナガチビヒョウタンゴミムシ *Dyschirius cheloscelis*

ミヤマヒサゴゴミムシ *Broscosoma doenitzi*

ホソチビゴミムシ *Perileptus japonicus*

ツヤホソチビゴミムシ *Perileptus naraensis*

ケムネチビゴミムシの1種 *Epaphiopsis* sp.

落ち葉の下などに見られる。丹沢山地全域に分布するが、これらがすべて同一種か否か分類学的に確定していない。

ヒラタキイロチビゴミムシ *Trechus ephippiatus*

タンザワメクラチビゴミムシ *Trechiana varians*

丹沢固有種。

ニシタンザワメクラチビゴミムシ *Trechiana tanzawanus*

今回の丹沢調査で発見された。前種と同様に地下浅層にみられる。丹沢固有種。

アトオビコミズギワゴミムシ *Macrotachys recurvicollis*

ウスモンコミズギワゴミムシ *Tachyura fuscicauda*

ヨツモンコミズギワゴミムシ *Tachyura laetifica*

ヒラタコミズギワゴミムシ *Tachyura exarata*

キイロマルコミズギワゴミムシ *Elaphropus latissimus*

セダカコミズギワゴミムシ *Elaphropus nipponicus*

落ち葉の下などに見られる。

クロチビカワゴミムシ *Tachyta nana*

アトモンミズギワゴミムシ *Bembidion niloticum batesi*

マダラケシミズギワゴミムシ *Bembidion articuratum*

湿地に見られるが、少ない。

ガロアミズギワゴミムシ *Bembidion galloisi*

溪湖畔に多く、灯火にもよく飛来する。

オオルリミズギワゴミムシ *Bembidion amaurum*

アトキミズギワゴミムシ *Bembidion consummatum*

エチゴアオミズギワゴミムシ *Bembidion echigonum*

ツマキミズギワゴミムシ *Bembidion bandotaro*

ニセツマキミズギワゴミムシ *Bembidion semilunium*

ヨツボシミズギワゴミムシ *Bembidion morawitzi*

キモンナガミズギワゴミムシ *Bembidion scopulinum*

ヒメモンナガミズギワゴミムシ *Bembidion thermoides*

ウスモンミズギワゴミムシ *Bembidion cnemidotum*

アオミズギワゴミムシ *Bembidion chloreum*

河原や休耕田などの湿地に見られるが、あまり多くはない。

キアシルリミズギワゴミムシ *Bembidion trajectum*

ニッコウミズギワゴミムシ *Bembidion misellum*

ヒラタアオミズギワゴミムシ *Bembidion pseudolucillum*

山地の溪畔に多い。

シモヤマミズギワゴミムシ *Bembidion shimoyamai**

青色の光沢が強く美しい種で、青森県の奥入瀬が基産地。岩手県にも産する。

関東地方では群馬県の利根川源流部で見ついているだけ。丹沢の奥の深さを想わせる種である。

オオアオミズギワゴミムシ *Bembidion lissonotum*

クロミズギワゴミムシ *Bembidion oxyglymma*

河原の水辺に多い。

マルミズギワゴミムシ *Bembidion eurygonum*

ヒョウゴミズギワゴミムシ *Bembidion hiogoense*

ヒメスジミズギワゴミムシ *Bembidion pliculatum*

ハコネミズギワゴミムシ *Bembidion lucillum*

ニセアオマルガタミズギワゴミムシ *Bembidion shilenkovi*

ハネビロミズギワゴミムシ *Bembidion persimile*

コホソトビミズギワゴミムシ *Bembidion aeneipes*

晴天時にはよく飛ぶので捕えにくい。

ドウイロミズギワゴミムシ *Bembidion stenoderum*

河原の砂地に多い。晴天時にはよく飛翔する。

キアシヌレチゴミムシ *Archipatrobus flavipes*

平野部の湿地に多い。

メダカチビカワゴミムシ *Asaphidion semilucidum*

ヒメカワチゴミムシ *Diplous depressus*

カワチゴミムシ *Diplous caligatus*

ムネミゾマルゴミムシ *Caelostomus picipes japonicus*

腐植植物の下に見られ、灯火にも飛来する。

ツヤムネマルゴミムシ *Oxyglyuchus laeviventris*

朽倒木の樹皮下などに見られる。

ヒラタマルゴミムシ *Cosmodiscus platynotus*

灯火に飛来するが少ない。

ムラサキオオゴミムシ *Trigonognatha coreana*

灯火に飛来することがある。

アカガネオオゴミムシ *Trigonognatha cuprescens*

ルイスオオゴミムシ *Trigonotoma lewisii*

キバナガゴミムシ *Stomis prognathus*

クリイロナガゴミムシ *Pterostichus hoplites*

オオキンナガゴミムシ *Pterostichus samurai*

トックリナガゴミムシ *Pterostichus haptoderoides japonensis*

マルガタナガゴミムシ *Pterostichus subovatus*

ヨリトモナガゴミムシ *Pterostichus yoritomus*

クロオオナガゴミムシ *Pterostichus leptis*

ミヤマクロナガゴミムシ *Pterostichus karasawai*

コガシラナガゴミムシ *Pterostichus microcephalus*

ニッコウヒメナガゴミムシ *Pterostichus polygenus*

フジヒメナガゴミムシ *Pterostichus harponifer*

タカオヒメナガゴミムシ *Pterostichus takaosanus*

ジュンサイナガゴミムシ *Pterostichus pachinus*

本種と以下13種の狭義のナガゴミムシ類は、ブナをはじめとする落葉広葉樹からなる冷温帯林に固有の種群である。通常は数種が同所的に生息し、その質・量は森林環境をよく表徴する。また、分化型種群の1つとして、その分布様態が生物地理学的見地からも注目されている。関東地方では、丹沢山地においてもっとも種類が多く多様性に富む。隣接地域との関連や類似に関しては、西川の詳述がある。

ニッコウオオズナガゴミムシ *Pterostichus macrogenys*

ヤツオオナガゴミムシ *Pterostichus mucronatus* *

ウエノオオナガゴミムシ *Pterostichus uenoi*

溪畔の石下に多い。

ハラトゲナガゴミムシ *Pterostichus spiculifer ikutanii*

タナカナガゴミムシ *Pterostichus latistylis*

好湿性で、溪畔の石下や湿潤な土壤に潜む。

トケジナガゴミムシ *Pterostichus tokejii*

ムサシナガゴミムシ *Pterostichus musashiensis*

比較的標高の低い山地に生息する。

ミヤマナガゴミムシ *Pterostichus rhanis angustistylis*

丹沢山地の中央部では個体数が多く優占種になっている。

タンザワナガゴミムシ *Pterostichus watanabei*

丹沢固有種。あまり多い種ではない。奥多摩には近縁のオクタクナガゴミムシが分布する。

ミトウナガゴミムシ *Pterostichus mitoyamanus*

フジナガゴミムシ *Pterostichus fujisanus*

丹沢山地の西端部に分布する。この地域の富士山との関連をしめし、興味深い。

カタシナナガゴミムシ *Pterostichus katashinensis naganoensis*

丹沢では少ないようである。

オオアオグロヒラタゴミムシ *Anchodemus calleides*

河原に生息するが、きわめて稀。

ヤマトクロヒラタゴミムシ *Platynus subovatus*

ヨツボシヒラタゴミムシ *Platynus quadripunctatus*

朽倒木の樹皮下などに見られるが、小型で見つけにくい。

タンゴヒラタゴミムシ *Platynus leucopus*

アオグロヒラタゴミムシ *Platynus chalcopus*

オグラヒラタゴミムシ *Platynus ogurae*

平地の池畔や湿地に見られる。丹沢の記録はやや異例。

ツヤモリヒラタゴミムシ *Colpodes xestus*

チャイロホソモリヒラタゴミムシ *Colpodes kyushuenis*

ウスグロモリヒラタゴミムシ *Colpodes aequatus*

シラハタモリヒラタゴミムシ *Colpodes shirahatai*

少ない種である。

オオアオモリヒラタゴミムシ *Colpodes buehneri*

灯火によく飛来する。

サドモリヒラタゴミムシ *Colpodes limodromoides*

少ない種である。

ハコネモリヒラタゴミムシ *Colpodes hokonius hakonus*

アマギモリヒラタゴミムシ *Colpodes amagisanus*

ハラアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes japonicus*

チビモリヒラタゴミムシ *Colpodes aurelius aurelius*

キンモリヒラタゴミムシ *Colpodes sylphis stichai*

ホソモリヒラタゴミムシ *Colpodes speculator*

ヤセモリヒラタゴミムシ *Colpodes elainus*

ムラサキモリヒラタゴミムシ *Colpodes integratus*

コハラアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes lampros*

イクビモリヒラタゴミムシ *Colpodes modestior*

クビアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes rubriolus*

クロモリヒラタゴミムシ *Colpodes atricomes*

ルリヒラタゴミムシ *Dicranoncus femoralis*

ベーツヒラタゴミムシ *Euplynes batesi*

キバナガヒラタゴミムシ *Onycholabis sinensis nakanei*

きわめて好湿性で、溪畔や滝のかたわらの湿潤な土壤中に生息している。神奈

川県のほかでは静岡県に記録がある。

ホソヒラタゴミムシ *Pristosia aeneola*

セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis*

フトクチヒゲヒラタゴミムシ *Parabroscus crassipalpis*

オオクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus nitidus*

クロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus cycloderus*

コクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus melantho*

前2種は平地に多く、本種は山地に多い。

ヒメクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus congruus*

シラハタクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus crocatus*

ヒメツヤヒラタゴミムシ *Synuchus dulcigradus*

マルガタツヤヒラタゴミムシ *Synuchus arcuaticollis*

前種と共に低地に多い種である。

ニッポンツヤヒラタゴミムシ *Synuchus agonus*

タケウチツヤヒラタゴミムシ *Synuchus takeutii*

ブリットンツヤヒラタゴミムシ *Synuchus orbicollis*

少ない種である。

ホソツヤヒラタゴミムシ *Synuchus atricolor*

山地性。

フクハラツヤヒラタゴミムシ *Synuchus fukuharai*

ミヤマツヤヒラタゴミムシ *Synuchus montanus montanus*

山地性。

タンザワツヤヒラタゴミムシ *Synuchus tanzawanus*

丹沢が基産地。山地性。

コガシラツヤヒラタゴミムシ *Synuchus angusticeps*

山地性。

シロウマホソヒラタゴミムシ *Trephionus kinositai*

マルガタゴミムシ *Amara chalcites*

ニセマルガタゴミムシ *Amara congrua*

コアオマルガタゴミムシ *Amara chalcophaea*

ヒメツヤマルガタゴミムシ *Amara nipponnica*

コマルガタゴミムシ *Amara simplicidens*

ニセコマルガタゴミムシ *Amara sinuaticollis**

前種によく似ているので、これまでの記録は両者が混在している可能性がある。

神奈川県新記録。

ナガマルガタゴミムシ *Amara macronota ovalipennis**

ゴミムシ *Anisodactylus signatus*

ホシボシゴミムシ *Anisodactylus punctatipennis*

オオホシボシゴミムシ *Anisodactylus sadoensis*

ヒメゴミムシ *Anisodactylus tricuspidatus*

ケゴモクムシ *Harpalus vicarius*

ウスケゴモクムシ *Harpalus griseus*

ニセケゴモクムシ *Harpalus pseudophonoides*

コゴモクムシ *Harpalus tridens*

ウスアカクロゴモクムシ *Harpalus sinicus*

クロゴモクムシ *Harpalus niigatanus*

ヒロゴモクムシ *Harpalus corporosus*

マルガタゴモクムシ *Harpalus bungii*

アカアシマルガタゴモクムシ *Harpalus tinctulus*

ハコダテゴモクムシ *Harpalus discrepans*

クビナガゴモクムシ *Oxycentrus argutoroides*

ウエノツヤゴモクムシ *Trichotichnus uenoi*
ハネグロツヤゴモクムシ *Trichotichnus lucidus*
オオイクビツヤゴモクムシ *Trichotichnus nipponicus*
ヒメツヤゴモクムシ *Trichotichnus congruus*
エゾツヤゴモクムシ *Trichotichnus septemtrionalis*

灯火に飛来することがある。

フクハラツヤゴモクムシ *Trichotichnus fukuharai*
少ない種である。

キュウシュウツヤゴモクムシ *Trichotichnus vespertinus*
クビアカツヤゴモクムシ *Trichotichnus longitarsis*
ツヤゴモクムシ *Trichotichnus leptopus*

森林の石下などに見られる。丹沢産は箱根産と同様に大型である。

ハコネツヤゴモクムシ *Trichotichnus yukihikoi*
クロヒメゴモクムシ *Bradycellus anchomenoides*
コクロヒメゴモクムシ *Bradycellus subditus*
ルイスヒメゴモクムシ *Bradycellus lewisi*

山地性であり多くない。

マルヒメゴモクムシ *Bradycellus fimbriatus*
キイロチビゴモクムシ *Acupalpus inornatus*
ムネアカマメゴモクムシ *Stenolophus propinquus*
ツヤマメゴモクムシ *Stenolophus iridicolor*
ナガマメゴモクムシ *Stenolophus agonoides*
クロサマメゴモクムシ *Stenolophus kurosai*

少ない種である。

マメゴモクムシ *Stenolophus fulvicornis*
カラサワマメゴモクムシ *Stenolophus karasawai*
キベリゴモクムシ *Anoplogenus cyanescens*
クロズカタキバゴミムシ *Badister nigriceps*
チビカタキバゴミムシ *Badister nakayamai*
ニッポンヨツボシゴミムシ *Dischissus japonicus*
スジアオゴミムシ *Haplochlaenius costiger*
オオキベリアオゴミムシ *Epomis nigricans*
クロヒゲアオゴミムシ *Chlaenius ocreatus*

溪畔の石下に見られる。

ムナビロアオゴミムシ *Chlaenius sericimicans*

コキベリアオゴミムシ *Chlaenius circumdatus*
アオゴミムシ *Chlaenius pallipes*
アカガネアオゴミムシ *Chlaenius abstersus*
アトワアオゴミムシ *Chlaenius virgulifer*
オオアトボシアオゴミムシ *Chlaenius micans*
アトボシアオゴミムシ *Chlaenius naeviger*
キベリアオゴミムシ *Chlaenius circumductus*
ヒメキベリアオゴミムシ *Chlaenius inops*
ノグチアオゴミムシ *Lithochlaenius noguchii*

石礫質の河原に多い。

オオヒラタツクリゴミムシ *Oodes virens*

灯火に飛来することがあるが少ない。

ヤマトツクリゴミムシ *Lachnocrepis japonica*
カタボシホナシゴミムシ *Perigona acupalpoides*
ホソホナシゴミムシ *Perigona sinuata*

少ない種である。

クロボシホナシゴミムシ *Perigona plagiata*

少ない。

クロズホナシゴミムシ *Perigona nigriceps*
ダイミョウツブゴミムシ *Pentagonica daimiella*
カドツブゴミムシ *Pentagonica angulosa*
トゲアトキリゴミムシ *Aephnidius adelioides*

暖地性の種で、沿海部に多い。

ダイミョウアトキリゴミムシ *Cymindis daimio*
ハギキノコゴミムシ *Coptodera subapicalis*
コヨツボシアトキリゴミムシ *Dolichoctis striatus*
ヤセアトキリゴミムシ *Dolichoctis luctuosus*
ヤホシゴミムシ *Lebidia octoguttata*
フタツメゴミムシ *Lebidia bioculata*
クロヘリアトキリゴミムシ *Parena nigrolineata nipponensis*
アオヘリアトキリゴミムシ *Parena latecincta*
ミツアナアトキリゴミムシ *Parena tripunctata*
ヒラタアトキリゴミムシ *Parena cavipennis*
オオヒラタアトキリゴミムシ *Parena laesipennis*
クロズジュウジアトキリゴミムシ *Lebia cruxminor*

高原の草花の上に来ていることが多い。

ハネビロアトキリゴミムシ *Lebia duplex*

エゾハネビロアトキリゴミムシ *Lebia fusca*

アトグロジュウジアトキリゴミムシ *Lebia idae*

ミヤマジュウジアトキリゴミムシ *Lebia sylvarum*

ジュウジアトキリゴミムシ *Lebia retrofasciata*

フタホシアトキリゴミムシ *Lebia bifenestrata*

ホシハネビロアトキリゴミムシ *Lebia calycophora*

コルリアトキリゴミムシ *Lebia viridis*

北米原産の移入種。近年になって関東地方を中心に分布域を拡げ、福島県と長野県でも記録された。移入の要因は、家畜の飼料として北米からの輸入が急増している乾草の随伴が考えられる。平野部の草地に多く見られるが、丹沢山地への進入は興味深い。

キクビアオアトキリゴミムシ *Lachnolebia cribricollis*

ミズギワアトキリゴミムシ *Demetrias marginicollis*

イクビホソアトキリゴミムシ *Dromius quadraticollis*

キタホソアトキリゴミムシ *Dromius nipponicus*

少ない。

フトヒゲアトキリゴミムシ *Dromius crassipalpis*

少ない。

エゾホソアトキリゴミムシ *Dromius matsudai**

少ない。関東地方では千葉県に記録がある。神奈川県新記録。

ホソアトキリゴミムシ *Dromius prolixus*

ベーツホソアトキリゴミムシ *Dromius batesi*

フタホシヒラタゴミムシ *Planetes puncticeps*

暖地性で平野部の丘陵地などに多い。

アオヘリホソゴミムシ *Drypta japonica*

平地に多い。

オオアオホソゴミムシ *Desera geniculata*

南方系の種で、沿海部に多い。丹沢の温暖な気候特性の一面を示す種とみる
ことができよう。

2. 1. 9. 2. クビボソゴミムシ科 *Brachindae*

ミイデラゴミムシ *pheropsophus jessoenisis*

山麓部の水田・畑地などを精査すれば記録が増えるだろう。

コホソクビゴミムシ *Brachinus stenoderus*

石礫質の河原に普通に見られる。

2. 1. 9. 2. 1. ハネカクシ科

2. 1. 9. 2. 1. 1. ハネカクシ科 *Staphylinidae*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 1. チビハネカクシ亜科 *Micropeplinae*

セスジチビハネカクシ *Micropeplus fulvus japonicus*

本種は複眼内縁中央から頭頂に向かう顕著な横隆線の有ることや雄交尾器側片は不対称であるなどで丹沢産の他種とは容易に識別できる。北海道と九州からの記録はあったのだが、本州からは知られていなかった。本州新記録。

ヒメセスジチビハネカクシ *Micropeplus yasutoshii*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 2. ヒラタハネカクシ亜科 *Piestinae*

オサシデムシモドキ *Apatetica princeps*

シラオビシデムシモドキ *Nodynus leucofasciatus*

ヒメヒラタハネカクシ *Siagonium debile*

ホソヒラタハネカクシ *Siagonium gracile*

ニセヒラタハネカクシ *Siagonium haroldi*

今まで、ヒラタハネカクシ *Siagonium vittatum* と混同されていた。ニセヒラタハネカクシは本州、四国、九州に、ヒラタハネカクシは今のところ北海道だけから知られている。

セミゾヒラタハネカクシ *Siagonium nobile*

オオヒラタハネカクシ *Piestoneus lewisii*

コチビホソハネカクシ *Lispinus aper*

二本杉峠。

オオウスバハネカクシ *Eleusis coarctata*

クロツヤハネカクシ *Priochirus japonicus*

大分県経読岳、岡山県金山、福井県鷺鞍岳、神奈川県堂平からの標本をもとに記載された種。丹沢は現在この種の分布東北限である。クロツヤハネカクシとは本種はより小型で体色は暗褐色、細長い触角、頭部前端的歯状突起を欠くなどの点で区別される。

2. 1. 9. 2. 1. 1. 3. ハバヒロハネカクシ亜科 *Proteininae*

チビハバヒロハネカクシ *Proteinus crassicornis*

セマルハバヒロハネカクシ *Megarthus convexus*

従来、県内からも記録のあったカバイロハバヒロハネカクシ *M. heterops* は本種の同物異名となった。

ハバヒロハネカクシ *Megarthus japonicus*

クロモンハバヒロハネカクシ *Megarthus scriptus*

県内からも記録のあった*M. subparallelus*は本種の同物異名となった。

2. 1. 9. 2. 1. 1. 4. ヨツメハネカクシ亜科 *Omalinae*

キイロツヤシデムシモドキ *Camioleum loripes*

セミゾヨツメハネカクシ *Omalium japonicum*

ムナクボヨツメハネカクシ *Omalium nipponensis*

模式産地の御岳では落葉下から採集されたが、札掛ではタヌキの糞の下から得られた。

ヘリトゲヨツメハネカクシ *Pycnoglypta denticollis*

アロウヨツメハネカクシ *Olophrum arrowi*

従来、*Omalium curtellum*とされていた種。

ムモンヨツメハネカクシ *Lesteva crassipes*

フタモンヨツメハネカクシ *Lesteva fenestrata*

ネアカヨツメハネカクシ *Lesteva plagiata*

キイロハナムグリハネカクシ *Eusphalerum parallelum*

ハナムグリハネカクシ *Eusphalerum pollens*

クロモンシデムシモドキ *Trigonodemus lebioides*

キバネヨツメハネカクシ *Orochares debilis*

*Amphichroum*属とされていた種。*Orochares japonica* Cameronは本種の同物異名となった。

クロミズギワヨツメハネカクシ *Psephidonus caliginosus*

カタホソハネカクシ *Philydrodes aquatilis*

シリプトヨツメハネカクシ *Eudectus rufulus*

ムネボソヨツメハネカクシ *Boreaphilus japonicus*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 5. セスジハネカクシ亜科 *Oxytelinae*

ハラビロハネカクシ *Deleaster yokoyamai*

セミゾキノカワハネカクシ *Coprophilus impressus*

キノカワハネカクシ *Coprophilus simplex*

枯れ枝のビーティングで得られることが多い。

ヒゲナガヨコセミゾハネカクシ *Ochtheophilus japonicus*

ツヤヨコセミゾハネカクシ *Ochtheophilus laevis*

ナミヨコセミゾハネカクシ *Ochtheophilus vulgaris*

この属のものは水の上に浮くと腹部を上に向けて、船の帆のように風を受けて岸にたどりつくような行動が見られる。

ヤマトニセユミセミゾハネカクシ *Thinodromus japonicus*

クロヒメカワベハネカクシ *Platystethus operosus*

アバタセスジハネカクシ *Anotylus antennarius*
セスジハネカクシ *Anotylus cognatus*
イブシセスジハネカクシ *Anotylus funebris*
ヒラタセスジハネカクシ *Anotylus japonicus*
ヒメクロセスジハネカクシ *Anotylus laticornis*
チビクロセスジハネカクシ *Anotylus latiusculus*
ルイスセスジハネカクシ *Anotylus lewisius*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 6. ツツハネカクシ亜科 *Osoriinae*

フトツツシハネカクシ *Osorius angustulus*
ツノフトツツハネカクシ *Osorius taurus*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 7. オオキバハネカクシ亜科 *Oxyporinae*

ヒメオオキバハネカクシ *Oxyporus basicornis*
オオキバハネカクシ *Oxyporus japonicus*
アカバオオキバハネカクシ *Oxyporus maculiventris*
オオズオオキバハネカクシ *Oxyporus parvus*
ムネアカオオキバハネカクシ *Oxyporus rufus osawai*

この属のものは、キノコ類に集まるが、本種は路傍の葉上から採集した。

ハスオビオオキバハネカクシ *Oxyporus triangulum*
ヨコモンオオキバハネカクシ *Pseudoxyporus hoplites**
カタモンオオキバハネカクシ *Pseudoxyporus humeralis*
アシナガオオキバハネカクシ *Pseudoxyporus longipes*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 8. メダカハネカクシ亜科 *Steninae*

ホソフタホシメダカハネカクシ *Stenus alienus*
スジグロメダカハネカクシ *Stenus anthracinus*
アシュラメダカハネカクシ *Stenus asyura*

従来、トビイロメダカハネカクシ *Stenus rufescens* とされていた種。松田(平野, 1981)の記録も本種と思われる。

アシマダラメダカハネカクシ *Stenus cicindeloides*
ツヤホソメダカハネカクシ *Stenus currax*
ズグロメダカハネカクシ *Stenus flavidulus*
コバネメダカハネカクシ *Stenus indubius*
ナガメダカハネカクシ *Stenus kobensis*
ルイスメダカハネカクシ *Stenus lewisius*
ドウボソメダカハネカクシ *Stenus macies*
コクロメダカハネカクシ *Stenus melanarius verecundus*

カラカネツヤメダカハネカクシ *Stenus mercator*
キアシホソメダカハネカクシ *Stenus rugipennis*
ナガコクロメダカハネカクシ *Stenus sexualis**
チンメルマンメダカハネカクシ *Stenus zimmermani*
オオヒョウタンメダカハネカクシ *Dianous shibatai*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 9. チビフトハネカクシ亜科 *Euaesthetinae*

スジツヤチビハネカクシ *Edaphus carinicollis*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 10. アリガタハネカクシ亜科 *Paederinae*

ルイスクビフトハネカクシ *Pinophilus lewisius*
アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes*
エゾアリガタハネカクシ *Paederus parallelus*
コアリガタハネカクシ *Megalopaederus lewisi*

富士山の東から北側(本栖湖、精進湖、西湖、河口湖)そして大菩薩峠周辺には極めて外形の酷似した *M. kurosawai* が分布している。両者の分布境界線は伊豆半島、箱根、富士山の東側を通り山中湖、大月、そして奥多摩を結ぶところにある。丹沢・大山はこの境界線の東側に位置し、コアリガタハネカクシ分布圏内にある。丹沢各地から採集された標本はすべてコアリガタハネカクシであった。中村(1964)により菩堤からアリガタハネカクシ *Paedeas powerit* が記録されているが、当時はアリガタとコアリガタの区別点などもはっきりせず混同されていた。その後、この属には *M. wadai* と *M. kurosawai* の2種が加わり4種になった。アリガタハネカクシは紀伊半島に生息している。従って、中村のアリガタはコアリガタと考えられるため分布記録からは削除した。

ヒメアバタコバネハネカクシ *Nazeris optatus*
アバタコバネハネカクシ *Nazeris wollastoni*
タチゲクビボソハネカクシ *Stilicopsis setigera*
オオシリグロハネカクシ *Astenus suffusus*
オオクビボソハネカクシ *Stilicoderus signatus*
ヤマトクビボソハネカクシ *Stilicoderus japonicus*
ハネナガクビボソハネカクシ *Rugilus longipennis*
クビボソハネカクシ *Rugilus rufescens*
アカアシトガリハネカクシ *Medon discedens*
ネアカトガリハネカクシ *Medon lewisius*
チャバネトガリハネカクシ *Medon spadiceus*
ヨコモントガリハネカクシ *Medon submaculatus*
ミゾトガリハネカクシ *Medon sulcifrons*

チビトガリハネカクシ *Sunius debilicornis*
 クロズトガリハネカクシ *Lithocharis nigriceps*
 クロニセトガリハネカクシ *Achenomorphus lithocharoides*
 ヒメクビボソハネカクシ *Scopaeus currax*
 チビクビボソハネカクシ *Scopaeus virillis*
 オオマルズハネカクシ *Domene crassicornis*
 コマルズハネカクシ *Domene curtipennis*
 ヒメコバナナガハネカクシ *Lathrobium brachypterum*
 ヒゲブトナガハネカクシ *Lathrobium monilicorne*
 チビコバナナガハネカクシ *Lathrobium monticola*
 コバナナガハネカクシ *Lathrobium pollens*
 キモンナガハネカクシ *Lobrathium cribricolle*
 サキアカバナナガハネカクシ *Lobrathium partutum*
 ヨシダナガハネカクシ *Lobrathium yoshidai*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 11. ナガハネカクシ亜科 *Xantholininae*

ズナガホソクビハネカクシ *Zeteotomus maximus*
 ツマキツヤナガハネカクシ *Nudobius apicipennis*
 チャイロホソムネハネカクシ *Stenistoderus nothus*
 ムネスジナガハネカクシ *Xantholinus cunctator*
 クロバナナガハネカクシ *Xantholinus pleuralis*
 キバナナガハネカクシ *Xantholinus suffusus*
 ホソガタナガハネカクシ *Xantholinus tubulus*
 ウスイロホソナガハネカクシ *Xestolinus pauper*

山地の石の下などから採集されることが多い。

アカバホソハネカクシ *Othius rufipennis*
 コガシラホソハネカクシ *Diochus japonicus*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 12. ハネカクシ亜科 *Staphylininae*

アカバヒメホソハネカクシ *Noebisnius pumilus*
 チャイロキヌコガシラハネカクシ *Philonthus azabuensis*
 ルリコガシラハネカクシ *Philonthus cyanipennis*
 ヒラタカクコガシラハネカクシ *Philonthus depressipennis*
 チビカクコガシラハネカクシ *Philonthus discoideus*
 チャバナコガシラハネカクシ *Philonthus gastralis*
 クロコガシラハネカクシ *Philonthus japonicus*
 フタイロコガシラハネカクシ *Philonthus kobensis*

オオドウガネコガシラハネカクシ *Philonthus lewisius*
ヒゲナガコガシラハネカクシ *Philonthus longicornis*
アカヒラタコガシラハネカクシ *Philonthus macrocephalus*
トゲツメコガシラハネカクシ *Philonthus nakanei**
ムネスジコガシラハネカクシ *Philonthus rutiliventris*
キヌコガシラハネカクシ *Philonthus sericans*
ヘリアカバコガシラハネカクシ *Philonthus solidus*

平野により札掛から*P. tardus*として記録された種は本種に該当するものと思われる。

ヒラタコガシラハネカクシ *Philonthus spadiceus*
オオアカバコガシラハネカクシ *Philonthus spinipes*
ヒメホソコガシラハネカクシ *Philonthus wuesthoffi*
クロスジコガシラハネカクシ *Philonthus virgatus**
ホソチャバネコガシラハネカクシ *Rabigus brunnicollis*
チャイロコガシラハネカクシ *Bisnius germanus*

本種と次の種は、従来*Philonthus*属として扱われていた種。

オオズコガシラハネカクシ *Bisnius parvus*
ヤマトホソコガシラハネカクシ *Gabrius japonicus*
コバヤシホソコガシラハネカクシ *Gabrius kobayashii*
オオホソコガシラハネカクシ *Gabrius schillhammeri*

*G. multipunctatus*とされていた種だが、異物同名により種名が変更された。

シャープホソコガシラハネカクシ *Gabrius sharpianus*
ヤマネホソコガシラハネカクシ *Gabrius yamanei*

京都、山梨、愛媛からしられていたが丹沢にも分布することが判明した。他に箱根からの1個体を検している。タイプシリーズはベイトトラップ(ベンジールアセテート、バナナ)で採集された。

ツマグロアカバハネカクシ *Hesperus tiro*
アカバハネカクシ *Platydracus paganus*
ヒメクロハネカクシ *Ocypus brevicornis*
サビイロモンキハネカクシ *Ocypus dorsalis*

今回の調査でこの属のものが2頭採集されたが、両標本とも雄個体であるので正確な種名は特定できなかった。

チビドウガネハネカクシ *Ocypus parvulus*
サビハネカクシ *Ontholestes gracilis*
オオズハイイロハネカクシ *Philetaerius elegans*

クロクサアリの行列や巣の近くで採集される。

ヒトオビハイロハネカクシ *Phytolinus monticola* *

富士山が模式産地だが、その外に広河原、上高地の記録がある。今回は4番目の産地である。同属のキオビハイロハネカクシに良く似るが、本種の上翅は黒色で雄交尾器側片は短くて先端は裁断されることにより区別できる。この属の成虫は山地の花上や葉上でそこに飛来する小昆虫を待ち伏せして捕食しているが、菰釣山の個体は灌木のビーティングにより採集された。

ハイロハネカクシ *Eucibdelus japonicus*

ツヤケシブチヒゲハネカクシ *Anisolinus elegans*

カタモンブチヒゲハネカクシ *Anisolinus picticornis*

ズマルハネカクシ *Amichrotus apicipennis*

オオハネカクシ *Creopilus maxillosus*

オオアカバハネカクシ *Agelosus carinatus*

落葉下、石の下、道路の側溝、歩行中などの採集例が多いが、オサムシトラップで採れることもある。長野県美ヶ原では側溝中でコガネムシの腹部を食べている個体を採集したこともある。

カクツヤケシアバタハネカクシ *Tympanophorus sauteri* *

箱根芦之湯や神山からはツヤケシアバタハネカクシが採れているが丹沢からは採集されていない。札掛では落葉下、日陰沢では石の下から採集した。

アバタツヤムネハネカクシ *Rientis parviceps*

ムネビロハネカクシ *Algon grandicollis*

コクシヒゲハネカクシ *Velleius setosus*

オオスズメバチの巣中、とくに秋の巣では多数の幼虫が巣の底部で見つかっている。バナナトラップでも採集されているが、今回のものはカエデ類の樹液に飛来したもの。

チャイロツヤムネハネカクシ *Quedius adustus*

山地の道路傍の葉の上を歩行中の個体が多く見られる。

クロスジツヤムネハネカクシ *Quedius annectens*

トゲアシツヤムネハネカクシ *Quedius armipes* *

後腿節後縁は中央部が耳たぶ状に伸長し、太くて長い刺毛列をもつ。体は扁平で倒木の樹皮下に住む。個体数は少ない。

アカバツヤムネハネカクシ *Quedius japonicus*

ミドリオオメハネカクシ *Quedius multipunctatus*

体全体が緑色光沢をもつ種で山地の倒木に生えた蘇類の下などから採集されるが、個体数は少ない。

イブシツヤムネハネカクシ *Quedius samuraicus*

トゲアシツヤムネハネカクシと同様に後腿節後縁に刺毛列をもつが、耳たぶ状の部分はなく刺毛も短く細い。

ヤマトオオメハネカクシ *Indoquedius junio*

アカアシオオメハネカクシ *Indoquedius praeditus*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 13. シリボソハネカクシ亜科 *Tachyporinae*

ヒゲナガミズギワハネカクシ *Derops longicornis*

ヤマトイクビハネカクシ *Mycetoporus discoidalis*

アカイクビハネカクシ *Bryoporus gracilis*

ハラグロキノコハネカクシ *Lordithon bicolor*

ウスモンキノコハネカクシ *Lordithon brevipes*

ダイミョウキノコハネカクシ *Lordithon daimio*

この属には大型で頭部が極めて細長い美麗種が2種いるが本種はそのうちの1種。個体数は少ない。

ハスオビキノコハネカクシ *Lordithon irregularis*

チビクロモンキノコハネカクシ *Lordithon niponensis*

ハラオビキノコハネカクシ *Lordithon principalis*

クロモンキノコハネカクシ *Lordithon semirufus*

ハネスジキノコハネカクシ *Carphacis striatus*

チャバネキノコハネカクシ *Bolitobius princeps*

アカチャキノコハネカクシ *Bolitobius prolongatus*

カタモンキノコハネカクシ *Bolitobius setiger*

クロゲヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus armatus*

フタモンヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus bipustulatus*

オオヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus fimbriatus*

ムクゲヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus germanus*

ハスモンヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus pumilus*

ヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus tibialis*

クロヒメキノコハネカクシ *Sepedophilus varicornis*

クロズシリホソハネカクシ *Tachyporus celatus*

キベリシリホソハネカクシ *Tachyporus orthogrammus*

ツヤグロシリホソハネカクシ *Tachyporus suavis*

コクロマルクビハネカクシ *Tachinus diminutus*

ヤマトマルクビハネカクシ *Tachinus japonicus*

本種は近畿地方から四国、九州にかけて分布するが、li(1995)の論文に丹

沢札掛の1♀の記録がある。奈良県の春日山や荒神山それに広島県の帝釈峡ではヤマトマルクビハネカクシと本種が共に見つかっているが、今回の調査ではすべてヤマトマルクビハネカクシだけで本種を発見することが出来なかった。

- キベリマルクビハネカクシ *Tachinus mimulus*
ヒゲブトマルクビハネカクシ *Tachinus nakanei*
クロズマルクビハネカクシ *Tachinus nigriceps*
クロツヤマルクビハネカクシ *Tachinus punctiventris*
アカバマルクビハネカクシ *Tachinus sharpi*
カタアカマルクビハネカクシ *Tachinus sibiricus*
ネアカマルクビハネカクシ *Tachinus trifidus*
クロヒゲナガマルクビハネカクシ *Nitidotachinus adachii*

2. 1. 9. 2. 1. 1. 14. ヒゲブトハネカクシ亜科 *Aleocharinae*

- ツヤケシシワチビハネカクシ *Silusa rugosa*
ウスチャセミゾハネカクシ *Falagria japonica* *
キバネセミゾハネカクシ *Falagria sapida*
ヒゲブトアリノスハネカクシ *Zyras cylindricornis* *
モンクロアリノスハネカクシ *Zyras optatus*
クビアカアリノスハネカクシ *Zyras pictus*
ツヤゴミハネカクシ *Oxypoda luridipennis*
ナカアカヒゲブトハネカクシ *Aleochara curtula*
ヒゲブトハネカクシ *Aleochara lata*

2. 1. 9. 2. 2. シデムシ類とコガネムシ上科

2. 1. 9. 2. 2. 1. ハネカクシ上科 *Superfamily Staphylinoidea*

2. 1. 9. 2. 2. 1. 1. ツヤシデムシ科 *Family Agyrtidae*

従来は、シデムシ科の1亜科とされていたが、近年の研究によりハネカクシ上科のチビシデムシに近い一群として独立科とされている。関東山地に産するアカツヤシデムシは分布していない可能性が高い。

- ムナグロホソツヤシデムシ *Apteroloma discicolle*

新たに建設された林道の側溝に数年間は多い。

- オオシデムシ *Pelaines striatipennis*

2. 1. 9. 2. 2. 2. ヒゲブトチビシデムシ科 *Family Colonidae*

生態的には未知の部分が多い甲虫である。夕刻の草原でのスリーピングなどで得られる。

- ヤマトヒゲブトチビシデムシ *Colon japonicum*

未記載種と思われる。

2. 1. 9. 2. 2. 3. チビシデムシ科 *Family Cholevidae*

近年はタマキノコムシ科の1亜科とされることもあるが、ここでは独立科として扱った。生態的には、主に腐敗動物質に依存する分解者であるが、生息場所は、地中性・洞窟性・地表性・樹洞性と比較的多様である。今回の調査では、ホソアシチビシデムシが本州から再発見された。標本を恵与された益本仁雄博士、安部光典氏に御礼申し上げます。

2. 1. 9. 2. 2. 3. 1. クリバネチビシデムシ亜科 *Subfamily Nemadinae*

クリバネチビシデムシ *Micronemadus pusillimus*

タンザワヒメチビシデムシ *Nemadus asagi*

堂平と札掛が基準産地。

イシハラヒメチビシデムシ *Nemadus ishiharai*

2. 1. 9. 2. 2. 3. 2. ニセチビシデムシ亜科 *Subfamily Ptomaphaginae*

ハギニセチビシデムシ *Ptomaphagus kuntzeni*

2. 1. 9. 2. 2. 3. 3. ホソアシチビシデムシ亜科 *Subfamily Anemadinae*

ホソアシチビシデムシ *Cholevodes tenuitarsis*

65年振りに本調査で本州から再発見され、樹皮下や樹洞内に生息するという、チビシデムシとしては特異な生態も判明した。

2. 1. 9. 2. 2. 3. 4. チビシデムシ亜科 *Subfamily Catopinae*

クシヒゲチビシデムシ *Catopodes fuscifrons*

ルイスチビシデムシ *Catops angustitarsis lewisi*

ヒレルチビシデムシ *Catops hilleri*

コクロチビシデムシ *Catops miensis*

ミヤマチビシデムシ *Catops sparcepunctatus*

トガリバチビシデムシ *Catops spinipennis*

アカアシチビシデムシの近縁種で未記載と思われる。

ホソムネコチビシデムシ *Mesocatops japonicus*

オオクロチビシデムシ *Prinochaeta harmandi*

夏季の尾根筋では、次種とともに優占種となる。

カバイロコチビシデムシ *Sciodrepoides fumatus*

キョウトコチビシデムシ *Sciodrepoides tsukamotoi*

2. 1. 9. 2. 2. 3. 5. シデムシ科 *Family Silphidae*

シデムシ科の甲虫は、比較的大型で、2亜科それぞれ同形的な一群である。生態的には分解者として知られ、環境指標種として使用されることもある。今回の調査では、草原性と思われるヤマトモンシデムシを除き記録のあるものはすべて得られた。また高地帯においてヒロオビモンシデムシ、ヒメクロシデムシの生息が期

待されたが、得られなかった。分布していない可能性が高い。動物地理学的に重要なものとして、冷温帯林に生息するホソヒラタシデムシが上げられる。本州各地域の個体群の分類学的な検討が行われていないため、暫定的に丹沢型・富士山型・として記録したが、丹沢山地の東部と西部に、両型が異所的に分布することがわかった。両者の間には空白地帯が存在する。

2. 1. 9. 2. 2. 3. 6. ヒラタシデムシ亜科 Subfamily Silphinae

ヨツボシヒラタシデムシ *Dendroxena sexcarinata*

ベッコウヒラタシデムシ *Eusilpha brunneicollis*

オオヒラタシデムシ *Eusilpha japonica*

クロボシヒラタシデムシ *Oiceoptoma nigropunctatum*

カバイロヒラタシデムシ *Oiceoptoma subrufum*

上翅の色彩に2型ある。

ホソヒラタシデムシ *Silpha longicornis*

神奈川県立博物館(1972)が記録したヒラタシデムシは本種のことと思われるが、標本を検するまで保留しておく。

ヒメヒラタシデムシ *Thanatophilus sinuatus*

オオモモブトシデムシ *Necrodesa siaticus*

モモブトシデムシ *Necrodes nigricornis*

2. 1. 9. 2. 2. 3. 7. モンシデムシ亜科 Subfamily Microphorinae

クロシデムシ *Nicrophorus concolor*

ヤマトモンシデムシ *Nicrophorus japonicus*

マエモンシデムシ *Nicrophorus maculifrons*

ヒメモンシデムシ *Nicrophorus montivagus*

ヨツボシモンシデムシ *Nicrophorus quadripunctatus*

コクロシデムシ *Ptomascopus morio*

2. 1. 9. 3. コガネムシ上科 Superfamily Scarabaeoidea

2. 1. 9. 3. 1. クワガタムシ科 Family Lucanidae

ファミリアな群で報告も多い。なかでも丹沢山地を含む本州中南部は、ルリクワガタ属の日本産4種の内3種が生息する地域となっている。

2. 1. 9. 3. 2. マダラクワガタ亜科 Subfamily Aesalinae

マダラクワガタ *Aesalus asiaticus*

2. 1. 9. 3. 3. ツヤハダクワガタ亜科 Subfamilie Ceruchinae

ミヤマツヤハダクワガタ *Ceruchus lignarius monticola*

2. 1. 9. 3. 4. クワガタムシ亜科 Subfamilie Lucaninae

ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*

コクワガタ *Macrodercas rectus*
スジクワガタ *Macrodercas striatipennis*
ヒメオオクワガタ *Nipponoderacus montivagus*
アカアシクワガタ *Nipponoderacus rubrofemoratus*
コルリクワガタ *Platycerus acuticollis*
ルリクワガタ *Platycerus delicatulus*
ホソツヤルリクワガタ *Platycerus kawadai*
丹沢山地が基準産地の1つである。
オニクワガタ *Prismognathus angularis*
ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*
ヒラタクワガタ *Serrogathus platymelus pilifer*

2. 1. 9. 3. 5. コブスジコガネ科 Family Trogidae

神奈川県からは4種が記録されているが、丹沢山地から記録されているのは下記の1種である。

ヒメコブスジコガネ *Trox opacotubercuulatus*

2. 1. 9. 3. 6. センチコガネ科 Family Geotrupidae

神奈川県からは4種が記録されているが、本調査で丹沢山地から記録されたのは従来通り下記の3種である。

ムネアカセンチコガネ *Bolbocerosoma nigroplagiatus*

オオセンチコガネ *Geotrupes auratus*

センチコガネ *Geotrupes laevistriatus*

2. 1. 9. 3. 7. コガネムシ科 Family Scerbaeidae

ヒゲブトハナムグリ亜科は近年、独立の科とされることもあるが、ここでは従来の扱いを踏襲してある。食糞群では、東丹沢でのみ記録されていたものの多くが西丹沢にも産することが、本調査で判明した。食葉群では、ヒロウドコガネ亜科とハナムグリ類の分布や生態に関する知見が増大した。記録された種は、山地性のものが多く、調査範囲をよく反映している。標本についてご支援いただいた、前波鉄也、野津裕、宮谷秀明、渡弘の諸氏に御礼申し上げます。

2. 1. 9. 3. 8. ヒゲブトハナムグリ亜科 Subfamily Glaphyrinae

ヒゲブトハナムグリ *Anthypna pectinata*

2. 1. 9. 3. 9. マグソコガネ亜科 Subfamily Aphodiinae

ヌバタママグソコガネ *Aphodius brevisculus*

オオフタホシマグソコガネ *Aphodius elegans*

オオマグソコガネ *Aphodius haroldianus*

イガクロツヤマグソコガネ *Aphodius igai pseudoigai*

ヒメキイロマグソコガネ *Aphodius inoue*
ツヤチャグロマグソコガネ *Aphodius isaburoi masumotoi*

丹沢山地が基準産地の1つである。

コスジマグソコガネ *Aphodius lewisii*
マダラヒメスジマグソコガネ *Aphodius madara*
ミゾムネマグソコガネ *Aphodius mizo*
セマダラマグソコガネ *Aphodius nigrotessellatus*
コマグソコガネ *Aphodius pusillus*
マグソコガネ *Aphodius rectus*
ヨツボシマグソコガネ *Aphodius sordidus*
ウスイロマグソコガネ *Aphodius sublimbatus*
トゲクロツヤマグソコガネ *Aphodius superatratus*
マルツヤマグソコガネ *Aphodius troitzkyi*
クロオビマグソコガネ *Aphodius unifasciatus*
フチケマグソコガネ *Aphodius urostigma*
クロモンマグソコガネ *Aphodius variabilis*
クロップマグソコガネ *Aphodius yamato*
トゲマグソコガネ *Caelius denticollis*
イシダマグソコガネ *Oxyomus ishidai*

相模大山が基準産地。

セスジカクマグソコガネ *Rhyparus azumai*

2. 1. 9. 3. 10. ダイコクコガネ亜科 Subfamily Scarabaeinae

マエカドコエンマコガネ *Caccobius jessoensis*
ニッコウコエンマコガネ *Caccobius nikkoensis*
ゴホンダイコクコガネ *Copris acutidens*
ツノコガネ *Liatongus phanaeoides*
クロマルエンマコガネ *Onthophagus ater*
コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis*
カドマルエンマコガネ *Onthophagus lenzii*
ツヤエンマコガネ *Onthophagus nitidus*
マメダマコガネ *Panelus parvulus*

2. 1. 9. 3. 11. コフキコガネ亜科 Subfamily Melolonthinae

ナガチャコガネ *Heptophylla picea*
クロコガネ *Holotrichia kiotensis*
オオクロコガネ *Holotrichia parallera*

コクロコガネ *Holotrichia picea*
コフキコガネ *Melolontha japonica*
ヒゲコガネ *Polyphlla laticollis*

2. 1. 9. 3. 12. ビロウドコガネ亜科 Subfamily Sericinae

コヒゲシマビロウドコガネ *Gastroserica brevicornis*
アカビロウドコガネ *Maladera castanea*
ビロウドコガネ *Maladera japonica*
カミヤビロウドコガネ *Maladera kamiyai*
ヒメビロウドコガネ *Maladera orientalis*
オオビロウドコガネ *Maladera renardi*
ハイイロビロウドコガネ *Paraserica gricea*
ヒゲナガビロウドコガネ *Serica boops*
コヒゲナガビロウドコガネ *Serica brevitarsis*
フウボビロウドコガネ *Serica foobowana*
アシマガリビロウドコガネ *Serica incurvata*
エゾビロウドコガネ *Serica karafutoensis honshuensis*
ホソヒゲナガビロウドコガネ *Serica nitididorsis opacidorsis*
マルヒゲナガビロウドコガネ *Serica ovata*
モモケビロウドコガネ *Serica trichofemorata*
ナエドコチャイロコガネ *Sericania mimica*
オオタケチャイロコガネ *Sericania ohtakei*
ヨツバクロチャイロコガネ *Sericania quadrifoliata*
セスジチャイロコガネ *Sericania suturalis*

2. 1. 9. 3. 13. スジコガネ亜科 Subfamily Rutelinae

コイチャコガネ *Adoretus tenuimaculatus*
ドウガネブイブイ *Anomala cuprea*
サクラコガネ *Anomala daimiana*
ヒメサクラコガネ *Anomala geniculata*
ツヤコガネ *Anomala lucens*
ハンノヒメコガネ *Anomala puncticollis*
ヒメコガネ *Anomala rufocuprea*
チビサクラコガネ *Anomala schoenfeldti*
カタモンコガネ *Blitopertha conspurcata*
セマダラコガネ *Blitopertha orientalis*
オオスジコガネ *Mimela costata*

ヒメスジコガネ *Mimela flavilabris*
キンスジコガネ *Mimela holosericea*
コガネムシ *Mimela splendens*
スジコガネ *Mimela testaceipes*
ウスチャコガネ *Phyllopertha diversa*
アオウスチャコガネ *Phyllopertha intermixta*
キスジコガネ *Phyllopertha irregularis*
マメコガネ *Popillia japonica*

2. 1. 9. 3. 14. アシナガコガネ亜科 Subfamily Hoplinae

ヒメアシナガコガネ *Ectinohoplia obducta*
アシナガコガネ *Hoplia communis*

2. 1. 9. 3. 15. カブトムシ亜科 Subfamily Dynastinae

カブトムシ *Allomyrina dichotoma*
コカブトムシ *Eophileurus chinensis*

2. 1. 9. 3. 16. ハナムグリ亜科 Subfamily Cetoninae

ハナムグリ *Eucetonia pilifera*
アオハナムグリ *Eucetonia roelofsi*
クロハナムグリ *Glycyphana fulvitemma*
コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda*
アカマダラコガネ *Poecilophilides rusticola*
ムラサキツヤハナムグリ *Protaetia cataphracta*
ミヤマオオハナムグリ *Protaetia lugubris insperata*
シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis submarumorea*
カナブン *Rhomborrhina japonica*
クロカナブン *Rhomborrhina polita*
アオカナブン *Rhomborrhina unicolor*

2. 1. 9. 3. 17. ヒラタハナムグリ亜科 Subfamily Valginae

オオヒラタハナムグリ *Charitovalgus fumosus*
トゲヒラタハナムグリ *Dasyvalgus tuberculatus*
ヒラタハナムグリ *Nipponovalgus angusticollis*

2. 1. 9. 3. 18. トラハナムグリ亜科 Subfamily Trichinae

アオアシナガハナムグリ *Gnorimus subopacus viridiopacus*
ヒメトラハナムグリ *Lasiotrichius succinctus*
オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum*
オオトラフコガネ *Paratrichius doenitzi*

ジュウシチホシハナムグリ *Paratrachius septemdecimguttatus*

2. 1. 10. ホタル上科

2. 1. 10. 1. ベニボタル科 *Lycidae*

名前の通り上翅が赤い種が多い。この赤はかなり目立つことから一種の警戒色と考えられ、アカハネムシやベニコメツキなど本科の種に擬態したと考えられる甲虫もいくつか知られている。生態は不明な点が多いが、林内の低木の葉上などに静止する成虫をみることが多い。県内からは30種が記録されているが、今回の調査では23種が記録され、これに文献記録を加えると丹沢からは26種を確認することができた。この中には県新記録種が3種含まれており、いずれも県内では比較的個体数の少ない種と考えられ、貴重な記録となった。また、ヒメベニボタルに近似の未記載種の存在が明らかとなったが、これも大きな成果といえよう。なお、文献記録のあったネアカヒシベニボタルは同定誤りであることが明らかになったので、記録を削除することとした。

ベニボタル *Lycostomus modestus*

オオクシヒゲベニボタル *Macrolycus excellens*

県新記録である。日本産のベニボタルの中では最大級の種で、今回記録された♀個体は体長17.5mmの非常に大きな個体である。

クシヒゲベニボタル *Macrolycus flabellatus*

東日本では比較的普通の種とされているが、今回の調査で得られクシヒゲベニボタル属は、ほとんどが次種のミヤマクシヒゲベニボタルで、クシヒゲベニボタルと確実に同定されたものは、堂平産のわずか2頭のみであった。したがって、丹沢ではむしろ稀な種であることが明らかとなった。また、従来の記録についても再検討する必要があるかもしれない。

Macrolycus submontanus

本属の中では最も個体数の多い優占種で、山麓から山頂部まで丹沢の全山に広く分布する。本種は、ミヤマクシヒゲベニボタル *M. montanus* にきわめて近い種であるが、交尾器の形態の違いから中根(1994)によって新種として記載された。従来、本県で、ミヤマクシヒゲベニボタルとして報告された記録は、すべてこの種名に訂正する必要があると考えられる。

ホソベニボタル *Mesolycus atrorufus*

ニセクロハナボタル *Plateros hasegawai*

次種のクロハナボタルによく似た種であるが、本種はブナ帯に限って分布する。

クロハナボタル *Plateros coracinus*

平地の雑木林からブナ帯まで広く分布する種である。平地では優占種であるが、

丹沢のブナ林では個体数はやや少なくなる。

アカゲハナボタル *Plateros purpurivestis*

今回の調査によって得られた標本で最近記録された種であるが、個体数の少ない種と思われる。

ヒメベニボタル *Lyponia delicatula*

普通種とされるが、丹沢では山麓部に限って分布する。

ヒメベニボタル近似の未記載種 *Lyponia* sp.

ヒメベニボタルにきわめて近縁の種であるが、前胸背と交尾器の形態が異なる。恐らく平地をヒメベニボタルが、ブナ帯を本種が主な生息域として棲み分けているものと思われる。Nakane(1969)には本種のほうがヒメベニボタルとして図示されているが、ヒメベニボタルのタイプの産地である長崎産の標本と比較した結果、本種のほうが未記載種であることが明らかとなった。

コガタカクムネベニボタル *Lyponia nigroscutellaris nigroscutellaris*

カクムネベニボタル *Lyponia quadricollis*

山麓部から丹沢の核心部まで広く分布する優占種である。

ニセジウジベニボタル *Lopheros harmandi*

県未記録種である。この個体は♀であるが、小あごひげの形態から本種にほぼ間違いないものと思われる。記録は地蔵平の1列のみで、個体数はかなり少ないものと思われる。

キタベニボタル *Lopheros septentrionalis*

今回追加記録が1例得られたが、きわめて稀な種と思われる。

コウノジウジベニボタル *Lopheros konoi*

県未記録種である。堂平で得られた1個体のみで、個体数はかなり少ないようである。

ヒシベニボタル *Dictyoptera gorhami*

クロミスジヒシベニボタル *Benibotarus nigripennis*

ミスジヒシベニボタル *Benibotarus spinicoxis*

ムネクロテングベニボタル *Platycis consobrinus*

出現期が他のベニボタル類よりやや遅く9月以降に出現する。ブナ帯を主な生息域としている種である。

テングベニボタル *Platycis nasutus*

低地からブナ帯まで広い分布域をもつ普通種である。出現期は早い。

スジアカベニボタル *Conderis orientis*

カタアカベニボタル *Conderis rufohumeralis*

ネアカベニボタル *Cautires bourgeoisi*

ユアサクロベニボタル *Cautires yuasai*

マエアカクロベニボタル *Cautires zahradniki zahradniki*

ミダレクロベニボタル *Cautires geometricus*

本県からは2例しか記録のない種で、比較的稀な種と思われる。

削除すべき事項

次の種については、誤同定であることが明らかとなったので記録を削除したい。

ネアカヒシベニボタル *Dictyoptera speciosa*

姫次の記録(神奈川県立博物館, 1972)があるが、標本を確認した結果、マエアカクロベニボタルの誤りであることが判明した。

2. 1. 10. 2. ジョウカイボン科 *Cantharidae*

ジョウカイボン科は、この上科の中では、最も多くの種を含んでいる科で、まだ、未知の部分が多く、現在もなお多数の未記載種が存在する。しかし、神奈川県についてはかなり調査が進んでおり、その概要がほぼ明らかになっている。すべて肉食性の甲虫で、成虫は樹葉上や花などにみられ、アブラムシなどを捕食し、幼虫は林床に生息し、やはり土壌性の小動物を食する。県内からは72種が知られており、今回の調査では54種が確認された。これに文献による記録も加えると丹沢地域から63種が記録されたことになる。特筆すべき成果としては、今回の調査で得られた標本を基にニッポンクロチビジョウカイという新種が記載されている。また、県未記録種であるギョウトククビボソジョウカイとハウシニンフジョウカイが採集されたことも大きな成果の1つと思われる。なお、クロヒメジョウカイが文献によって記録されていたが、同定誤りが明らかとなったので、ここで記録を削除することとした。

2. 1. 10. 3. ジョウカイボシ亜科 *Cantharinae*

クビボソジョウカイ *Podabrus(Podabrus)heydeni*

ヒメジョウカイ *Rhagonycha japonica* として記録された山北町箒沢産の標本(神奈川県立博物館, 1972)のうち、次の2頭は本種の誤りであったので、ここに記録を再録したい。

ヒルガタケクビボソジョウカイ *Podabrus(Podabrus)hirugatakensis*

ユーシンクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)yushinensis*

カナガワヒメクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kanagawaensis*

ギョウトククビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)gyotokui*

県新記録である。本種は、福岡県の英彦山を基準産地とし記載された種で、現在まで九州以外からは知られていない。今回の記録は離れた産地のものとしてきわめて画期的である。この個体は、英彦山産のものと比較して交尾器の形態と体の色彩などせにわずかな差が認められることから、将来的には亜種として区別される可能性が高いが、とりあえず今回は本種に含めておく。

ミヤマクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)lictorius*

ウスイロクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)temporalis*

ヤマウスイロクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)hinakurai*

ウスイロクビボソジョウカイの近似種で、つい最近記載された種である。ウスイロクビボソジョウカイ主に平地に、本種はやや標高の高いところに分布する。津久井などで、混棲地が知られているが、丹沢でも水ノ木林道付近で両種が採集されていることから、ここも混棲地である可能性がある。

ミクニクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)mikunisanus*

丹沢稜線部における優占種で、個体数はきわめて多い。

タナサワノアタマクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)tanasawanoatanus*

ハウシニンフジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)hoshiensis*

県新記録である。本種は静岡県などですでに採集されていることから、本県にも分布することがある程度予想されていた種である。通常は沢沿いのカエデの花などから採集される場合が多いが、今回はブナ林の中で得られた。

ヒガシチビクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)hiranoi*

チャイロチビクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)neglectus minus*

県内に産するクビボソジョウカイの仲間では最も小さな種で、主にブナ帯で比較的多く見られる。

ミヤマチビクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)tsuyukii*

クロチビクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)micronigrinus*

クロホソクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)taoi*

谷筋から山頂部まで丹沢一帯にきわめて個体数の多い優占種である。黒色で細長い*Podabrus*は、本州に何系統か分布するが、不思議と県内ではこの種しか見いだせない。

キニンフジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kiiensis hakonensis*

本種は紀伊半島を基産地として記載された種で、神奈川県産は亜種*hakonensis*として区別されている。県内では箱根のみで記録されていたが、今回丹沢からも初めて採集された。

ヤトウスイロクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)bilineatus oisoanus*

タカオクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)takaosanus*

キントキクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kintokisanus*

イヌゴエジクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)inugoejianus*

キシクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kiso fujisanus*

ナナサワクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)nanasawaensis*

クロヒメクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)malthinoides*
ヒノキボラクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)hinokiboranus*
コクロニンフジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)kadowakii*
キベリクロクビボソジョウカイ *Podabrus(Asiopodabrus)inexpectus*
ニセミヤクビボソジョウカイ *Podabrus(?)pseudolictrius*

丹沢一帯に個体数が多い。本種は他の*Podabrus*とは、やや異なる系統で、亜属名等はまだ未確定である。

シンボリヒゲナガジョウカイ *Micropodabrus shinborii*

近似種のナガヒメジョウカイは県内では箱根に分布する。丹沢では本種のみが得られており、丹沢と箱根の間に境界があるという、興味深い分布をしている。早春にカエデの花で採集される場合が多い。

クロヒゲナガジョウカイ *Habronychus providus*

アオジョウカイ *Themus cyanipennis*

平地から山頂部まで、普通に産する。本県産の本種は、名前のように青くはなく、暗い青紫色ともいうべき色彩をしている。特に丹沢産のものは、黒化が強く、後述するクロジョウカイにかなりよく似てくる。

ジョウカイボン *Athemus(Athemus)suturellus*

クロジョウカイ *Athemus(Athemus)attristatus*

クラヤミジョウカイ *Athemus(Athemus)nigerrimus*

県内では他に愛川街の1例(荏部ほか、1996)が知られるのみの珍しい種である。本種には様々な色彩変異が知られ、模式産地である紀伊半島大峰山系の個体は、全体が黒色で本県産のクロジョウカイときわめてよく似ている。しかし、本県産のクラヤミジョウカイは上翅の会合線にそって黒紋をもつ型となる。神奈川県内に限ると、このような色彩型はジョウカイボンやクロジョウカイでは出現しないため、色彩パターンだけで本種の同定が可能である。

クロホソジョウカイ *Athemus(Athemus)aegotus*

ツユキクロホソジョウカイ *Athemus(Athemus)tsuyukii*

フチヘリジョウカイ *Athemus(Athemus)maculiellytris*

セボシジョウカイ *Athemus(Andrathemus)vitellinus*

ニセヒメジョウカイ *Athemus(Andrathemus)lineatipennis*

低地から山頂部まで産するが、標高の低いところに個体数が多い。以前はヒメジョウカイと混同されており、古い記録は本種である場合が多いようである。

ホソニセヒメジョウカイ *Athemus(Andrathemus)okuyugawaranus*

ニセヒメジョウカイによく似た種であるが、本種のほうは、ブナ帯を主な分布域としている。個体数はやや少ないようである。

ヒサマツジョウカイ *Athemus*(*Andrathemus*)*hisamatsui*

ヤトセスジジョウカイ *Athemus*(*Andrathemus*)*yato*

本種はその名の通り、谷戸等の湿地に生息する種で、丹沢は山麓部の谷戸に限って分布する。

ウスチャジョウカイ *Athemellus insulsus*

ムネアカクロジョウカイ *Athemellus adusticollis*

ヒガシマルムネジョウカイ *Prothemus reini*

クリイロジョウカイ *Stenothemus badius*

ジョウカイボンの仲間では例外的に遅い時期に出現する種で、7月下旬から9月までみられる。個体数の多い優占種である。

ミヤマヒメジョウカイ *Mikadocantharis alpicola*

次種のヒメジョウカイときわめて近縁な種で、本種は主としてブナ帯に分布し、個体数は多い。従来、県内では両種の混棲地は知られていなかったが、今回の調査で、高指山と三国峠で両者が混棲することが初めて確認された。

ヒメジョウカイ *Mikadocantharis japonica takaosana*

本種は主として平地を中心に分布する。どちらかというややオープンな環境を好む傾向があり、生態的な面でもミヤマヒメジョウカイとはやや異なっている。

コクロヒメジョウカイ *Kandyosilis viatica*

従来の記録は箱根のみで、丹沢からは今回初めて記録された。7月中旬以降ブナ帯に出現するが個体数はやや少ない。

2. 1. 10. 4. チビジョウカイ亜科 *malthininae*

フタイロチビジョウカイ *Malthinellus bicolor*

ウスバツマキジョウカイ *Malthinus nakanei*

熊笹ノ峰産の個体でキアシツマジョウカイ *Malthinus humeralis* として報告された(高橋、1992)が、その後の調査で、ウスバツマキジョウカイとしたほうが正しいことが明らかとなったので、今後種名をこのように訂正する。丹沢の稜線部に産するが、個体数は少ない。

ウスイロツマキジョウカイ *Malthinus sagamiensis*

ウスバツマキジョウカイにきわめて近い種であるが、本種は平地を中心に分布する。

クロスジツマキジョウカイ *Malthinus mucoreus*

本種は西日本では普通種であるが、本県では非常に少ない種で、わずかに横須賀市の1例が知られるのみであった。今回、丹沢の主稜部から記録されたが、ブナ林から本種が採集されるとはまったく予想されなかったことであった。

クロツマキジョウカイ *Malthinus japonicus*

ムネミゾクロチビジョウカイ *Malthodes sulcicollis*

平地から稜線部にいたるまできわめて個体数が多い。本属の中の最優占種である。なお、山上昭氏採集の標本は、次種も含めてすべてブナの枯れ枝から出現したもので、この属の幼虫が朽木中にも生息することが明らかとなった。今までこうした知見は知られておらず、貴重な記録と思われる。

ナガチビジョウカイ *Malthodes longipygus*

ホソチビジョウカイ *Malthodes furcatopygus*

キタチビジョウカイ *Malthodes kurosawai*

今回の調査で発見され記録された種である。

ニッポンクロチビジョウカイ *Malthodes yukihiroi*

今回の総合調査で発見され、新種として記載された種である。ブナ林内の低木の葉裏などにみられるが、個体数は少ない。

2. 1. 10. 5. コバネジョウカイ亜科 *Chauliognathinae*

オオメコバネジョウカイ *Microichthyurus pennatus*

従来の記録は藤野町の1例のみで、比較的個体数の少ない種と考えられる。

キベリコバネジョウカイ *Trypherus niponicus*

本属の中で、県内では最も個体数の多い種であるが、丹沢ではあまり採集されていない。

クロコバネジョウカイ *Trypherus nigrinus*

ブランクッチコバネジョウカイ *Trypherus atratulus*

削除すべき記録

次の種については、調査の結果同定に誤りがあることが明らかとなったので、記録を削除したい。

クロヒメジョウカイ *Rhagonycha caroli*

山北町蒂沢産の2頭の標本で記録された(神奈川県立博物館、1972)が、1頭はクロホソクビボソジョウカイ *Podabrus (Asiopodabrus) taoi*、もう1頭はツユキクロホソジョウカイ *Athemus (Athemus) tsuyukii*の誤りであった。本種は、高山のハイマツ帯に出現する種で、本県に分布する可能性は極めて低いと考えられる。

2. 1. 10. 6. ホタルモドキ科 *Omethidae*

日本産わずか3種という小さな科で、ジョウカイボン科に近縁であり、一時はそちらに含められていたこともある。主として、低木の葉裏などにみられ、灯火にも飛来するが、生態等は不明な点が多い。県内からは2種が記録されているが、今回の調査でもこの2種を確認することができた。

チビホタルモドキ *Omethes rugiceps*

丹沢から初めて記録される種である。小型の種であるため、見逃されていたもの

と思われる。

ホソホタルモドキ *Drilonius striatus*

2. 1. 10. 7. ホタル科 *Lampylidae*

ホタル科は、ゲンジボタル、ヘイケボタルがあまりにも有名で、発光性をもつことで、一般にもよく知られた昆虫である。この2種は水生昆虫であるが、その他の種は陸生で、貝類を主な餌としている。県内からは10種が知られるが、今回の調査では6種が確認され、これに文献記録を加えると合計8種が丹沢から記録されたことになる。

ムネクリイロボタル *Cyphonocerus ruficollis*

カタモンミナミボタル *Drilaster axillaris*

ゲンジボタル *Luciola cruciata*

ヘイケボタル *Luciola lateralis*

ヒメボタル *Hotaria parvula*

本種には低地に小型の特殊な型が産することが知られているが(大場、1981)、今回得られた個体はいずれも体長が 8mm 前後あり、いわゆる山地に産する型と同じものと思われる。

クロマドボタル *Lychnuris fumosa*

オバボタル *Lucidina biplagiata*

平地から山頂部まで、きわめて個体数の多い普通種である。

オオオバボタル *Lucidina accensa*

オバボタルに似るが、やや大型でブナ帯にみられる。

2. 1. 11. カミキリモドキ科

2. 1. 11. 1. カミキリモドキ科 *Oedemeridae*

一見、カミキリムシに似ているので、その名がある。世界に1000種ほどの記録があり、日本では50余種が生息しており、神奈川県では25種の報告があるが、今回、1種追加され26種となった。丹沢では21種の生息が確認された。成虫は花に集まり、蜜や花粉を食べるとされる。しばしば灯火に飛来し、体液中にカンタリジンを含むため、皮膚に炎症を起こさせるものもある。

2. 1. 11. 2. Subfamily *Nacerdinae*

スジカミキリモドキ *Chrysanthia viatica*

山地性の種で、長野県や山梨県では多いが、県内では丹沢のみから発見されている。主に花上から得られる。

キクビカミキリモドキ *Nacerdes atriceps*

丹沢では山地にかなり見られるようである。しばしばライトトラップで得られる。

アオカミキリモドキ *Nacerdes waterhousei*

胸が黄色で上翅が青いカミキリモドキでは最も多い種。

カトウカミキリモドキ *Nacerdes katoi*

前種より少ないが、各地に見られる。

シリナガカミキリモドキ *Nacerdes caudata*

各地に普通に見られる。

キイロカミキリモドキ *Nacerdes hilleri*

各地に見られるが、それほど多くはない。

キバネカミキリモドキ *Nacerdes luteipennis*

各地に多い普通種。ライトトラップによく来る。

コウノカミキリモドキ *Nacerdes konoi*

山地性の種であり多くない。

オオサワカミキリモドキ *Nacerdes osawai*

丹沢ではかなり生息しているようである。灯下採集でも得られる。

アイヌカミキリモドキ *Nacerdes ainu*

神奈川県から初めて記録されるもので、山地性の種で、珍しい。ライトトラップで得たという。

コゲチャカミキリモドキ *Nacerdes spinicoxis*

記録は次のものだけで、少ない。

ハラグロカミキリモドキ *Nacerdes deformis*

山地にかなり見られるようである。

クロカミキリモドキ *Opsimea nigripennis*

山地に見られるが、多くはない。

2. 1. 11. 3. Subfamily Oedemerinae

アカクビカミキリモドキ *Ischnomera konoi*

かなり少ない種である。

アオグロカミキリモドキ *Ischnomera nigrocyanea nigrocyanea*

大山が原産地で、各地に見られるが、多くない。

メスグロカミキリモドキ *Ischnomera carinicolis*

山地性の種のように、丹沢り高地帯に生息しているようである。

ハネアカカミキリモドキ *Iachnomera brunneipennis*

本種も山地に見られるが、少ない。

マダラカミキリモドキ *Oncomera venosa*

春、低山帯に多く見られる。

アイイロカミキリモドキ *Oedemera robusta*

かなり少ない種のようなのである。

キアシカミキリモドキ *Oedemera manicata*

各地に普通に見られるが、次種より少ない。

モモブトカミキリモドキ *Oedemera lucidicollis*

春、タンポポの花などに極めて多く見られる。

2. 1. 12. ハナノミ科およびハナノミダマシ科

2. 1. 12. 1. ハナノミ科 Mordellidae

日本からは約175種が既知であるが、同定の困難な分類群を含んでいることもあって、未記載のものも少なくない。神奈川県内からはこれまで38種が記録されているが、調査はきわめて遅れており、まだ多くの未記録種が存在しているものと考えられる。

今回、丹沢山地からは次の30種が記録された。このうち11種は神奈川県から初めて報告される種である。一方で、本州のブナ帯に普通なクロハナノミ属 *Mordella* の数種は、今回の現地調査でも発見できなかった。この理由としては、明らかに調査不足であることが指摘されるだろうが、訪花性の種類の個体数が他地域よりも著しく少ないことも確かであると思われる。ヒメハナノミ族は同定が困難で、種名が確定できないものがいくつかあった。

2. 1. 12. 2. ハナノミ族 Mordellini

ネジロモンハナノミ *Tomoxia scutellata*

ブナの立枯れや倒木に集まり、個体数はそれほど少なくない。

モンハナノミ *Tomoxia nipponica*

前種とともにブナの立枯れや倒木に集まる。

キボシハナノミ *Hoshihananomia hananomi*

本州のブナ帯には優占な種であるが、丹沢での過去の記録はわずかに次の1例があるにすぎない。

ウスキボシハナノミ *Hoshihananomia kurosai*

県内での記録は少なく、丹沢では今回の調査で初めて発見された。

シラホシハナノミ *Hoshihananomia perlata*

本州のブナ帯には前々種とともに優占な種であるが、丹沢での記録はごく少ない。

アカカタハナノミ *Mordellaria aurata* *

神奈川県初記録種。ブナ帯のむしろ上部で局所的に記録のある種で、丹沢山地からの発見は興味深い。

ゼンチハナノミ *Mordellaria zenchii* *

神奈川県初記録種。前種に似るが、日本各地のブナ帯からより普遍的に採集されている。

アラキハナノミ *Mordellaria arakii*

今回の調査によって県内から初めて発見された。シイ・カシ帯からブナ帯まで分布するが今回の調査では次の2例にとどまった。

キンオビハナノミ *Variimorda flavimana*

シイ・カシ帯からブナ帯まで分布する種であるが、今回の調査では発見されなかった。丹沢での過去の記録は次の2例のみ。

クロハナノミ *Mordella brachyura*

この属としては本種の記録があるにすぎず、しかも同定の確実性に不安がある。

2. 1. 12. 3. ヒメハナノミ族 *Mordellistenini*

クロヒメハナノミ *Mordellistena comes*

低地から山地にかけてもとても普通に見られる種であるが、今回は、1個体採集されたのみであった。

トケジクロヒメハナノミ *Mordellistena tokejii*

この属の中では大型の種類。コゴメウツギの花上で得られた。

アトグロハナノミ *Mordellistena fuscoapicalis*

逗子が基準産地の1つとなっているが、県内ではそれ以降記録がなかった。

オゼクロハナノミ *Mordellistena ozeana*

神奈川県初記録種。

カタスジヒメハナノミ *Mordellistena brevilineata*

ヨモギの茎から幼虫が得られている。

タマクロヒメハナノミ *Mordellistena tamana*

シシウドから幼虫が得られている。

マエアカヒメハナノミ *Mordellina callichroa* *

神奈川県初記録種。

ヤマモトヒメハナノミ *Mordellina yamamotoi*

川崎市、横浜市などからも記録があり、各地に普通に見られる。

クロズヒメハナノミ *Mordellina longula* *

神奈川県初記録種。

ウスイロヒメハナノミ *Mordellina palliata*

神奈川県内ではほかに大磯町の記録があるのみ。

カグヤヒメハナノミ *Mordellina kaguyahime* *

神奈川県初記録種。

ビロウドヒメハナノミ *Falsomordellistena chrysotrichia*

県内からの記録は大山の以下の2例のみ。

カタビロヒメハナノミ *Falsomordellistena auromaculata* *

神奈川県初記録種。

キンモンヒメハナノミ *Falsomordellistena auriguttata* *

神奈川県初記録種。

サトウヒメハナノミ *Falsomordellistena satoi*

肩部と頭部が赤褐色の特徴的な種で、県内各地で採集されているが、今回の調査では発見されなかった。

タカオヒメハナノミ *Falsomordellina takaosana*

神奈川県内ではほかに、南足柄市、箱根町で採集されている。

ハセガワヒメハナノミ *Ermischella hasegawai* *

神奈川県初記録種。

アワヒメハナノミ *Pseudotplida awana* *

神奈川県初記録種。

オナガヒメハナノミ *Mordellochroa pygidialis* *

神奈川県初記録種。ブナ帯に見られるが少ない。県外での記録もあまりない。

ナガトゲヒメハナノミ *Tolidostena japonica*

丹沢からは1例が知られるのみ。

2. 1. 12. 4. ハナノミダマシ科 *Scraptiidae*

日本からは16種が既知であるが、なお種名の確定していない種類もある。神奈川県内からはこれまで7種が記録されていたが、調査はきわめて遅れていた分類群である。

今回、丹沢山地からは次の8種が記録された。このうち、ミッチフナガタハナノミとハヤシフナガタハナノミは神奈川県から初めて報告される種である。訪花性の強いクロフナガタハナノミ属 *Anaspis* の種類は出そろったかもしれないが、そうではない他属のものはまだ発見されることだろう。

タケイフナガタハナノミ *Anaspis takeii*

春期に採集されており、神奈川県内ではほかに南足柄市で記録されている。

コフナガタハナノミ *Anaspis funagata*

クロフナガタハナノミ *Anaspis marseuli*

各地にごく普通で、カエデ類、ズミ、ウツギなど各種の花に集まる。

キイロフナガタハナノミ *Anaspis luteola*

本科では前種に次いで各地に普通。

ミッチフナガタハナノミ *Anaspis mitchii* *

ハヤシフナガタハナノミ *Anaspis hayashii* *

ホソフナガタハナノミ *Pentaria elongata*

神奈川県内では丹沢における次の1例のほか、津久井郡藤野町と足柄下郡山北町の各1例(平野, 1987)が知られるのみ。

キイロハナノミダマシ *Scryptia livens*

神奈川県内では丹沢での次の1例のほか、大磯町の記録を見るにすぎない。

2. 1. 13. カミキリムシ類

2. 1. 13. 1. ホソカミキリムシ科 *Disteniidae*

かつてはカミキリムシ科の1亜科に含められていたが、最近は独立の科として扱う研究者が多い。日本からは3種が記録されており、神奈川県にはそのうちの1種だけが分布する

ホソカミキリ *Distenia gracilis*

2. 1. 13. 2. カミキリムシ科 *Cerambycidae*

日本に720種が知られる(大林ほか編, 1992)大きな科で、甲虫の中では最も詳しく調査されている分類群の1つであるが、なお国内から未記載の種が発見されつつある。神奈川県からはこれまで約265種が報告されてきたが、今回初めて記録されるものが9種あるので、県産としては合計約274種が知られることになる。このうち、丹沢山地から今回報告されるものは239種であり、県全体の約87%に及ぶ。

丹沢山地を特徴づける種類としては、1935年に1頭だけが得られているクロキクスイカミキリを筆頭に挙げなければならない。本種には日光中禅寺より記載された *Phytoecia nigerrima* Breuning(属は現在 *Stenostola* に移されている: この種の確実な記録は原記載のみ)の名が与えられているが、筆者らの1人高桑はそれとは異なる種という見解(未発表)をもっており、それが正しければ丹沢産クロキクスイカミキリは今のところこの地域に固有である。いずれにしろ、追加記録が望まれる。

丹沢山地に準固有的な種類もある。未記載のシナノキチビコブカミキリ(仮称)はブナ帯の上部で発見されており、現在のところ丹沢と富士山に固有な種である。同様に、フジヒメハナカミキリとコトヒメハナカミキリも丹沢とその周辺の山地だけに分布する。また、ヤツボシハナカミキリとフタスジハナカミキリは黒化傾向が著しく、後者は亜種として区別される場合がある。さらに、フタコブルリハナカミキリは丹沢各地で発見されているが、ブナ帯の個体はオスで前胸の黒化傾向が著しくとくに西丹沢産の一部のものはクロジョウカイを思わすほど鞘翅も黒ずんでいる。これらは南部フォッサマグナ地域に固有な種または型であり、フォッサマグナ要素として

位置づけられる。

分布の限界に位置している種類としては、東北限としてのヘリグロホソハナカミキリがあり、奥多摩方面にまで分布を延ばしているがトガリバホソコバネカミキリやシロチビコブカミキリもこれに準ずる。また、ブナ帯上部に生息するキベリカタビロハナカミキリ、ニセハムシハナカミキリ、クリイロシラホシカミキリなどは標高的に限界に近いと考えられ、これらはいずれも県内では丹沢の主稜部だけから発見されている。

一方、丹沢山地での分布が予想されながら今回リストアップできなかった種類もある。例えばアオスジカミキリやタイワンメダカカミキリ、マツシタトラカミキリ、クリチビカミキリ、イッシキキモンカミキリなどであるが、これらのうちのいくつかは山麓部から中腹にかけて見つかる可能性が高い。また、奥多摩や富士山など周辺地域のブナ帯に分布していながら、いまだに丹沢から未発見の種類も少なくない。例えばコウヤホソハナカミキリやフタスジカタビロハナカミキリ、ルリハナカミキリ、ヒメアカハナカミキリ、ブチヒゲハナカミキリ、イガブチヒゲハナカミキリ、オオハナカミキリ、キモンハナカミキリ、クロサワヘリグロハナカミキリ、ヒゲシロホソコバネカミキリ、ハセガワトラカミキリなどで、これらの多くは丹沢には分布していない可能性が強く、伊豆箱根欠如要素として位置づけられるだろう。

個体数の少なさという点も丹沢の特徴と言えるだろう。本州のブナ帯ではほぼどこでも優占種の1つであるマルガタハナカミキリやチャボハナカミキリ、ミヤマクロハナカミキリ、ヤツボシハナカミキリなども、発見はきわめて難しい有り様である。この原因の1つとしては、丹沢の主稜部には訪花性カミキリの好んで集まる花があまりないことが挙げられるかもしれないが、ノリウツギやリョウブ、シシウドがあってもそれほど個体数が集まっていないのが通常の経験である。この原因としては、丹沢におけるそれらの花期とカミキリの発生期とが、うまく一致しないこともあるだろう。

2. 1. 13. 3. ノコギリカミキリ亜科 *Prioninae*

ウスバカミキリ *Megopis sinica*

ノコギリカミキリ *Prionus insuralis*

ニセノコギリカミキリ *Prionus sejunctus*

丹沢からの正式な記録としては今回が初めてである。県内ではこれまで伊勢原市のほか、箱根山麓、真鶴半島などで記載されている。

コバネカミキリ *Psephactus remiger*

ブナなどの立ち枯れ、古い倒木や薪などに見られるが、丹沢では比較的少ない。

2. 1. 13. 4. クロカミキリ亜科 *Spondylinae*

クロカミキリ *Spondylis buprestoides*

サビカミキリ *Arhopalus coreanus*

丹沢ではブナ帯からは記録がない。

シナノサビカミキリ *Arhopalus tobirensis*

丹沢での記録は次の3か所のみ。

ツシマムナクボカミキリ *Cephalallus unicolor*

マツなどの針葉樹に寄生するが、丹沢では少ない。

オオクロカミキリ *Megasemum quadricostulatum*

神奈川県では多くない。

オオマルクビヒラタカミキリ *Asemum striatum*

神奈川県での記録は次の1例のみ。

2. 1. 13. 5. ハナカミキリ亜科 *Lepturinae*

テツイロハナカミキリ *Encyclops olivacea*

ゴトウヅルなどの各種の花に集まるが、神奈川県では丹沢から以下の記録があるにすぎない。

ホンドハイイロハナカミキリ *Rhagium femorale*

モミなどの針葉樹の立ち枯れや倒木につくが、県下での記録はごく少ない。

ヒラヤマコブハナカミキリ *Enoploderes bicolor*

丹沢では次の2例しか記録がないが、広く分布しているものと思われる。

フタコブルリハナカミキリ *Stenocorus caeruleipennis*

丹沢山麓では多産するが、いわゆる主稜部では比較的少なく、しかも特にオスで前胸の黒化傾向がめだつ。加入道山産のオスと畦ヶ丸山産のメスは鞘翅までが黒ずみ、一見するとクロジョウカイに似る。

モモグロハナカミキリ *Toxotinus reini*

県下ではあまり多くない。

キベリカタビロハナカミキリ *Pachyta erebia*

丹沢主稜部のみで記録されていたが、今回の調査で西丹沢でも記録された。

クビアカハナカミキリ *Gaurotes atripennis*

神奈川県では次の1例のみ。

カラカネハナカミキリ *Gaurotes doris*

ニセハムシハナカミキリ *Lemula japonica*

ブナ帯上部に生息する種で、丹沢に分布することは興味深い。

キバネニセハムシハナカミキリ *Lemula decipiens*

ピックニセハムシハナカミキリ *Lemula rufithorax*

県内では意外に少ない。丹沢ではブナ帯もしくは西丹沢で採集されている。

アカイロニセハムシハナカミキリ *Lemula nishimurai*

前種よりもさらに少ない。県内では北丹沢と東丹沢の低標高地でのみ記録されており、明らかに前種とは異所的な分布態を示す。

ヒナレリハナカミキリ *Dinoptera minuta*

チャイロヒメコブハナカミキリ *Pseudosieversia japonica* *

神奈川県初記録種。オスはカツラの大木周辺の下草やカツラの下枝の葉上に静止しているものが多い。メスは根際の樹皮に隠れていて発見しにくい。雌雄ともたまに花へも集まる。

ホソガタヒメハナカミキリ *Pidonia semiobscura*

県内では丹沢のみに分布する。

マツシタヒメハナカミキリ *Pidonia matsushitai*

県内では丹沢のみに分布するが、個体数はきわめて少ないようで、次の2例が知られているにすぎない。

ツマグロヒメハナカミキリ *Pidonia maculithorax*

以前はカクムネヒメハナカミキリと呼ばれていた種。

フトエリマキヒメハナカミキリ *Pidonia himehana*

この種は以前、*P. mutata* ヒメハナカミキリと呼ばれていたものである。このグループはまだ未整理で、学名・和名ともどれを当てるかは問題があるが、とりあえずこの学名と和名を当てた。

ミヤマヒメハナカミキリ *Pidonia sylvicola*

県内では丹沢のみに分布するが、個体数はきわめて少ないようで、次の2例が知られているにすぎない。

ナガバヒメハナカミキリ *Pidonia signifera*

キベリクロヒメハナカミキリ *Pidonia discoidalis*

オオヒメハナカミキリ *Pidonia grallatrix*

ヨコモンヒメハナカミキリ *Pidonia insuturata*

県内では丹沢からのみ記録されている。

ムネアカヨコモンヒメハナカミキリ *Pidonia masakii*

県内では丹沢からのみ記録されている。

ニセヨコモンヒメハナカミキリ *Pidonia simillima*

セスジヒメハナカミキリ *Pidonia amentata*

コトヒメハナカミキリ *Pidonia lyra*

丹沢を基準産地とする種類の1つ。いわゆる南部フォッサマグナ地区に固有的に分布する。

フジヒメハナカミキリ *Pidonia fujisana*

南部フォッサマグナ地区に固有的に分布する(ただし、箱根には分布しない)代表的な昆虫。今回の調査によって丹沢山地には広く分布することが明らかとなった。

チャイロヒメハナカミキリ *Pidonia aegrota*

フタオビノミハナカミキリ *Pidonia puziloi*

チビハナカミキリ *Alosterna chalybeella* *

県初記録種。低山帯から中山帯のモミ林を中心に生息している種で、以前から本県に分布していると予想されていた種であるが、今回ようやく記録された。

チャボハナカミキリ *Pseudalosterna misella*

本州のブナ帯では最も普通なハナカミキリの1つであるが、なぜか本県では記録が非常に少なかった。

ミヤマルリハナカミキリ *Kanekoa azumensis*

神奈川県では非常に珍しい種。

ミヤマクロハナカミキリ *Anoploderomorpha excavata*

丹沢での採集例は少ない。

ヘリグロホソハナカミキリ *Ohbayashia nigromarginata*

タンナサワフタギの立ち枯れに好んで集まる。また、ときどき花にも集まる。

ヘリウスハナカミキリ *Pyrrhona laeticolor*

タンナサワフタギの立ち枯れに好んで集まる。また、ときどき花にも集まる。

ヒゲブトハナカミキリ *Pachypidonia bodemeyeri*

今回の調査によって神奈川県から初めて記録された。非常に珍しい種と思われてきたが、近年各種広葉樹の樹洞に生息することが分かり、各地で発見されるようになった。堂平では次の記録のほか、シナノキやブナの樹洞でも得られている。

キヌツヤハナカミキリ *Corennys sericata*

ブナやモミ類の立ち枯れなどに集まる。

ヤマトキモンハナカミキリ *Judolia japonica*

県内での記録はごく少なく、丹沢では次の2例が知られるのみ。

マルガタハナカミキリ *Pachytodes cometes*

2000m級の山がある地域では最も優占な種だが、本県での記録は丹沢に限られ、しかも採集例は少ない。

ヌバタマハナカミキリ *Judolidia bangi*

一般的に少ない種で、飛翔中のものが採集される場合が多いが、花にも集まる。

ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes*

アカハナカミキリ *Corymbia succedanea*

ベニバハナカミキリ *Paranaspia anaspidoides*

丹沢初記録。ケヤキの樹洞にいるが、発生木の周辺の葉上や飛翔中のものが多い。稀にクリの花でも得られる。

ムネアカクロハナカミキリ *Leptura dimorpha*

近年県下では山地、平地とも少なくなった。

ヤツボシハナカミキリ *Leptura mimica*

山麓部ではいわゆるツマグロハナカミキリ型の個体であるが、主稜部ではほとんど全体が黒化した型であることはきわめて興味深い。(橋本・中山、1990)。ツマグロハナカミキリ型の個体を独立種とする考え方もあるが、その差は必ずしも明らかとは思われないので、ここでは同一種として扱った。

ヨツスジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata*

ヒメヨツスジハナカミキリ *Leptura kusamai*

県内からは次の1例が知られているにすぎない。

コヨツスジハナカミキリ *Leptura subtilis*

今回の調査で初めて西丹沢で記録された。

ハネビロハナカミキリ *Leptura latipennis*

丹沢初記録種。本州のブナ帯ではそれほど少ない種ではないが、県内での記録は他に津久井郡藤野町における1例があるにすぎない。

カタキハナカミキリ *Pedostrangalia femoralis*

県内での記録は少ない。

フタスジハナカミキリ *Nakanea vicaria*

富士山や丹沢など南部フォッサマグナ地域では多少とも黒化した個体が多く、別亜種として区別されることもある。丹沢の個体は黒化の著しいものがほとんどであるが、基本型と差の少ない個体も現れる。

オオヨツスジハナカミキリ *Macroleptura regalis*

セアカハナカミキリ *Macroleptura thoracica*

今回の現地調査でも丹沢主稜部より確認することはできなかった。ブナ帯の上部に生息する種であり、次の記録はラベルミスの可能性が考えられる。

カエデノヘリグロハナカミキリ *Eustrangalia distenioides**

神奈川県初記録種。以前より神奈川県にも分布しているものと予想されていた種だが、ようやく筆者らの1人、木下により採集された。

ヒゲジロハナカミキリ *Japonostrangalia dentatipennis*

県内では少ない種。

アオバホソハナカミキリ *Strangalomorpha tenuis*

ジャコウホソハナカミキリ *Mimostrangalia dulcis*

全国的に分布しているが少なく、県内では稀。

タデジマホソハナカミキリ *Parastrangalis shikokensis*

県内では少ない。

ニンフホソハナカミキリ *Parastrangalis nymphula*

ニョウホウホソハナカミキリ *Parastrangalis lesnei*

ミヤマホソハナカミキリ *Idiostrangalia contracta*

県内では丹沢だけに分布する。

ハコネホソハナカミキリ *Idiostrangalia hakonensis*

ホソハナカミキリ *Leptostrangalia hosohana*

2. 1. 13. 6. ホソコバネカミキリ亜科 *Necydalinae*

オオホソコバネカミキリ *Necydalis solida*

県内では丹沢だけに分布し、ブナ帯上部から記録されている。

クロホソコバネカミキリ *Necydalis harmandi*

トガリバホソコバネカミキリ *Necydalis formosana*

2. 1. 13. 7. カミキリ亜科 *Cerambycinae*

ミヤマカミキリ *Massicus raddei*

キマダラカミキリ *Aeolesthes chrysothrix*

マルクビケマダラカミキリ *Trichoferus campestris*

丹沢初記録。

トビイロカミキリ *Allotraeus sphaerioninus*

ヨツボシカミキリ *Stenygrinum quadrinotatum*

1980年代以降は全国的に珍しい種となってしまった。減少した理由は不明。

丹沢でも最近の採集例はないようである。

アメイロカミキリ *Stenodryas clavigera*

テツイロヒメカミキリ *Ceresium sinicum*

丹沢初記録。平野部では近年多産するが、山地部での記録は珍しい。

カッコウメダカカミキリ *Stenhomalus cleroides*

トワダムモンメダカカミキリ *Stenhomalus lighti*

キイロメダカカミキリ *Stenhomalus nagaoi* *

県初記録種。近隣では伊豆半島、千葉県清澄山塊、茨城県水府村で記録があり、本県にも分布するのではないかと期待されていた。

タカオメダカカミキリ *Stenhomalus takaosanus*

今回ブナの枯れ枝より羽化脱出したが、県内での記録は稀のようである。

ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra nitida*

神奈川県では津久井郡からのみ記録されており、丹沢からは次の1例が発表さ

れているにすぎない。

オダヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra gracilis*

コジマヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra kojimai*

コボトケヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra kobotokensis*

丹沢初記録。かなり古い採集例だが、丹沢山地からの記録は他にないため採録した。県内ではこれまで津久井地方と厚木市北部だけから知られていたにすぎない。

ホタルカミキリ *Dere thoracica*

トラフホソバネカミキリ *Thranium variegatus*

クスベニカミキリ *Pyrestes nipponicus*

丹沢では意外に採集例が少ないようで、次の3例が知られるのみ。

ルリボシカミキリ *Rosalia batesi*

県内では丹沢山地から津久井地方にかけて分布するが、箱根からは記録がない。最近になって分布を拡大している種の1つのようで、少なくとも南関東では採集例が増加しており、丹沢でも確実に増加傾向にあるように思える。

ミドリカミキリ *Chloridolum viride*

オオアオカミキリ *Chloridolum thaliodes*

県内では次の記録がある。ただこれには具体的なデータがなく、追加記録が望まれる。

アオカミキリ *Schwarzerium quadricolle*

県内には広く分布していると思われるが、採集例は意外に少ない。丹沢としては次の3例が知られるのみだが、高桑は1995年に伊勢原市善波で本種多数に被害されていると思われるイタヤカエデを確認している。

ヘリグロベニカミキリ *Purpuricenus spectabilis*

ベニカミキリ *Purpuricenus temminckii*

ヒメスギカミキリ *Palaeocallidium rufipenne*

スギカミキリ *Semanotus japonicus*

チャイロホソヒラタカミキリ *Phymatodes testaceus*

コナラを主体にしたいわゆる里山に好んで生息しているが、神奈川県にはこのような環境が少ないためか、採集例は比較的少ないようである。

アカネカミキリ *Phymatodes maaki*

本州のブナ帯には普通の種だが、県内での記録は少ない。

シロオビチビヒラタカミキリ *Phymatodes albicinctus*

本州のブナ帯には少ないものではないが、丹沢では次の1例が知られるにすぎない。

オオトラカミキリ *Xylotrechus villioni*

丹沢の標高300~600m程度のモミのあるようなところには広く分布していると思われるが、個体数は少ないようである。次の記録のうち前者は幼虫食害痕に基づくものである。また、厚木市広沢寺での未発表標本もある。

トラフカミキリ *Xylotrechus chinensis*

丹沢では次の3例が知られるのみ。山地での記録は珍しい。

ニイジマトラカミキリ *Xylotrechus emaciatius*

ウスイロトラカミキリ *Xylotrechus cuneipennis*

ブドウトラカミキリ *Xylotrechus pyrrhoderus*

丹沢では次の1例が記録されているにすぎない。

アカネトラカミキリ *Brachyclytus singularis*

本州のブナ帯には比較的普通な種であるが、丹沢での個体数はきわめて少ないようである。

キスジトラカミキリ *Cyrtoclytus caproides*

シラケトラカミキリ *Clytus melaenus*

本州のブナ帯には普通な種であるが、丹沢での個体数は少ないようである。

キンケトラカミキリ *Clytus auripilis*

ヤマトシロオビトラカミキリ *Kazuoclytus lautoides*

丹沢では次の2か所のみから記録されている。

ヨコヤマトラカミキリ *Epiclytus yokoyamai*

エグリトラカミキリ *Chlorophorus japonicus*

クロトラカミキリ *Chlorophorus diadema*

神奈川県での採集例は少ないが、丹沢山麓部には広く分布していることが予想される。

タケトラカミキリ *Chlorophorus annularis*

ヨツスジトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus*

県内には海岸沿いに普通に分布するが、丹沢では次の1例が知られるのみ。

偶産と考えた方が妥当かもしれない。

フタオビミドリトラカミキリ *Chlorophorus muscosus*

海岸沿いに多い種で、丹沢では西丹沢でのみ記録されている。

ホソトラカミキリ *Rhaphuma xenisca*

ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta*

カンボウトラカミキリ *Hayashiclytus acutivittis*

神奈川県内からは次の1例が知られるのみ。

キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis*

県内では最近個体数が少なくなったようで、今回の現地調査では発見できなかった。

トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis*

シロトラカミキリ *Paraclytus excultus*

スギノアカネトラカミキリ *Anaglyptus subfasciatus*

丹沢では次の1例しか知られていないが、実際には山麓部に広く分布するものであろう。東京農大一高(1969)による南丹沢皆瀬川の記録は次種の誤りと思われるので、ここでは採用しない。

トガリバアカネトラカミキリ *Anaglyptus nipponensis*

アカジマトラカミキリ *Anaglyptus bellus*

ケヤキの枯死部につくが、県下での記録は少ない。

エゾトラカミキリ *Oligoenoplus rosti* *

県初記録種。本種は中部地方以北ではブナ帯上部かシラビソ帯に生息するので、丹沢からの発見は驚異的であった。

2. 1. 13. 8. フトカミキリ亜科 *Lamiinae*

シロオビゴマフカミキリ *Falsomesosella gracilior*

ヨツボシシロオビゴマフカミキリ *Mesosa mediofasciata*

丹沢新記録。札掛周辺のもみに寄生しているが、個体数はごく少ない。

ゴマフカミキリ *Mesosa japonica*

カタジロゴマフカミキリ *Mesosa hirsta*

ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis*

タテスジゴマフカミキリ *Mesosa senilis*

シナノクロフカミキリ *Asaperda agapanthina*

キクスイモドキカミキリ *Asaperda rufipes*

本州のブナ帯やシイ・カシ帯に少なくないが、なぜか丹沢での採集例は多くない。

コブスジサビカミキリ *Atimura japonica*

クビジロカミキリ *Xylariopsis mimica*

ツルウメモドキに寄生する。

ヒシカミキリ *Microlera ptinoides*

キボシチビカミキリ *Sybra flavomaculata*

ヒトオビチビカミキリ *Sybra unifasciata*

丹沢では誘引トラップで捕獲された次の1例が知られるにすぎない。

シロオビチビカミキリ *Sybra subfasciata*

タテジマカミキリ *Aulaconotus pachypezoides*

丹沢での従来の記録は次の2例にすぎないが、高桑は1992年に厚木市飯山
白山でも本種に加害されたカクレミノ数本を見ている。

ハスオビヒゲナガカミキリ *Cleptometopus bimaculatus*

ドウボソカミキリ *Pseudocalamobius japonicus*

ニイジマチビカミキリ *Egesina bifasciana*

ヒメナガサビカミキリ *Pterolophia leiopodina*

なぜか神奈川県内では記録が少ない種である。

マルモンサビカミキリ *Pterolophia angusta*

神奈川県内では次の1例しか知られていないが、丹沢山地には広く分布してい
るものと思われる。

アトジロサビカミキリ *Pterolophia zonata*

クリサビカミキリ *Pterolophia castaneivora*

エゾサビカミキリ *Pterolophia tsurugiana*

この属では丹沢のブナ帯で最も普通に見かける種。

トガリシロオビサビカミキリ *Pterolophia caudata*

アトモンサビカミキリ *Pterolophia granulata*

ナカジロサビカミキリ *Pterolophia jugosa*

ワモンサビカミキリ *Pterolophia annulata*

暖地に多い種で、丹沢での記録は次の2例のみ。

クワサビカミキリ *Mesosella simiola*

丹沢では少ない。

ハイイロヤハズカミキリ *Niphona furcata*

暖地に多い種で、丹沢での記録は次の1例のみ。

セダコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber*

丹沢ではブナ帯を中心に広く分布するが、仏果山地からは未発見である。

フジコブヤハズカミキリ *Mesechthistatus fujisanus*

丹沢では前種より高標高地に分布し、(平井, 1991)採集例もより少ない。

イタヤカミキリ *Mecynippus pubicornis*

ヤナギ類やヤマハンノキなどに寄生するが少ない。県内では衰退の著しい種で
あり、今回の調査では次の1例が確認されたにすぎない。

ヒゲナガカミキリ *Monochamus grandis*

マツノマダラカミキリ *Monochamus alternatus*

ヒメヒゲナガカミキリ *Monochamus subfasciatus*

ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca*

センノキカミキリ *Acalolepta luxuriosa*

ビロウドカミキリ *Acalolepta fraudatrix*

ニセビロウドカミキリ *Acalolepta sejuncta*

チャイロヒゲビロウドカミキリ *Acalolepta kusamai*

神奈川県内の低地には広く分布するが、丹沢での記録はまれ。高桑は1995年に厚木市七沢と伊勢原市善波で本種の幼虫に加害されたニワトコを確認している。

ヤハズカミキリ *Uraecha bimaculata*

ゴマフキマダラカミキリ *Annamanum griseolum*

キボシカミキリ *Psacotha hilaris*

丹沢の周辺部には広く分布するが、内部での採集例は東丹沢札掛における記録が見られるのみ。

ヨコヤマヒゲナガカミキリ *Dolicoprosopus yokoyamai*

ブナやイヌブナを寄主植物とするが、本県では次の2例の記録があるのみ。

チャボヒゲナガカミキリ *Xenicotela pardalina*

クリイロシラホシカミキリ *Nanohammus rufescens* *

県初記録種。通常ミズナラの薪やミズナラの大木の樹幹を這っているものが得られるが、堂平ではミズナラはないので、別の樹種を食害していると思われる。今回の記録はサワグルミとシオジの樹幹を這っていたものが得られた。分布的に予想外の記録であった。

クワカミキリ *Apriona japonica*

シロスジカミキリ *Batocera lineolata*

ヒゲナガゴマフカミキリ *Palimna liturata*

ブナの衰弱木に見られるが、丹沢での個体数は少ない。

セミスジコブヒゲカミキリ *Rhodopina lewisii*

丹沢初記録。山地にも生息する種だが、なぜか神奈川県では丹沢地域からは記録がなかった。

ヒトオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis unifasciatus*

フタモンアラゲカミキリ *Rhopaloscelis maculatus*

フタオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis bifasciatus*

ジウジクロカミキリ *Clitosemia pulchra*

他県ではそれほど珍しい種ではないが、本県の記録はごく少ない。

クモノスモンサビカミキリ *Graphidessa venata*

ミズキの枯れ枝に見られる。

カッコウカミキリ *Miccolamia cleroides*

チビコブカミキリ *Miccolamia verrucosa*

平地ではキブシ、ミズキに多いが、やや山間部になるとヤマハンノキによく見られる。

シロチビコブカミキリ *Miccolamia palurae*

タンナサワフタギを固有的に寄主植物とする。

シナノキチビコブカミキリ(仮称) *Miccolamia* sp. *

県初記録種。シナノキの比較的新しい細い枯れ枝より得られるが少ない。富士山(山梨県側)では十数年前から存在が知られていた種だが、今回の調査で丹沢にも分布していることが確認された。この種はチビコブカミキリ類としては大型で、翅鞘の両側は平行で細長く、色は黒くて光沢があるのが特徴である。

ハイイロツツクビカミキリ *Cylindilla grisescens*

ドイカミキリ *Mimectatina divaricata*

オニグルミを寄主植物とするが、県内での記録は意外に少ない。

ホソヒゲケブカカミキリ *Eupogoniopsis tenuicornis*

丹沢のブナ帯では優占なカミキリの1つ。

ネジロカミキリ *Pogonocherus seminivus*

タラ、センノキなどのウコギ科の枯れ枝につくが、県内の記録は意外に少ない。

ゴイシモモブトカミキリ *Callapoecus guttatus*

ヒゲナガモモブトカミキリ *Acanthocinus griseus*

県内では全体的に減少しているように思える種。丹沢での記録は少ない。

ゴマダラモモブトカミキリ *Leiopus stillatus*

ミヤマモモブトカミキリ *Leiopus montanus* *

県初記録種。本種は通常標高1200m以上の地域のモミ、コメツガ、トウヒなどの針葉樹の枯れ枝より得られるが、丹沢では標高450~500mという低標高にも生息しているのは意外であった。草間・高桑(1984)に図示された蛭ヶ岳産のゴマダラモモブトカミキリは、実は本種のことである。

トゲバカミキリ *Rondibilis saperdina*

ホウノキトゲバカミキリ *Rondibilis sapporensis*

ホウノキに寄生するが少ない。県内の記録は数例にすぎない。

キッコウモンケシカミキリ *Exocentrus testudineus*

ガロアケシカミキリ *Exocentrus galloisi*

アトモンマルケシカミキリ *Exocentrus lineatus*

クモガタケシカミキリ *Exocentrus fasciolatus*

丹沢では次の1例しか記録がないが、県内の低地には普通。

シラオビゴマフケシカミキリ *Exocentrus guttulatus*

丹沢初記録。主に平野部に生息しているが、神奈川県ではやや少ない。

ブナケシカミキリ(仮称) *Exocentrus* sp. *

県初記録種。ブナの細い枯れ枝より発生する。東京都高尾山のイヌブナやブナの細枝から羽化脱出することは、かなり古くから知られていたが、今回丹沢にも分布することが確認された。本種は一見キツコウモンケシとアトモンマルケシの中間のような模様を具え、西日本に分布しているミヤマケシカミキリに似た感じのものである。形態的にはまだよく調べていないが、既知の種類とは異なるものと思われる。

ケシカミキリ *Sciades tonsus*

ムネモンヤツボシカミキリ *Saperda tetrastigma*

丹沢初記録。サルナシの枯れヅルに寄生するが少ない。

ブロイニングカミキリ *Saperda ohbayashii*

全国的にあまり多くない。

ヤツメカミキリ *Eutetrappa ocelota*

平野部ではやや普通に見かけるが丹沢では少ない。

ハンノアオカミキリ *Eutetrappa chrysochloris*

本州の山地では普通の種類だが、県下では稀。

フチグロヤツボシカミキリ *Pareutetrappa eximia*

次の記録のほか、愛川町志田山など(荻部ほか, 1996)でも記録されており、丹沢山地の山麓部には広く分布している可能性がある。高桑は1995年に西丹沢西沢～畦ヶ丸山で、数本のホオノキ葉より本種のものであると思われる後食後を確認している。

ニセシラホシカミキリ *Pareutetrappa simulans*

丹沢での記録は次の3例のみ。

ハンノキカミキリ *Cagosima sanguinolenta*

近年神奈川県下ではすべての地域で少なくなった。

アサカミキリ *Thyestilla gebleri*

1980年代初め頃までは箱根仙石原に生息していたが、ここ10数年記録がまったくなく、神奈川県では絶滅したものと見なされている。丹沢からの記録は次の1例のみ。

ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei*

1960年代以降丹沢に侵入し、丹沢山地一帯に分布を広げたと考えられる種類で、現在は山麓部を中心に広く分布しているようであり、個体数も多い。

ヒゲナガヒメルリカミキリ *Praolia citrinipes*

キモンカミキリ *Menesia sulphurata*

本州のブナ帯には普通に見かける種類であるが、なぜか丹沢での発見例は少

ない。

オニグルミノキモンカミキリ *Menesia flavotecta*

ジュウニキボシカミキリ *Paramenesia theaphia*

シラホシカミキリ *Glenea relict*

シラホシキクスイカミキリ *Eumecocera gleneoides*

神奈川県では丹沢のみに記録がある。

セミスジニセリンゴカミキリ *Eumecocera trivittata*

県内での記録は非常に少ない。

ヒゲナガシラホシカミキリ *Eumecocera argyrosticta*

クロニセリンゴカミキリ *Eumecocera unicolor*

県内での記録は丹沢のみ。

カツラカミキリ *Niponostenostola niponensis*

クロキクスイカミキリ *Stenostola nigerrima*

タイプ標本(基準産地:日光中禅寺)以外には丹沢山の1個体の標本(以下の3記録はいずれも同一標本に基づいたもの)があるのみ。ただし、筆者らの1人、高桑が考える限りでは丹沢から得られた個体は、本種ではない可能性が強い。

キクスイカミキリ *Phytoecia rufiventris*

ヨツキボシカミキリ *Epiglenea comes*

ヘリグロリンゴカミキリ *Nupserha marginella*

ヒメリンゴカミキリ *Oberea hebesceus*

リンゴカミキリ *Oberea japonica*

ソボリンゴカミキリ *Oberea sobosana*

丹沢初記録。次の採集例のうち、中山採集の個体は一見ヒメリンゴカミキリに、また荏部採集の個体はリンゴカミキリにそれぞれ似ている。

シラハタリンゴカミキリ *Oberea shirahatai*

スイカズラを寄主植物とし、山麓部には広く分布しているものと思われる。

ホソキリンゴカミキリ *Oberea infranigresceus*

ホソツツリンゴカミキリ *Oberea nigriventris*

丹沢初記録。

ルリカミキリ *Bacchisa fortunei*

丹沢初記録。次の記録のほか、高桑は1994、1995年に東丹沢広沢寺の民家内において、本種の幼虫に加害されたバラ科樹木1本を確認している。

2. 1. 13. 9. 疑問種

次の4種は丹沢山地から記録があるが、誤同定に基づくものと判断される(高桑, 1979)。

カラフトヒゲナガカミキリ
シラフヒゲナガカミキリ
ヒメアヤモンチビカミキリ
クリイロチビケブカカミキリ

2. 1. 14. ソウムシ類

2. 1. 14. 1. ソウムシ上科

2. 1. 14. 1. 1. ヒゲナガソウムシ科 Anthribidae

触角が長いものがあるため、ヒゲナガソウムシと名付けられたが、ほとんどの種は短い。熱帯地方には巨大な種もいるが、日本産は大きなものは少なく、5mm以下のものが多い。おもに枯れ木やキノコなどに見られるが、木の実やカイガラムシに寄生する種もある。日本では170種ほどの記録があるが、微小種を含めて未記録種もかなりある。神奈川県では47種の報告があり、丹沢産は43種確認できた。

2. 1. 14. 1. 2. ノミヒゲナガソウムシ亜科 Choraginae

クロオビヒゲナガソウムシ *Apolecta lewisii*

やや大型の種で触角が長く特に♂はカミキリのように長い。山地の枯れ木に多く見られる。

ケチビヒョウタンヒゲナガソウムシ *Notioxenus wollastoni*

山地の枯枝などにかなり見られる。

ハイマダラカギバラヒゲナガソウムシ *Xanthoderopygus jocosus*

山地の枯れ木や朽木をたたくと落ちてくる。この属にも何種か同定できないものがある。

アカアシヒゲナガソウムシ *Araecerus tarsalis*

小型のヒゲナガソウムシではもっとも多い種で、各地に普通である。

ゴマノミヒゲナガソウムシ *Choragus cissoides*

この属は微小のものが多く同定が難しい。いくつかの未記録種がある。

キンヘリノミヒゲナガソウムシ *Choragus compactus*

枯れ枝などに見られるが、多くない。

ムネアカノミヒゲナガソウムシ *Choragus cryphaloides*

平地から山地にかけてかなり見られる。

シバンガタノミヒゲナガソウムシ *Choragus anobioides*

大山が基準産地の種で、記録は少ないが、かなりいることがわかった。

2. 1. 14. 1. 3. ヒゲナガソウムシ亜科 Anthribinae

タマカイガラヒゲナガソウムシ *Anthribus kuwanai*

タマカイガラムシなどに寄生する種で、記録は少ない。

イボタロウヒゲナガゾウムシ *Anthribus niveovariegatus*

イボタロウムシ、トウヒタマカイガラモドキなどに寄生する種で、あまり多くない。

マダラヒゲナガゾウムシ *Opanthribus tessellatus*

微小種だが、各地に多い。

キノコヒゲナガゾウムシ *Euparius oculatus oculatus*

多孔菌に多い種で、通常、褐色に小さな黒紋があるが、全体が真っ黒の個体も見られる。平地に多いようで、冬でも活動している。

ウスモンツツヒゲナガゾウムシ *Ozotomerus japonicus*

灯下にしばしば飛来する。

シロヒゲナガゾウムシ *Platystomos sellatus*

やや大型の種で、♂は触角が長い。朽木などに見られる

セマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius gibbosus*

多くはない。

ササセマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius stenus*

枯れた竹やササに見られるが、少ない。冬季、枯れたメダケを割ると成虫や幼虫が潜んでいるのを観察出来る。

マダラフトヒゲナガゾウムシ *Basitropis nitidicutis*

山地の朽木などにかなり見られる。

オオマダラヒゲナガゾウムシ *Sympaector rugirostris*

大型の種だが、少ない。

シリジロヒゲナガゾウムシ *Androceras flavellicorne*

あまり多くはない。

チャマダラヒゲナガゾウムシ *Acorynus latirostris*

山地に多く見られる。

カオジロヒゲナガゾウムシ *Sphinctotropis laxus*

ヒゲナガゾウの仲間ではもっとも多い普通種である。

コモンマダラヒゲナガゾウムシ *Litocerus multiguttatus*

山地にかなり見られる。

アカミヒゲナガゾウムシ *Litocerus securus*

キマダラヒゲナガゾウムシ *Tropideres naevulus*

各地にもっとも普通に見られる。

クロフヒゲナガゾウムシ *Tropideres roelofsi*

山地に普通に見られる。

スネアカヒゲナガゾウムシ *Autotropis distinguenda*

小型のヒゲナガゾウムシではもっとも多い種で、各地に普通である。

エグリバネヒゲナガゾウムシ *Autotropis basipennis*

今までの記録は少ないが、それほど稀な種ではない。

タテスジヒメヒゲナガゾウムシ *Rhaphitropis japonica*

コモンヒメヒゲナガゾウムシ *Rhaphitropis guttifer guttifer*

この属ではもっとも普通で、各地に多い。

クロヒメヒゲナガゾウムシ *Rhaphitropis nigra*

かなり稀な種と思われる。

キアシチビヒゲナガゾウムシ *Uncifer pectoralis*

ウスグロチビヒゲナガゾウムシ *Uncifer truncatus*

各地に普通に見られる。

ムモンチビヒゲナガゾウムシ *Uncifer difficilis*

前種よりかなり少ない。

エグリコブヒゲナガゾウムシ *Gibber incisus*

あまり多くない。

クチプトコブヒゲナガゾウムシ *Gibber brevirostris*

クロホシメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia aberrans*

あまり多くない種である。

アカネメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia rufobasis*

箱根台ヶ岳の報告があり、山梨県などでも得られているが、珍しいものである。

クロメナガヒゲナガゾウムシ *Ulorhinus funebris*

キスジヒゲナガゾウムシ *Aphaulimia debilis*

各地によく見られる種である。色彩はかなり変化する。

ツツケナガヒゲナガゾウムシ *Habrissus cylindricus*

大山が基準産地で、かなり珍しいものである。

シロマダラネブトヒゲナガゾウムシ *Habrissus pardalis*

本種も少ない種である。

ネブトヒゲナガゾウムシ *Habrissus unciferoides*

あまり多くない。

ナガアシヒゲナガゾウムシ *Habrissus longipes*

この属ではもっとも多い種で、枯れ木などによく見られる。

2. 1. 14. 1. 4. オトシブミ科 *Attelabidae*

すべて食植性の甲虫で、オトシブミ亜科のものは葉を巻き産卵する習性があり、それが地上に落下するのを「落し文」と呼んだことに由来する。なお、チョッキリゾウムシ亜科のものは独立した科とする場合もある。日本から85種ほどの記録があり、県内からは57種の報告がある。丹沢からは47種の生息を確認できた。

2. 1. 14. 1. 5. オトシブミ亜科 Attelabinae

ゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus pardalis*

ナラ、クヌギ、クリなどの葉をまく。多くはない。

ヒメゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus vanvolxemi*

エノキ、オヒョウなどに見られる。

ヒメコブオトシブミ *Phymatapoderus pavens*

コアカソ、カラムシなどの葉を直線状に切る。各地に普通。

オトシブミ *Apoderus jekelii*

ナラ、ハンノキ、などの葉をまく。

ムツモンオトシブミ *Apoderus praecellens*

基準産地は大山と日光であるが、県内の記録は少ない。

ウスモンオトシブミ *Apoderus balteatus*

ゴンスイの葉を切る。各地に多い普通種。

ウスアカオトシブミ *Apoderus rubidius*

リョウブ、ウツギなどに多く見られる。

ヒメクロオトシブミ *Apoderus erythrogaster*

もっとも多い普通種で、各地に多い。

セアカヒメオトシブミ *Apoderus geminus*

ヤナギ類などの葉を切る。各地に見られる。

エゴツルクビオトシブミ *Cycnotrachelus roelofsi*

エゴノキの葉を切る普通種。

ヒゲナガオトシブミ *Paracycnotrachelus longicornis*

コブシ、カナクギノキ、イタドリなど各種の葉を巻く。各地に多い普通種。

アシナガオトシブミ *Phialodes rufipennis*

コナラ、カシなどの葉を巻く。多くない。

リュイスアシナガオトシブミ *Henicolabus lewisii*

ビロウドアシナガオトシブミ *Himatolabus cupreus*

渋い美しさがある種で、多くない。

コブルリオトシブミ *Euops pustulosus*

あまり多くない種である。

ナラルリオトシブミ *Euops konoii*

ケシルリオトシブミ *Euops politus*

低山から山地に多い。

カシルリオトシブミ *Euops splendidus*

カシ、フジ、タデなどに極めて覆い普通種である。

ルリオトシブミ *Euops punctatostriatus*

コナラ、カエデ、イタドリなどに見られる。

2. 1. 14. 1. 6. チョッキリゾウムシ亜科 *Rhynchitinae*

チャイロケシツブチョッキリ *Auletobius fumigatus*

多くない。

ヒメクロケシツブチョッキリ *Auletobius puberulus*

少ない種である。

モンケシツブチョッキリ *Auletobius submaculatus*

あまり多くない。

クロケシツブチョッキリ *Auletobius uniformis*

バラ、クヌギ、サルスベリなど多くの植物につき、各地に多い。

ドロハマキチョッキリ *Byctiscus puberulus*

金緑色に輝く美麗種で、イタドリ、ドロノキ、カエデなどに見られる

ファウストハマキチョッキリ *Byctiscus fausti*

コナラ、サクラなどを巻き、各地に多い。

イタヤハマキチョッキリ *Byctiscus venustus*

カエデ類の葉を集めて巻く。

ブドウハマキチョッキリ *Byctiscus lacunipennis*

ブドウ類の葉を巻く。

チャイロチョッキリ *Aderorhinus crioceroides*

クヌギなどに見られるが、少ない。

ルリホソチョッキリ *Eugnamptus amurensis*

ヤシャブシ、クルミなどに見られる普通種。

クチプトチョッキリ *Lasioryhynchites brevirostris*

カシワ、クヌギなどに見られるが、多くない。

カシルリチョッキリ *Notocyrtus assimilis*

カシ、ナラ、モモなどに見られる普通種である。

コルリチョッキリ *Involvulus apertus*

チビケブカチョッキリ *Involvulus apionoides*

寄生植物はメギで、かなり少ない稀種である。

マダラケブカチョッキリ *Involvulus singularis*

クチナガチョッキリ *Involvulus plumbeus*

ヒメケブカチョッキリ *Involvulus pilosus*

この仲間ではもっとも多い普通種である。

ツツムネチョッキリ *Involvulus cylindricollis*

蛭ヶ岳の記録はウメチョッキリとしてのもの。

ハイイロチョッキリ *Mechoris ursulus*

やや大型の種で、コナラの実に産卵するという。

シリブトチョッキリ *Chokkirius truncatus*

カエデ類に多く見られる。

マルムネチョッキリ *Chonostropheus chujoi*

あまり多くない。

コナライクビチョッキリ *Deporaus unicolor*

この属ではもっとも多い種である。ナラ、イシなどの葉を切る。

オオメイクビチョッキリ *Deporaus hartmanni*

かなり少ない種である。

ミヤマイクビチョッキリ *Deporaus nidificus*

少ない。

ルリイクビチョッキリ *Deporaus mannerheimi*

カシ、シイ、ヤシャブシなどの葉を切る。平地に多い。

キアシイクビチョッキリ *Deporaus fuscipennis*

最近記載された種で、箱根にも記録がある。少ないものと思われる。

ヤドカリチョッキリ *Paradeporaus depressus*

ハマキチョッキリ類のゆりかご中に産卵する興味深い生態をもっている。少ない種である。

2. 1. 14. 1. 7. ミツギリゾウムシ科 *Brentidae*

細長い体型で、変化に富んだ面白い形態をしており、興味深い甲虫である。おもに朽木や枯れ木に見られるが、花上にも集まる。日本では28種記録されているが、県内ではたったの2種のみである。

2. 1. 14. 1. 8. ミツギリゾウムシ亜科 *Brentinae*

クロツツホソミツギリゾウムシ *Callipareius kojimai*

丹沢が基準産地であるが、その後、採集されたことはない。

ムツモンミツギリゾウムシ *Pseudorychodes insignis*

ミツギリゾウムシの仲間では最も多い種だが、県内での報告は少ない。

2. 1. 14. 1. 9. ホソクチゾウムシ科 *Apionidae*

小さなゾウムシで、湿地や草原に多く、いずれも食植性である。日本からは30種ほどの記録があるが、未記載種がかなりあるらしい。県内では20種報告されており、丹沢からは9種しか生息を確認できなかった。少ない原因は丹沢には草地や湿地が少ないためと思われる。

2. 1. 14. 1. 10. ホソクチゾウムシ亜科 Apioninae

マメホソクチゾウムシ *Apion collare*

アズキ、ヤブマメなどに見られる。

アカクチホソクチゾウムシ *Apion pallidirostre*

その名のごとく吻の先が黄褐色のわかりやすい種で、各地に普通に見られる。

サキブトホソクチゾウムシ *Apion pachyrrhynchum*

吻が基部から先端へ太くなり、特に♂では顕著である。クサフジにつくが、少ない種らしく、次の1例しか記録がない。

コゲチャホソクチゾウムシ *Apion semisericeum*

各地に見られる。

セアカホソクチゾウムシ *Apion sulcirostre*

上翅が赤いので、わかりやすい種である。一般的には少なく、やや山地の草原に見られる。

ヒゲナガホソクチゾウムシ *Apion placidum*

この属ではもっとも多い種で、各地に普通である。

ヒレルホソクチゾウムシ *Apion hilleri*

ウツギなどに見られる種である。

2. 1. 14. 1. 11. チビゾウムシ亜科 Nanophyinae

モンチビゾウムシ *Nanophyes pallipes*

ウスイロチビゾウムシ *Nanophyes usuironis*

2. 1. 14. 1. 12. ゾウムシ科 Curculionidae

ゾウムシは象鼻虫と書き、口吻が象の鼻のように長いことに由来する。しかし口吻の短いものもあり、これを短吻類と呼ぶこともある。世界で5万種以上もいる大きなグループで、日本では600種ほどの記録があるが、恐らく1000種近くの種が生息していると思われる。いずれも食植性で、樹上、葉上、朽木、落葉下、石下などに見られる。神奈川県では310種の記録があったが、今回の調査で、新記録として11種追加された。丹沢では、204種の生息が確認できた。

2. 1. 14. 1. 13. クチブトゾウムシ亜科 Otiorhynchinae

リンゴコフキゾウムシ *Phyllobius armatus*

この仲間は、やや大型の金緑色に輝く美しい種が多く、色彩変化があり、色だけでは同定を誤ることがある。本種は各地にかなり見られるが、多くはない。

ミヤマヒゲホソゾウムシ *Phyllobius annectens*

やや少ない種。

リンゴヒゲナガゾウムシ *Phyllobius longicornis*

やや多い種で、各地に見られる。

アオヒゲボソゾウムシ *Phyllobius prolongatus*

平地から山地にかけて普通である。

ハダカヒゲボソゾウムシ *Phyllobius subnudus*

この属ではもっとも多い種で、しばしば毛がとれて真っ黒になった個体も見られる。

コブヒゲボソゾウムシ *Phyllobius picipes*

本種も各地に多い普通種。

ヒラズネヒゲボソゾウムシ *Phyllobius intrusus*

平地に多い。

コヒゲボソゾウムシ *Phyllobius brevitarsis*

少ない種で、次の記録しかない。同定誤りの可能性もある。

ウスイロヒゲボソゾウムシ *Phyllobius mundus*

各地に普通である。

ツチイロヒゲボソゾウムシ *Phyllobius incomptus*

色彩などが異なるが、前種と同じ種である可能性が高い。

カシワクチブトゾウムシ *Myllocerus griseus*

クチブトゾウムシの仲間ではもっとも多い種である。

トゲアシゾウムシ *Anosimus decoratus*

各地に見られるが、それほど多くはない。

コカシワクチブトゾウムシ *Macrocorynus griseoides*

あまり多くない。

ヒレルクチブトゾウムシ *Oedophrys hilleri*

平地に多い種。丹沢での記録は少ない。

チビアオゾウムシ *Hyperstylus pallipes*

あまり多くない。

クリイロクチブトゾウムシ *Cyrtapistomus cataneus*

あまり多くない。

サビクチブトゾウムシ *Canoixus japonicus*

多くはない。

ケブカヒメカタゾウムシ *Arrhaphogaster pilosa*

各地に見られる普通種。

シロコブゾウムシ *Episomus turritus*

大型の種で、ハギ、フジなどのマメ科植物に普通である。

ヒメシロコブゾウムシ *Dermatoxenus caesicollis*

本種も大型の普通種で、各地のタラノキやウド類に多い。

フキヒョウタンゾウムシ *Catapionus modestus*

山地に見られるが、多くはない。

キアシチビアオゾウムシ *Scythropus japonicus*

草原などに見られる種だが、県内では珍しい。

スグリゾウムシ *Pseudocneorhinus bifasciatus*

落葉下などに普通に見られる。

カキゾウムシ *Pseudocneorhinus obesus*

少ない種である。

サビヒョウタンゾウムシ *Scepticus griseus*

畑や荒地など地上を這い回っていて、各地に多い。

クワヒョウタンゾウムシ *Scepticus insularis*

オオアオゾウムシ *Chlorophanus grandis*

大型の美麗種だが、県内では少ない。

2. 1. 14. 1. 14. チビコフキゾウムシ亜科 *Sitoninae*

コフキゾウムシ *Eugnathus distinctus*

クズの葉上などに極めておおくみられる。

ケチビコフキゾウムシ *Sitona hispidulus*

あまり多くない。

アムールチビコフキゾウムシ *Sitona amurensis*

草原に見られるが、県内の記録は少ない。

2. 1. 14. 1. 15. タコゾウムシ亜科 *Hyperinae*

ヤサイゾウムシ *Listroderes costirostris*

ブラジル原産で、日本では♀だけで単為生殖する。畑や荒地に多い普通種である。

オオタコゾウムシ *Hypera punctata*

本種も移入種で、外国ではクローバーなどのマメ科牧草の害虫として知られているもので、我が国では、1978年、横浜市で発見されたのが最初で、神奈川県全域に広まったようである。現在では関東地方から東北地方にかけて分布をひろげているという。

オオミスジマルゾウムシ *Phaeopholus major*

2. 1. 14. 1. 16. サビマルクチゾウムシ亜科 *Galloisiinae*

サビマルクチゾウムシ *Galloisia inflata*

少ない種である。

2. 1. 14. 1. 17. カツオゾウムシ亜科 *Cleoninae*

カツオゾウムシ *Lixus impressiventris*

各地に見られる。

ハスジカツオゾウムシ *Lixus acutipennisi*

ヨモギ類に多い。

アイノカツオゾウムシ *Lixus maculatus*

本種もヨモギなどに見られるが、少ない。

シラクモゴボウゾウムシ *Larinus griseopilosus*

やや山地性の種で少ない。

2. 1. 14. 1. 18. アシナガゾウムシ亜科 *Mecysolobidae*

ホホジロアシナガゾウムシ *Mecysolobus erro*

ハゼやヌルデなどに見られる。

カシアシナガゾウムシ *Mecysolobus piceus*

この仲間ではもっとも多く、コナラなどの枝先で、越冬することが、観察されている。

オジロアシナガゾウムシ *Mesalcidodes trifidus*

中型のわかりやすい普通種で、クズの茎に産卵し、その部分は虫えいとなる。

2. 1. 14. 1. 19. イネゾウムシ亜科 *Erirhininae*

オオクニイネゾウモドキ *Procas biguttatus*

珍しい種で、次の2例の報告しかない。

アカイネゾウモドキ *Dorytomus roelofsi*

ヤナギ類に多い。

ポプライネゾウモドキ *Dorytomus urakoeae*

ヤマナラシなどに見られる。

モンイネゾウモドキ *Dorytomus maculipennis*

本種もヤナギ類に見られる

ヤナギイネゾウモドキ *Dorytomus rectinasus*

ヤナギ類に見られるが、少ない。県未記録種。

2. 1. 14. 1. 20. カギアシゾウムシ亜科 *Bagoinae*

イネミズゾウムシ *Lissorhoptrus oryzophilus*

最近、移入された稲を食害する害虫といわれている。平地に極めて多く、落葉下などで成虫で越冬する。

2. 1. 14. 1. 21. ミズゾウムシ亜科 *Tanysphyrinae*

オオミズゾウムシ *Tanysphyrus major*

湿地など水辺で採れる。

2. 1. 14. 1. 22. コバンゾウムシ亜科 *Gymnaetrinae*

カミヤコバンゾウムシ *Miarus kamiyai*

あまり多くない。

2. 1. 14. 1. 23. タマゾウムシ亜科 Cioninae

シロオビタマゾウムシ *Stereonydhidius galloisi*

全国的には少ない種とされているが、箱根には多い。丹沢ではやや少ない。

アカタマゾウムシ *Stereonychus thoracicus*

ヤチダモにつくが、多くはない。

マルモンタマゾウムシ *Cionus tamazo*

少ない種である。

クロタマゾウムシ *Cionus helleri*

かなり少ない種である。

2. 1. 14. 1. 24. ノミゾウムシ亜科 Rhynchaeninae

ハラグロノコギリゾウムシ *Ixalma nigriventris*

この仲間は一般的には少ないものだが、本種は丹沢では各地に見られる。

オカダノコギリゾウムシ *Ixalma okadai*

少ない種のように、県内では次の1例しか記録がない。

ヨツオビクチブトノミゾウムシ *Imachra nipponicus*

珍しい種である。

ハチジョウノミゾウムシ *Rhamphus hisamatsui*

次種とともに各地に見られる。

リンゴノミゾウムシ *Rhamphus pulicarius*

ノミゾウの仲間はいずれもノミのように跳ねる。

ムモンノミゾウムシ *Rhynchaenus aterrhimus*

やや少ない。

ガロアノミゾウムシ *Rhynchaenus galloisi*

ムネスジノミゾウムシ *Orchestes amurensis*

クロツヤソミゾウムシ *Orchestes nitens*

少ない種である。

Orchestes jota(Fabricius, 1787)

県未記録。

フトノミゾウムシ *Orchestes excellens*

ノミゾウムシの仲間では大きく、同定も容易である。かなり少ない種と思われる。

カシワノミゾウムシ *Orchestes japonicus*

エノキノミゾウムシ *Orchestes horii*

エノキに多く、色彩に変化がある。

ヤドリノミゾウムシ *Orchestes hustachei*

ウスモンノミゾウムシ *Orchestes variegatus*

アカアシノミゾウムシ *Orchestes sanguinipes*

ノミゾウムシの仲間ではもっとも多い種で、各地に普通に見られる。ケヤキなどの樹皮下で、成虫越冬する。

マダラノミゾウムシ *Orchestes nomizo*

各地に見られる。

2. 1. 14. 1. 25. デオゾウムシ亜科 *Acalyptinae*

チビデオゾウムシ *Acalyptus carpini*

センダンに見られる。

2. 1. 14. 1. 26. コガタゾウムシ亜科 *Tychiinae*

クロハモグリゾウムシ *Elleschus pauper*

各地に見られる普通種。

クロツブゾウムシ *Sphinxis koikei*

本種も各地に多い。

Ochyromera sturaris Kojima et Morimoto, 1996

ごく最近記載された種で、県新記録である。

ウスグロアシブトゾウムシ *Gryporrhynchus obscurus*

オオクボササラゾウムシ *Demimaea okuboi*

やや少ない種である。

クワササラゾウムシ *Demimaea mori*

タバゲササラゾウムシ *Demimaea fascicularis*

イヌビワなどに見られるが、多くない。

2. 1. 14. 1. 27. シュロゾウムシ亜科 *Petalochilinae*

シュロゾウムシ *Derelomus uenoi*

5月にシュロの花に多く集まる。その他では全く採集できない。

2. 1. 14. 1. 28. ハナゾウムシ亜科 *Anthonominae*

クロナガハナゾウムシ *Bradybatus sharpi*

山地に多い。

ヘリアカナガハナゾウムシ *Bradybatus limbatus*

本種も普通に見られる。

イチゴハナゾウムシ *Anthonomus bisignifer*

ハナゾウムシの仲間ではもっとも多い普通種である。

ユアサハナゾウムシ *Anthonomus yuasai*

各地に多い。

オビモンハナゾウムシ *Anthonomus rectirostris*

ヤマザクラなどにいるが、それほど多くはない。

Anthonomus mali Kojima et Morimoto, 1994

最近、記載された種で、多くない。リンゴの蕾を食うという。県未記録種。

Anthonomus undulatus Gyllenhal, 1836

少ない種と思われる。

コブハナゾウムシ *Anthonomus dorsalis*

ウワミズザクラに見られるが、少ない。

2. 1. 14. 1. 29. シギゾウムシ亜科 *Curculioninae*

レロフチビシギゾウムシ *Curculio roelofsi*

ナラ類に見られ、チビシギゾウムシではもっとも多い。

ジウジチビシギゾウムシ *Curculio pictus*

カシワ、コナラなどに多い。

ムモンチビシギゾウムシ *Curculio antennatus*

ムラカミチビシギゾウムシ *Curculio murakamii*

県未記録種。諸戸、土沢産は上翅斑紋が会合部だけのものである。

エサキチビシギゾウムシ *Curculio esakii*

かなり稀な種と思われる。県未記録種。

クヌギチビシギゾウムシ *Curculio kunugi*

クヌギに見られるが、多くはない。

ウスモンチビシギゾウムシ *Curculio minutissimus*

キマダラシギゾウムシ *Curculio cerasorum*

セダカシギゾウムシ *Curculio convexus*

シギゾウムシの中ではもっとも多い種で、色彩にかなりの変化がある。

チャバネセダカシギゾウムシ *Curculio fulvipennis*

ヒメシギゾウムシ *Curculio hime*

ケヤキにいるという。

ツヤヒメシギゾウムシ *Curculio okumai*

Morimotoが記録したShigesawaは東沢の誤りのようである。

クロシギゾウムシ *Curculio distinguendus*

クヌギにいるが、多くはない。

エゴシギゾウムシ *Curculio styracis*

エゴの実に産卵する。

キオビシギゾウムシ *Curculio ochrofasciatus*

少ない種である。

ナツグミシギゾウムシ *Curculio elaeagni*

ナツグミの実に産卵する。

ミヤマシギゾウムシ *Curculio koreanus*

県未記録種。

ツバキシギゾウムシ *Curculio camelliae*

♀の吻は体長よりも長い種で、ツバキの実に産卵する。

クヌギシギゾウムシ *Curculio robustus*

クヌギやアベマキの実に産卵する。

コナラシギゾウムシ *Curculio dentipes*

ナラ類の実に産卵する。

クリシギゾウムシ *Curculio sikkimensis*

コナラ、クリ、アベマキなどの実に産卵する。

Curculio morimotoi Notsu, 1994

最近、西丹沢産の標本をもとに、著者の一人、野津裕が記載したもので、珍しいものである。

2. 1. 14. 1. 30. ヒメゾウムシ亜科 *Baridinae*

シラホシヒメゾウムシ *Baris dispilota*

セリ科の花などによく集まっているが、最近は少なくなったようである。

クワヒメゾウムシ *Baris deplanata*

ヒメゾウムシの中ではもっとも多い普通種。

タテスジアカヒメゾウムシ *Baris rubricata*

あまり多くない。

Acythopeus parabaimaculatus Morimoto et Lee, 1992

最近、記載されたヒメゾウムシで、ガマズミ類に見られる。

ツヤケシヒメゾウムシ *Paracythopeus melancholicus*

サルナシ、ブドウなどに見られ多い。

カナムグラヒメゾウムシ *Psilarthroides humuli*

その名の通りカナムグラに多い。

ツヤチビヒメゾウムシ *Centrinopsis nitens*

光沢のある黒色で、菱形をしているので、微小だが同定は容易。

ツヤハダヒメゾウムシ *Phrissoderes rufitarsis*

玄倉ではイチョウランの花から得られた。かなりの稀種である。

2. 1. 14. 1. 31. サルゾウムシ亜科 *Ceutorhynchinae*

タデノクチブトサルゾウムシ *Rhinoncus sibiricus*

タデ類に多い普通種。

アカアシクチブトサルゾウムシ *Rhinoncus cribricollis*

本種もタデ類に見られる。

マルメサルゾウムシ *Phytobius quadricornis roelofsi*

ツツジゲムネサルゾウムシ *Mecysmoderes fulvus*

この属は前胸背の基部が後方に鋭く突き出ている。この仲間ではもっとも多い種。ツツジ類にいる。

キボシゲムネサルゾウムシ *Mecysmoderes ater*

少ない種である。

チャイロアカサルゾウムシ *Coeliodes brunneus*

本種も少ない種である。

ジウジコブサルゾウムシ *Craponius bigibbosus*

前胸背にこぶがあつて、わかりやすい種で、やや多い。

トゲカタビロサルゾウムシ *Cyphosenus bouvieri*

この仲間としてはやや大きく、各地に見られる。

タデサルゾウムシ *Homorosoma asperum*

その名のごとくタデ類に多い。

キイチゴトゲサルゾウムシ *Scleropteroides hypocrita*

サルゾウムシの仲間ではもっとも多い種で、各地に普通。

ダイコンサルゾウムシ *Ceuthorhynchidius albosturalis*

アブラナ科の植物に多く見られる。

カナムグラサルゾウムシ *Ceuthorhynchus shaowuensis*

カナムグラによく見られる。

ムネミゾサルゾウムシ *Ceuthorhynchus sulcithorax*

ケマンサルゾウムシ *Sirocalodes umbrinus*

珍しい種である。

アルマンサルゾウムシ *Wagnerinus harmandi*

各地に多い普通種。

クロツヤサルゾウムシ *Wagnerinus costatus*

本種も多い。

2. 1. 14. 1. 32. クモゾウムシ亜科 *Zygopinae*

ミヤマヒシガタクモゾウムシ *Lobotrachelus minor*

山地に多い。

ヤマトヒメクモゾウムシ *Ellatocerus japonicus*

かなり少ない種である。

ミツオビヒメクモゾウムシ *Telephae trifasciatus*

あまり多くない。

アカオビタマクモゾウムシ *Egiona konoi*

少ない種である。県未記録種。

クロホシタマクモゾウムシ *Egiona picta*

ビロード状の黒紋が顕著な種で、多くない。

トウキョウクモゾウムシ *Euryommatus tokioensis*

少ない種である。

コヒラセクモゾウムシ *Metialma pusilla*

ヤマトヒラセクモゾウムシ *Metialma* sp.

ノコギリクモゾウムシ *Mecopomorphus griseus*

やや大型の種で、この仲間ではもっとも多い。山地に普通。

2. 1. 14. 1. 33. ツツゾウムシ亜科 *Carciliinae*

ツツゾウムシ *Carcilia strigicollis*

次種よりかなり少ない。県未記録種。

コゲチャツツゾウムシ *Carcilia tenuistriata*

各地に見られる普通種。

2. 1. 14. 1. 34. キボシゾウムシ亜科 *Pissodinae*

クロキボシゾウムシ *Pissodes obscurus*

マツに見られるというが、少ない。

ツチイロゾウムシ *Cotasteromimus morimotoi*

あまり多くない。

2. 1. 14. 1. 35. カレキゾウムシ亜科 *Acicnemidinae*

ダルマカレキゾウムシ *Trachodes subfasciatus*

この仲間ではもっとも多い普通種。枯れ木などから得られる。

Trachodes ovipennis Morimoto et Miyakawa, 1995

最近、記載された種で、箱根台ヶ岳産のものがパラタイプの1つになっている。
多くない。

Trachodes sasajii Morimoto et Miyakawa, 1995

本種も最近、記載されたもので、少ない種である。

Trachodes simulator Morimoto et Miyakawa, 1995

本種も同様に、最近記載されたもので、丹沢にはかなり分布しているようである。
県未記録種である。

シロカレキゾウムシ *Karekizo impressicollis*

かなり稀な種である。

ウスモンカレキゾウムシ *Acicnemis palliata*

クロカレキゾウムシ *Acicnemis albofasciata*

マダラカレキゾウムシ *Acicnemis maculaalba*

アトジロカレキゾウムシ *Acicnemis dorsonigrita*

ナカスジカレキゾウムシ *Acicnemis suturalis*

各地に見られる普通種。

Acicnemis nohirai Morimoto et Miyakawa, 1995

最近、記載されたもので、少ない種である。

2. 1. 14. 1.36. アナアキゾウムシ亜科 *Hylobiinae*

アカコブコブゾウムシ *Kobuzo rectirostris*

珍しいものである。

ナガアナアキゾウムシ *Dyscerus laeviventris*

クリアアナキゾウムシ *Dyscerus exsculptus*

リンゴアナアキゾウムシ *Dyscerus shikokuensis*

少ない種である。

ガロアナアキゾウムシ *Dyscerus galloisi*

ホソアナアキゾウムシ *Dyscerus elongatus*

アナアキゾウムシではもっとも多い種である。

タマゴゾウムシ *Dyscerus orientalis*

アザミ類に見られるが、多くはない。

イワキオチバゾウムシ *Otibazo morimotoi*

この属は日本からは3種しか記載されていないが、多くの種があるという。県内では次の記録があるが、この種にあてはめるのが妥当かは今後の研究による。オチバゾウの名のごとく、落葉から発見される。

クロコブゾウムシ *Niphades variegatus*

針葉樹の枯れ木に集まる。

チビアアナキゾウムシ *Nipponiphades foveolatus*

各地に見られる。

チュウジョウアナアキゾウムシ *Seleuca chujoi chujoi*

各地に多い。

2. 1. 14. 1.37. クチカクシゾウムシ亜科 *Cryptorhynchinae*

クロクチカクシゾウムシ *Catagmatus japonicus*

アラムネクチカクシゾウムシ *Mechistocerus rugicollis*

マダラメカクシゾウムシ *Mechistocerus nipponicus*

やや大型の種で、枯れ木に多い。

コホシメカクシゾウムシ *Mechistocerus parvicmaculatus*

かなり少ない種である。

ウンモンナガクチカクシゾウムシ *Rhadinomerus unmon unmon*

マエバラナガクチカクシゾウムシ *Rhadinomerus maebarai*

クチカクシゾウムシの仲間では、もっとも多い普通種。朽木などに見られる。

チビクチカクシゾウムシ *Deiradocranus setosus*

各地に見られる。

ウスモントゲトゲゾウムシ *Colobodes konoi*

タカオマルクチカクシゾウムシ *Orochlesis takaosanus*

コブマルクチカクシゾウムシ *Acallinus tuberculatus*

ミヤマクチカクシゾウムシ *Protacalles monticola*

山地に多い。

マダラアシゾウムシ *Ectatorhinus adamsii*

大型のわかりやすい種で、平地にも多く、アラカシやヌルデなどから採れる。

ヒメクチカクシゾウムシ *Catarrhinus umbrosus*

平地にも多い普通種。

オオクチカクシゾウムシ *Syrotelus septentrionalis*

多くない。

モンクチカクシゾウムシ *Sclerolips maculicollis*

枯れ木に多い普通種。

アラハダクチカクシゾウムシ *Rhadinopus sulcatostriatus*

ヒウラシラホシゾウムシ *Shirahoshizo hiurai*

非常に珍しい種である。この類はマツの枯れ木などに集まり、害虫とされるものもある。

ニセマツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo rufescens*

シラホシゾウの仲間ではもっとも多い種である。

マダラクチカクシゾウムシ *Cryptorhynchus electus*

アタマクチカクシゾウムシ *Caenocryptorrhynchus frontalis*

ハスジクチカクシゾウムシ *Cryptorhynchus fasciculatus*

ユリコヒメクチカクシゾウムシ *Anaechmura yurikoe*

山地の朽木などによく見られる。本種によく似たやや大型の別種も見られるが、これにはまだ名前が付いていない。

コブダルマカレキゾウムシ *Lobosoma rausense*

今まで、カレキゾウムシ亜科に含まれていたが、クチカクシゾウムシ亜科に変更された。山地に見られるが、少ない。

2. 1. 14. 1. 38. キクイゾウムシ亜科 *Cossoninae*

マツクチプトキクイゾウムシ *Stenoscelis gracilitarsis*

ケナガクチブトキクイゾウムシ *Stenoscelis longisetosus*

県未記録種。

ムツヒゲキクイゾウムシ *Hexarthrum brevicorne*

筆者が次の報告をしたが、同定に疑問がある。

マツチャイロキクイゾウムシ *Ochronanus pallidus*

ワシバナヒラタキクイゾウムシ *Cossonus gibbirostris*

平野が記録し、別種として訂正したが、さらに検討した結果、この処理は誤りのようで、もとにもどすことにする。少ない種である。

アシブトヒラタキクイゾウムシ *Cossonus tibialis*

♂はその名の通り、後脛節が後方へ広がっているが、♀は単純である。どういう訳か♀は多いが、♂は極端に少ない。堂平ではブナの朽木などの樹皮下に多く見られる。

カグヤヒメキクイゾウムシ *Pseudocossonus brevitarsis*

マダケやメダケなどの中に潜入している。

チャバネキクイゾウムシ *Heterarthrus lewisi*

クズやフジの枯れ枝に多い普通種。

マツコブキクイゾウムシ *Xenomimetes destructor*

多くない。

ハンノキコブキクイゾウムシ *Xenomimetes alni*

ハンノキ、シナノキ、ブナなどの材部に穿孔する。各地に多い。

ワシバナヒメキクイゾウムシ *Phloeophagosoma curvirostre*

ヤシヤブシなどの広葉樹の枯れ木に多い。各地に普通。

マツオオキクイゾウムシ *Macrorhyncolus crassiusculus*

松などの樹皮下に見られるが、それほど多くはない。

Sphaerocorynes sulcirostris(Voss), 1957

サルナシににいるというが、少ない種らしい。

2. 1. 14. 1. 39. オオゾウムシ科 *Rhynchophoridae*

生態などはゾウムシと同じだが、貯穀害虫やバナナやヤシ子の害虫とされる種もある。最近、ノシバに大害を与えるシバオサゾウムシが神奈川県でも増えつつある。日本では37種の記録があり、県内からは11種の報告がある。丹沢では6種の生息を確認できた。

2. 1. 14. 1. 40. ホソクイサビゾウムシ亜科 *Dryophthorinae*

スギクイサビゾウムシ *Dryophthorus japonicus*

アトボソクイサビゾウムシ *Dryophthorus konishii*

Konishi, M. は *D. corticalis*(Paykull)として記録したが、本種のことである。

キクイサビゾウムシ *Dryophthorus sculpturatus*

稀ではない。

2. 1. 14. 1. 41. キクイサビゾウムシ亜科 *Stromboscerinae*

オオゾウムシ *Sipalinus gigas*

県内最大のオサゾウムシで、各地にもっとも普通に見られる。広葉樹や針葉樹の枯木を食害する。

アトマルキクイサビゾウムシ *Tetrasyntommatus thompsoni*

少ない種である。

2. 1. 14. 1. 42. オサゾウムシ亜科 *Rhynchophorinae*

トホシオサゾウムシ *Aplotes roelofsi*

わかりやすい種だが、最近はあまり見られない。

2. 1. 15. 脈翅類

2. 1. 15. 1. ヘビトンボ科 *Corydalidae*

ヘビトンボ *Prothohermes grandis*

幼虫は孫太郎虫と呼ばれ、乾燥個体は古くから子供の疳の妙薬として知られている。幼虫が水棲際であるので成虫は沢浴いで見ることが多い。

2. 1. 15. 2. センブリ科 *Sialidae*

ネグロセンブリ *Sialis japonica*

この幼虫も水棲で、比較的清らかな流れや池沼が生息地である。確認場所は東丹沢地域だけであるが、他にも発生している可能性は充分ある。成虫の発生が春、比較的短い期間に限られるため確認しにくい。また、山地に分布すると予想されるクロセンブリは確認できなかった。

2. 1. 15. 3. キスジラクダムシ科 *Raphididae*

キスジラクダムシ *Raphidia harmandi*

全国的に採集例の少ない種である。川瀬(1986)によれば標高1000m前後のブナやモミの原生林が生息地という。今回の調査では一番気になった種であったが、調査の機会を失し確認できなかった。他の調査員が採集された古い標本を検査することができ、本種が生息していたことを確認し得た。

2. 1. 15. 3. 1.1. コナカゲロウ科 *Coniopterygidae*

キバラコナカゲロウ *Coniopteryx abdominalis*

コナカゲロウの仲間はいずれも翅長2~4mmと小型種であるので、野外での確認作業はいささか困難をともなったが、一度コツを覚えると後は確実となった。なお、性別の判定は現状では困難をともない行っていない。

アトコバネコナカゲロウ *Conwentzia pineticola*

後翅が極端に小さいので判別は比較的容易である。成虫で越冬するようで、早春や晩秋常緑樹に絡みついた枯れ葉をスワイプすると良く得られる。

シロコナカゲロウ *Semidalis aleyrodiformis*

コナカゲロウは翅全体に白粉状のロウ物質を装うので、外見上白いと映るが、シロコナカゲロウはとくに白く感ずる。

マダラコナカゲロウ *Coniocompa japonica*

原記載が神奈川で得られた標本に基づいてなされた種である。コナカゲロウの生活史はほとんど判っていないが、とくに、この種についての情報はないに等しい。今回の調査では1例しか確認できなかった。山地に広く分布しているのかどうかは不明である。

2. 1. 15. 3. 1.2. ヒロバカゲロウ科 *Osmylidae*

ウンモンヒロバカゲロウ *Osmylus tessellatus*

ヒロバカゲロウの幼虫は、水棲、半水棲とされており、成虫は水辺で得られることが多い。ウンモンヒロバカゲロウは今回の調査では1例しか確認されていないが、他県の情報から判断するとそう稀な種ではないと思われる。

ツマモンヒロバカゲロウ *Plethosmylus decoratus*

次種と区別のつきにくい種であるが、区別点がいくつかあるので確認できる。

スカシヒロバカゲロウ *Plethosmylus hyalinatus*

ヒロバカゲロウの中でわりと広く分布するようである。

オガタヒロバカゲロウ *Lysmus ogatai*

全国的に採集例の稀な種である。情報が少なく評価しにくい種であるが、現在のまでのところ丹沢の記録が分布の東限にあたる。

キマダラヒロバカゲロウ *Spilosmylus flavicornis*

発生地ではわりと数多く確認できる。スカシヒロバカゲロウとともに年二化するのではないかとと思われるが、詳細は今のところ不明である。

カスリヒロバカゲロウ *Spilosmylus nipponensis*

比較的広い範囲に分布しているようである。水辺から離れた尾根筋でも見られる。

ヤマトヒロバカゲロウ *Spilosmylus tuberculatus*

前翅後縁中央に表面側に膨らんだ部分があり、同定は容易である。比較的暖地系のヒロバカゲロウといわれている。

2. 1. 15. 3. 1.3. ヒメカゲロウ科 *Hemerobiidae*

エグリヒメカゲロウ *Drepanepteryx phalaenoides*

前翅形が特異な大型のヒメカゲロウで、山地帯上部に生息する種である。

クビカクシヒメカゲロウ *Drepanepteryx punctatus*

本種も大型のヒメカゲロウであり、斑紋に特徴がある。あまり採集例のない種である。

キバネヒメカゲロウ *Hemerobius harmandinus*

平地では松林に多いヒメカゲロウであるが、山地ではどのような生活を送っているのか不明である。

ミヤマヒメカゲロウ *Hemerobius humulinus*

次種と混生している場合が多い。♂は交尾器で明確に区別できるが、♀は明確な区別点が見つかっておらず、多数の両種の♀を各地で得ているが、同定不可能として、本目録には収録していない。ミヤマと和名がつけられていることがどこにでもいるヒメカゲロウである。但し、次種より数は少ないようである。

ヤマトヒメカゲロウ *Hemerobius japonicus*

もっとも広範囲に分布し、数も多いヒメカゲロウである。

クロヒゲヒメカゲロウ *Hemerobius nigricornis*

触角が黒い。平地にも生息している。

マルバネヒメカゲロウ *Neuronema albstigma*

山地帯上部に生息するヒメカゲロウである。

ブチヘリヒメカゲロウ *Wesmaelius nervosus*

全国的にもあまり採集されたことのない稀種である。

コチャバネヒメカゲロウ *Micromus angulatus*

平地でも記録が出ているが、採集例を増やせない不思議なヒメカゲロウである。

シロタエヒメカゲロウ *Micromus dissimilis*

平地でも確認できるが、いずれにしてもあまり多くない。

アシマダラヒメカゲロウ *Micromus calidus*

ヤマトヒメカゲロウ、チャバネヒメカゲロウと並んで広範囲に分布し、数も多い。

ホソバヒメカゲロウ *Micromus linearis*

どちらかというと草地、林縁の下草に多い。

チャバネヒメカゲロウ *Micromus numerosus*

どこにでも普通に見られるヒメカゲロウで、成虫で越冬するようで初冬、早春常緑樹をビーティングするとよく落ちてくる。

ミドリヒメカゲロウ *Notiobiella subolivacea*

本種も成虫越冬する種のように、夏以降に数を増やしてくる。

ウスクロヒメカゲロウ(仮称) *Symphorobius dilutus*

中原和郎博士によって記載された種であるが、その後記録はほとんどない。

2. 1. 15. 3. 1.4. クサカゲロウ科 *Chrysopidae*

ヨツボシクサカゲロウ *Chrysopa pallens*

もっともポピュラーな大型のクサカゲロウであるが、数は人里の方が多いようである。

ヒメオオクサカゲロウ *Nineta vittata*

次種とともに山地性の大型のクサカゲロウである。

キタオオクサカゲロウ *Nineta alpicola*

前種とともに山地性の大型のクサカゲロウである。

ムモンクサカゲロウ *Chrysotropia ciliata*

平地にも産するが、山地でもわりと出会える顔面が無紋のクサカゲロウである。

イツホシアカマダラクサカゲロウ *Pseudomallada cognatellus*

夏以降数を増す小型のクサカゲロウである。

ヨツボシアカマダラクサカゲロウ *Pseudomallada parabolus*

前種とよく似ている小型のクサカゲロウであるが、触角間に黒紋を欠くので容易に区別される。

フタモンクサカゲロウ *Pseudomallada formosanus*

顔面頬の黒紋は丸く、両髭とも緑色で、次種に比べるとあまり多くない。

クロヒゲフタモンクサカゲロウ *Pseudomallada ussuriensis*

前種と同じように顔面頬の黒紋は丸いが、両髭は黒いので区別は容易である。

Pseudomallada の 4 種は平地、山地とも広範囲に分布するが、本種は山地で 1 番多いようである。

ヤマトクサカゲロウ *Chrysoperla carnea*

ヨツボシクサカゲロウとともにもっとも普通のクサカゲロウで、成虫で越冬するので 1 年中見られる。山地にも広く分布する。

スズキクサカゲロウ *Chrysoperla suzukii*

ヤマトクサカゲロウによく似ているが、やや大型で翅脈が全体に緑色で、なれば区別は明確にできる。本種も成虫で越冬するようで、秋から春にかけて見ることが多い。平地、山地ともに分布する。

アミメクサカゲロウ *Nacaura matsumurae*

特異な翅形をもつ大型のクサカゲロウで、触角が長く優美である。成虫で越冬するといわれ、秋に多く見られるが越冬状況は知られていない。

2. 1. 15. 3. 2. クシヒゲカゲロウ科 *Dilaridae*

クシヒゲカゲロウ *Dilar japonicus*

♂触角が櫛状で、♀には糸状の産卵管がある。山地性である。

2. 1. 15. 3. 3. カマキリモドキ科 *Mantispidia*

キカマキリモドキ *Eumantispa harmandi*

平地にも生息するが、山地帯が主たる生息域で、場所によっては個体数も多い。灯火に飛来する。

ヒメカマキリモドキ *Mantispa japonica*

わりと普通な種と思われるが、どここの生息地でも個体数は少ない。

2. 1. 15. 3. 4. ウスバカゲロウ科 *Myrmeleonidae*

コマダラウスバカゲロウ *Dendroleon jezoensis*

本種は幼虫が特異な生態をもつので、幼虫の探索により効率的に分布が確認できる。平地から山地にかけて広く分布する。

ホシウスバカゲロウ *Glenuroides japonicus*

どこにでもいる普通種と思われるが、案外その生態は明らかでない。山地での記録が少ないが、本来数が少ないのかどうかは詳らかではない。

モイワウスバカゲロウ *Epacanthaclisis moiwana*

山地性のウスバカゲロウで、今のところ丹沢山地の中央部でしか記録がない。

ウスバカゲロウ *Hagenomia micnas*

もっとも普通で数も多い。平地から山地にかけて分布も広く、幼虫の巣(アリシゴク)はいたるところで目に入る。

コウスバカゲロウ *Myrmeleon formicarius*

ウスバカゲロウと違って、日当たりのよい明るい地面に幼虫は巣をつくる。直射日光のをまともに受けている林道の脇、崖が風化で崩れ、細かい土砂を堆積しているところなどが絶好の生息地となっている。

2.1.18. アザミウマ目

2.1.18.1. アザミウマ科 *Thripidae*

食植性の種が多く、主として花から得られる。また、主要な農作物の害虫が多く含まれている。

ヒラズハナアザミウマ *Frankliniella intonsa*

各種の花上にきわめて普通のアザミウマである。

アシグロハナアザミウマ *Taeniothrips oreophilus*

ノイバラの花から得られた。なお、文献によるヤビク峠の記録があるが、ヤビツ峠の誤りと思われる。

ダイズウスイロアザミウマ *Thrips setosus*

クロゲハナアザミウマ *Thrips nigropilosus* Uzel

ハナアザミウマ *Thrips hawaiiensis*

ビワハナアザミウマ *Thrips coloratus*

ネギアザミウマ *Thrips tabaci*

農作物の害虫として著名な種であるが、今回はハルジョオンの花から得られた。

キイロハナアザミウマ *Thrips flavus*

2.1.18.2. クダアザミウマ科 *Phlaeothripidae*

Podothrips odonaspicola

文献による記録が1例ある。ササに寄生するようである。

Holothrips japonicus

ブナの枯れ枝より脱出。

Holothrips yuasai

ブナの枯れ枝より脱出。

Plectothrips hiromasai

ブナの枯れ枝より脱出。

2.1.19. 半翅類

2.1.19.1. 同翅目(ヨコバイ目) *HOMOPTERA*

2.1.19.1.1. セミ型類 *Cicadomorpha*

2.1.19.1.1.1. セミ科 *Cicadidae*

ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi*

アブラゼミ *Graptosaltria nigrofuscata*

エゾゼミ *Tibicen japonicus*

アカエゾゼミ *Tibicen flammatus*

コエゾゼミ *Tibicen bihamatus*

クマゼミ *Cryptotympana facialis*

ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis*

ヒグラシ *Tanna japonensis*

エゾハルゼミ *Terpnosia nigricosta*

ハルゼミ *Terpnosia vacua*

ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*

チッチゼミ *Cicadetta radiator*

2.1.19.1.1.2.コガシラアワフキムシ科 *Cercopidae*

コガシラアワフキ *Eoscarta assimilis*

アワフキムシ科 *Aphrophoridae*

シロオビアワフキ *Aphrophora intermedia*

マツアワフキ *Aphrophora flavipes*

モンキアワフキ *Aphrophora major*

ハマベアワフキ *Aphrophora maritima*

ヒメシロオビアワフキ *Aphrophora obliqua*

コガタアワフキ *Aphrophora obtusa*

ホシアワフキ *Aphrophora stictica*

クロスジアワフキ *Aphrophora vittata*

イシダアワフキ *Aphrophora ishidae*

オオアワフキ *Aphropsis galloisi*

コミヤマアワフキ *Peuceptyelus medius*

マダラアワフキ *Awafukia nawae*

クロフアワフキ *Sinophora submacula*

マルアワフキ *Lepyronia grossa*

オカダアワフキ *Lepyronia okadae*

テングアワフキ *Philagra albinotata*

ソウウンアワフキ *Phlaronia nigrifrons*

クロスジホソアワフキ *Aphilaenus nigripectus*

トドマツホソアワフキ *Aphilaenus abieti*

2.1.19.1.1.3.トゲアワフキムシ科 *Machaerotidae*

タケウチトゲアワフキ *Machaerota takeuchii*

ムネアカアワフキ *Hindoloides bipunctatus*

2.1.19.1.1.4.ツノゼミ科 *Membracidae*

ツノゼミ *Butragulus flavipes*

トビイロツノゼミ *Machaerotypus sibiricus*

オビマルツノゼミ *Gargara katoi*

ハコネマルツノゼミ *Gargara doenitzi*

- 2.1.19.1.1.5.ヨコバイ科 Cicadellidae
- 2.1.19.1.1.5.1.シダヨコバイ亜科 Agalliinae
- シダヨコバイ *Japanagallia pteridis*
- オヌキシダヨコバイ *Onukigallia onukii*
- 2.1.19.1.1.5.2.ヒロズヨコバイ亜科 Macropsinae
- マエジロハトムネヨコバイ *Macropsis costalis*
- カシハトムネヨコバイ *Macropsis quercus*
- フタオビハトムネヨコバイ *Macropsis matsumurana*
- ハンノヒロズヨコバイ *Oncopsis alni*
- オモゴヒロズヨコバイ *Oncopsis omogonis*
- クルミヒロズヨコバイ *Pediopsoides juglans*
- 2.1.19.1.1.5.3.ミミズク亜科 Ledorinae
- ミミズク *Ledra auditura*
- コミミズク *Ledropsis discolor*
- 2.1.19.1.1.5.4.オオヨコバイ亜科 Cicadellinae
- ヨモギシロテンヨコバイ *Mileewa margheritae*
- オオヨコバイ *Cicadella viridis*
- ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia ferruginea*
- マエジロオオヨコバイ *Kolla atramentaria*
- キスジカンムリヨコバイ *Evacanthus interruptus*
- テングオオヨコバイ *Tengirhinus tengu*
- シロズオオヨコバイ *Oniella leucocephala*
- オヌキヨコバイ *Onukia onukii*
- オオクワキヨコバイ *Pagaronia grossa*
- コクワキヨコバイ *Pagaronia minor*
- 2.1.19.1.1.5.5.ズキンヨコバイ亜科 Idiocerinae
- ズキンヨコバイ *Podulmorinus vitticollis*
- ムナグロズキンヨコバイ *Metidiocerus rutilans*
- 2.1.19.1.1.5.6.アオズキンヨコバイ亜科 Iassinae
- アオズキンヨコバイ *Batracomorphus mundus*
- セグロアオズキンヨコバイ *Trocnadella suturalis*
- 2.1.19.1.1.5.7.ヒラタヨコバイ亜科 Aphrodinae
- クロサジヨコバイ *Planaphrodes nigricans*
- 2.1.19.1.1.5.8.クロヒラタヨコバイ亜科 Penthimiinae
- クロヒラタヨコバイ *Penthimia nitida*

- 2.1.19.1.1.5.9.ブチミヤクヨコバイ亜科 *Selenocephalinae*
 ニトベブチミヤクヨコバイ *Drabescus nitobei*
 ホシサジヨコバイ *Parabolopona guttata*
- 2.1.19.1.1.5.10.ホシヨコバイ亜科 *Xestocephalinae*
 ホシヨコバイ *Xestcephalus japonicus*
 ニッコウホシヨコバイ *Xestcephalus nikkoensis*
 イグチホシヨコバイ *Xestcephalus iguchii*
- 2.1.19.1.1.5.11.ヨコバイ亜科 *Deltocephalinae*
 キンミドリコバネヨコバイ *Aconurella japonica*
 アカカスリヨコバイ *Balclutha rubrinervis*
 カスリヨコバイ *Balclutha punctata*
 ヒメフタテンヨコバイ *Macrosteles striifrons*
 ヨツテンヨコバイ *Macrosteles quadrimaculatus*
 ヤマトヨコバイ *Yamatotettix flavovittatus*
 アライヒシモンヨコバイ *Hishimonus araii*
 トバヨコバイ *Alobaldia tobae*
 ヒロズマダラヨコバイ *Recilia latifrons*
 モジヨコバイ *Amimenus mojiensis*
 コチャイロヨコバイ *Matsumurella kogotensis*
 リンゴマダラヨコバイ *Orientus ishidae*
 シラホシスカシヨコバイ *Scaphoideus festivus*
 シロセスジヨコバイ *Scaphoideus albovittatus*
 モモグロヨコバイ *Paralaeviccephalus nigrifemoratus*
 シロミヤクイチモンジヨコバイ *Paramesodes albinervosus*
 マダラヨコバイ *Psammotettix striatus*
 タケナガヨコバイ *Bambusana bambusae*
 ミドリヒロヨコバイ *Laburru impictifrons*
 キマダラヒロヨコバイ *Ophiola flavopictus*
 フタスジトガリヨコバイ *Futasujinus candidus*
 ヒトツメヨコバイ *Phlogotettix cyclops*
 ツマグロヨコバイ *Nephotettix cincticeps*
- 2.1.19.1.1.5.12.ヒメヨコバイ亜科 *Typhlocybae*
 オビヒメヨコバイ *Naratettix zonatus*
 カシヒメヨコバイ *Agriahana quercus*
 スズキヒメヨコバイ *Arboridia suzukii*
 ヤノヒメヨコバイ *Arboridia yanonis*

サッポロヒメヨコバイ *Alnetoidia sapporoensis*
 ヨツモンヒメヨコバイ *Empoascanara limbata*
 マダラヒメヨコバイ *Platytettix pulchrus*
 チマダラヒメヨコバイ *Tautoneura mori*
 ヤマシロヒメヨコバイ *Zygina yamashiroensis*
 ヒトツメヒメヨコバイ *Ishiharella polyphemus*
 カンキツヒメヨコバイ *Apheliona ferruginea*
 トドマツヒメヨコバイ *Empoasca abietis*
 アカシヒメヨコバイ *Paracyba akashiensis*
 ムツテンヒメヨコバイ *Linnavuoriana sexmaculata*
 シロヒメヨコバイ *Eurhadina pulchella*
 ホシヒメヨコバイ *Limassolla multipunctata*

2.1.19.1.2.ハゴロモ型類 *Fulgoromorpha*

2.1.19.1.2.1.ヒシウンカ科 *Cixiidae*

ヨモギヒシウンカ *Oecleopsis artemisiae*
 オビカワウンカ *Andes harimensis*
 ハスオビヒシウンカ *Betacixius obliquus*
 キガシラヒシウンカ *Kuvera flaviceps*

2.1.19.1.2.2.ウンカ科 *Delphacidae*

タテヤマナガウンカ *Stenocranus tateyamanus*
 タケウンカ *Epeurya nawaii*
 セジロウンカ *Sogatella furcifera*
 ヒエウンカ *Sogatella kolophon*
 トビイロウンカ *Nilaparvata lugens*
 タテゴトウンカ *Toya lyraeformis*
 ナガラガウンカ *Garaga nagaragawana*
 クワヤマウンカ *Kakuna kuwayamai*
 エゾトビウンカ *Paradelphacodes paludosa*
 サッポロトビウンカ *Unkanodes sapporona*

2.1.19.1.2.3.ハネナガウンカ科 *Derbidae*

マエグロハネナガウンカ *Zoraida pterophoroides*
 シリアカハネナガウンカ *Zoraida horishana*
 マダラハネナガウンカ *Pamendanga matsumurae*
 アカフハネナガウンカ *Epotiocerus flexuosus*
 クロフハネナガウンカ *Mysidioides sapporensis*
 アカメガシワハネビロウンカ *Vekunta malloti*

2.1.19.1.2.4.コガシラウンカ科 *Achilidae*

ナワコガシラウンカ *Rhotala nawae*

スジコガシラウンカ *Rhotala vittata*

ウチワコガシラウンカ *Catanidia sobrina*

ゲンバイウンカ科 *Tropiduchidae*

トビイロゲンバイウンカ *Ommatissus lofuensis*

2.1.19.1.2.5.マルウンカ科 *Issidae*

カタビロクサビウンカ *Issus harimensis*

クサビウンカ *Sarima amagisana*

マルウンカ *Gergithus variabilis*

2.1.19.1.2.6.アオバハゴロモ科 *Flatidae*

アオバハゴロモ *Geisha distinctissima*

2.1.19.1.2.7.ハゴロモ科 *Ricaniidae*

ベッコウハゴロモ *Orosanga japonicus*

アミガサハゴロモ *Pochazia albomaculata*

2.1.19.2.異翅目(カメムシ目) *HETEROPTERA*

2.1.19.2.1.ムクゲカメムシ亜目 *Dipsocoromorpha*

2.1.19.2.1.1.オオムクゲカメムシ科 *Ceraocombidae*

2.1.19.2.2.タイコウチ亜目 *Nepomorpha*

2.1.19.2.2.1.タイコウチ科 *Nepidae*

タイコウチ *Laccotrephes japonesis*

ミズカマキリ *Ranatra chinensis*

2.1.19.2.2.2.コオイムシ科 *Belostomatidae*

オオコオイムシ *Appasus major*

2.1.19.2.2.3.マツモムシ科 *Notonectidae*

マツモムシ *Notonecta triguttata*

コマツモムシ *Anisops ogasawarensis*

2.1.19.2.2.4.ミズムシ科 *Corixidae*

エサキコミズムシ *Sigara septemlineata*

ヒメコミズムシ *Sigara matsumurai*

2.1.19.2.2.5.ナベブタムシ科 *Aphelocheiridae*

ナベブタムシ *Aphelocheirus vittatus*

2.1.19.2.3.アメンボ亜目 *Gerromorpha*

2.1.19.2.3.1.アメンボ科 *Gerridae*

オオアメンボ *Aquarius elongatus*

ナミアメンボ *Aquarius paludum paludum*

コセアカアメンボ *Gerris gracilicornis*

ヤスマツアメンボ *Gerris insularis*

ヒメアメンボ *Gerris latiabdominis*

シマアメンボ *Metrocoris histrio*

2.1.19.2.3.2.イトアメンボ科 *Hydrometridae*

ヒメイトアメンボ *Hydrometra procera*

2.1.19.2.4. ミズギワカメムシ亜目 *Leptopodomorpha*

2.1.19.2.4.1. ミズギワカメムシ科 *Saldidae*

ミズギワカメムシ *Saldula saltatoria*

タニガワミズギワカメムシ *Macrosaldula miyamotoi*

2.1.19.2.5. トコジラミ亜目 *Cimicomorpha*

2.1.19.2.5.1. グンバイムシ科 *Tingidae*

マルグンバイ *Acalypta sauteri*

ヒゲブトグンバイ *Copium japonicum*

コアカソグンバイ *Cysteochila fieberi*

クルミグンバイ *Uhlerites latius*

マルミヤマグンバイ *Derephysia ovata*

トサカグンバイ *Stephanitis takeyai*

2.1.19.2.5.2. メクラカメムシ科 *Miridae*

ズアカシダメクラガメ *Monalocoris filicis*

ヒコサンテングメクラガメ *Termtophylum hikosanum*

オオモンキメクラガメ *Deraeocoris olivaceus*

モンキクロメクラガメ *Deraeocoris ater*

ヒョウタンメクラガメ *Pilophorus setulosus*

クロヒョウタンメクラガメ *Pilophorus typicus*

クロマルメクラガメ *Orthocephalus funestus*

カタグロミドリメクラガメ *Cyrtorhynchus lividipennis*

マツケブカメクラガメ *Tinginotum pini*

アカアシメクラガメ *Onomaus lautus*

ブチヒゲクロメクラガメ *Adelphocoris triannulatus*

ウスモンメクラガメ *Adelphocoris demissus*

ナカグロメクラガメ *Adelphocoris suturalis*

アカスジオオメクラガメ *Gigantomiris jupiter*

アシアカクロメクラガメ *Arbolygus rubripes*

フタモンウスキメクラガメ *Lygocoris hnshuensis*

マダラメクラガメ *Lygus saundersi*

モンキマキバメクラガメ *Orthops sachalinus*
メンガタメクラガメ *Eurystylus coelestialium*
アカミヤクメクラガメ *Stenodema rubrinerve*
オオセダカメクラガメ *Probosciodocoris varicornis*
ヒメセダカメクラガメ *Charagochilus gyllenhalii*

2.1.19.2.5.3.ハナカメムシ科 Anthocoridae

キモンクロハナカメムシ *Anthocoris miyamotoi*
ヤサハナカメムシ *Amphiareus obscuriceps*

2.1.19.2.5.4.マキバサシガメ科 Nabidae

アカマキバサシガメ *Gorpis brevilineatus*
ハラビロマキバサシガメ *Himacerus apterus*
クロマキバサシガメ *Stalia daurica*
コバネマキバサシガメ *Nabis apicalis*
ハネナガマキバサシガメ *Nabis stenoferus*

2.1.19.2.5.5.サシガメ科 Reduviidae

オオアシナガサシガメ *Gardena melinarthrum*
クビアカサシガメ *Reduvius humeralis*
クビグロアカサシガメ *Haematoloecha delibuta*
アカシマサシガメ *Haematoloecha nigrorufa*
クロバアカサシガメ *Labidocoris pectoralis*
クロモンサシガメ *Peirates turips*
アカサシガメ *Cydnocoris russatus*
ハネナシサシガメ *Coranus dilatatus*
アカヘリサシガメ *Rhynocoris ornatus*
シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis*
ヤニサシガメ *Velinus nodipes*
トビイロサシガメ *Oncocoephalus assimilis*
ホソサシガメ *Pygolampis cognata*
ビロウドサシガメ *Ectrychotes andreae*
オオトビサシガメ *Isyndus obscurus*

2.1.19.2.6.カメムシ亜目 Pentatomomorpha

2.1.19.2.6.1.ヒラタカメムシ科 Aradidae

ノコギリヒラタカメムシ *Aradus orientalis*
エサキヒラタカメムシ *Aradus esakii*
ヒラタカメムシ *Aradus consentaneus*
ニッポンヒメヒラタカメムシ *Aneurus nipponicus*

クロヒラタカメムシ *Brachyrhynchus taiwanicus*
オオヒラタカメムシ *Mezira scabrosa*
ケブカオオヒラタカメムシ *Mezira setosa*
トビイロオオヒラタカメムシ *Neuroctenus castaneus*

2.1.19.2.6.2.イトカメムシ科 Berytidae

ヒメイトカメムシ *Metacanthus pulchellus*

2.1.19.2.6.3.ナガカメムシ科 Lygaeidae

アカヘリナガカメムシ *Arocatus sericans*
ジュウジナガカメムシ *Tropidothorax cruciger*
ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon*
イシハラナガカメムシ *Pylorgus ishiharai*
ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus*
ニッポンコバネナガカメムシ *Dimorphopterus japonicus*
コガシラコバネナガカメムシ *Pirkimerus japonicus*
オオメナガカメムシ *Piocoris varius*
ヒメオオメナガカメムシ *Geocoris proteus*
ヒゲナガカメムシ *Pachygrontha antennata*
チビナガカメムシ *Stigmatonotum rufipes*
イチゴチビナガカメムシ *Stigmatonotum geniculatum*
キベリヒョウタンナガカメムシ *Paraparomius lateralis*
サビヒョウタンナガカメムシ *Pamerarma rustica*
ヒョウタンナガカメムシ *Caridops albomarginatus*
ウスチャヒョウタンナガカメムシ *Pachybrachius flavipes*
クロアシホソナガカメムシ *Paromius exiguus*
チャモンナガカメムシ *Paradieuches dissimilis*
チャイロナガカメムシ *Neolethaeus dallasi*
クロナガカメムシ *Drymus marginatus*
チャイロホソナガカメムシ *Prosemoeus brunneus*
オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus*

2.1.19.2.6.4.メダカナガカメムシ科 Malcidae

メダカナガカメムシ *Chauliops fallax*

2.1.19.2.6.5.オオホシカメムシ科 Largidae

ヒメホシカメムシ *Physopelta cincticollis*
オオホシカメムシ *Physopelta gutta*

2.1.19.2.6.6.ホシカメムシ科 Pyrrhocoridae

クロホシカメムシ *Pyrrhocoris sinuaticollis*

- フタモンホシカメムシ *Pyrrhocoris sibiricus*
- 2.1.19.2.6.7.ホソヘリカメムシ科 **Alydidae**
- クモヘリカメムシ *Leptocorisa chinensis*
- ヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius unicolor*
- ホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus*
- 2.1.19.2.6.8.ヘリカメムシ科 **Coreidae**
- ヒメトゲヘリカメムシ *Coriomerus scabricornis*
- オオヘリカメムシ *molipteryx fuliginosa*
- ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus*
- ハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus dilatatus*
- ツマキヘリカメムシ *Hygia opaca*
- オオツマキヘリカメムシ *Hygia lativentris*
- ホソハリカメムシ *Cletus punctiger*
- キバラヘリカメムシ *Plinactus bicoloripes*
- ホオズキヘリカメムシ *Acanthocoris sordidus*
- オオクモヘリカメムシ *Anacanthocoris striicornis*
- 2.1.19.2.6.9.ヒメヘリカメムシ科 **Rhopalidae**
- アカヒメヘリカメムシ *Rhopalus maculatus*
- ケブカヒメヘリカメムシ *Rhopalus sapporensis*
- ブチヒメヘリカメムシ *Stictopleurus punctatonevrosus*
- 2.1.19.2.6.10.マルカメムシ科 **Plataspidae**
- マルカメムシ *Megacopta punctatissima*
- ヒメマルカメムシ *Coptosoma biguttulum*
- 2.1.19.2.6.11.ツチカメムシ科 **Cydnidae**
- ヨコツナツチカメムシ *Adrisa magna*
- ツチカメムシ *Macrosytus japonesis*
- ヒメツヤツチカメムシ *Chilocoris piceus*
- ヒメツチカメムシ *Geotomus pygmaeus*
- 2.1.19.2.6.12.クヌギカメムシ科 **Urostylidae**
- ヘラクヌギカメムシ *Urostylis annulicornis*
- ナシカメムシ *Urochela lateovaria*
- 2.1.19.2.6.13.キンカメムシ科 **Scutelleridae**
- アカスジキンカメムシ *Poecilocoris lewisi*
- 2.1.19.2.6.14.カメムシ科 **Pentatomidae**
- イネクロカメムシ *Scotinophara lurida*
- アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum*

オオクチブトカメムシ *Picromerus bidens*
 クチブトカメムシ *Picromerus lewisi*
 アオクチブトカメムシ *Dinorhynchus dybowskyi*
 アカアシクチブトカメムシ *Pinthaeus sanguinipes*
 シモフリクチブトカメムシ *Eocanthecona japonicola*
 チャイロクチブトカメムシ *Arma custos*
 シロヘリカメムシ *Aenalia lewisi*
 イネカメムシ *Lagynotomus elongatus*
 オオトゲシラホシカメムシ *Eysarcoris lewisiaeneus*
 トゲシラホシカメムシ *Eysarcoris aeneus*
 シラホシカメムシ *Eysarcoris ventralis*
 ツヤマルシラホシカメムシ *Eysarcoris annamita*
 ヒメナガメ *Eurydema dominulus*
 ミヤマカメムシ *Hermolaus amurensis*
 ナカボシカメムシ *Menida musiva*
 スコットカメムシ *Menida scotti*
 ツマジロカメムシ *Menida violacea*
 ブチヒゲカメムシ *Dolycoris baccarum*
 トゲカメムシ *Carbula humerigera*
 チャバネアオカメムシ *Plautia stali*
 エゾアオカメムシ *Palomena angulosa*
 ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus*
 クサギカメムシ *Halyomorpha picus*
 ヨツボシカメムシ *Homalogonia obtusa*
 ウシカメムシ *Alcimocoris japonesis*
 アカアシカメムシ *Pentatoma rufipes*
 ツノアオカメムシ *Pentatoma japonica*
 トホシカメムシ *Lelia decempunctata*
 エビイロカメムシ *Gonopsis affinis*

2.1.19.2.6.15.ツノカメムシ科 *Acanthosomatidae*

セアカツノカメムシ *Acanthosoma denticauda*
 オオツノカメムシ *Acanthosoma giganteum*
 ツノアカツノカメムシ *Acanthosoma haemorrhoidale angulatum*
 ハサミツノカメムシ *Acanthosoma labiduroides*
 ヒメハサミツノカメムシ *Acanthosoma forficula*
 エゾツノカメムシ *Acanthosoma expansum*

モンキツノカメムシ *Sastragala scutellata*
エサキモンキツノカメムシ *Sastragala esakii*
ヒメツノカメムシ *Elasmucha putoni*
アカヒメツノカメムシ *Elasmucha dorsalis*
クロヒメツノカメムシ *Elasmucha amurensis*
セグロヒメツノカメムシ *Elasmucha signoreti*
ベニモンツノカメムシ *Elasmotherus humeralis*
アオモンツノカメムシ *Dichobothrium nubilum*
トゲツノカメムシ *Lindbericoris gramineus*

2.1.20. チャタテムシ目

2.1.20.1. チャタテムシ目 PSCOPTERA

2.1.20.1.1. コナチャタテ科 Liposcelidae

一般に屋内害虫として有名な種を含む。野外でもケヤキ等の樹皮下などからみつかることがある。

ヒラタコナチャタテ *Liposcelis bostrychophilus*

本種は屋内害虫として著名な種であり、室内に保管している間に侵入した個体である可能性も考えられる。すべてブナの枯れ枝より脱出した。

カツブシチャタテ *Liposcelis entomophilus*

ブナの枯れ枝より脱出。

ソウメンチャタテ *Liposcelis simulans*

ブナの枯れ枝より脱出。

2.1.20.1.2. ウスイロチャタテ科 Ectopsocidae

クリイロチャタテ *Ectopsocopsis cryptomeriae*

モミの枯れ枝より脱出。

マドチャタテ科 *Peripsocidae*

基本的に食菌性の科で、常緑樹の葉裏や樹の樹皮上に発生する菌類を好む種が多い。

Peripsocus didymus

ブナの枯れ枝より脱出。

モミの枯れ枝より脱出。

クロヒメマドチャタテ *Peripsocus pumilus*

ブナの枯れ枝より脱出。

2.1.20.1.3. チャタテ科 Psocidae

カバイロチャタテ *Metylophorus nebulosus*

ブナの枯れ枝より脱出。比較的少ない種である。

リンゴチャタテ *Psococeratitis mali*

樹幹に生息する代表的なチャタテムシである。幼虫は非常に強い集合性を持ち常に群れで生活する。なお、この属はさらに何種か追加される可能性が高い。ブナの枯れ枝より脱出。

ヒメムツテンチャタテ *Trichadenotecnum sexpunctellum*

ブナの枯れ枝より脱出。

モミの枯れ枝より脱出。

2.1.21. バッタ目および近縁の諸目

2.1.21.1. ゴキブリ目 *BLATTARIA*

2.1.21.1.1. ゴキブリ科 *Blattidae*

クロゴキブリ *Periplaneta fuliginosa*

人家性。本調査では西丹沢のみで記録されたが、南丹沢(蓑毛)の過去の記録もあり、山麓部の人家には広く見られると考えられる。

ヤマトゴキブリ *Periplaneta japonica*

平地から丘陵地の林に生息し、時に人家内にも入る。本調査では記録されなかったが、南丹沢(蓑毛)の過去の記録がある。

2.1.21.1.2. チャバネゴキブリ科 *Blattellidae*

モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica*

低山帯の林床に生息する。本調査では、南丹沢のみで記録されたが、山麓部には広く分布すると考えられる。

2.1.21.2. カマキリ目 *MANTODEA*

2.1.21.2.1. カマキリ科 *Mantidae*

コカマキリ *Statilia maculata*

低山帯から平地の草地に生息する。本調査では、西丹沢のみで記録されたが、山麓の集落周辺には広く分布すると考えられる。

オオカマキリ *Tenodora aridifolia*

低山帯から平地の草地に生息し、他種よりも山地の奥にまで分布する。本調査では、東丹沢・西丹沢(地蔵平)の標高 600m 以下で記録された。

チョウセンカマキリ *Tenodera angustipennis*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢(七沢)の過去の記録がある。

2.1.21.3. バッタ目 *ORTHOPTERA*

2.1.21.3.1. キリギリス科 *Tettigoniidae*

ツユムシ *Phaneroptera falcata*

湿った草地を好み、平地に多いが、山地の草地にも少数が見られる。本調査では、東丹沢・西丹沢(地蔵平)の標高 600m 以下で記録された。

アシグロツユムシ *Phaneroptera nigroantennata*

丘陵地から低山地の林縁に生息する。本調査では東丹沢・北丹沢(青野原; 神ノ川林道)・西丹沢(玄倉; 浅瀬)で記録された。

セスジツユムシ *Ducetia japonica*

平地から低山地の林縁や茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢(神ノ川林道)・西丹沢(玄倉)の標高 400m 以下で記録された。

エゾツユムシ *Ducetia chinensis*

丘陵地から山地の林縁や茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢(金沢林道)・北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 1200m 以下で記録された。

ホソクビツユムシ *Shirakisotima japonica*

山地の林縁や明るい林に生息し、おもに高い樹上に見られる。本調査では、南丹沢・西丹沢の標高 400~1300m で記録された。

ヘリグロツユムシ *Psyraja japonica*

丘陵地から山地の林縁や明るい林に生息し、しばしば林内を飛翔する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 400~1100m で記録された。

サトクダマキモドキ *Holochlora japonica*

平地から丘陵地の林縁や明るい林に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

ヤマクダマキモドキ *Holochlora longifissa*

丘陵地から低山地の林縁や明るい林に生息する。本調査では、西丹沢の 1 例のみが記録された。過去に東丹沢の記録もある。

クツワムシ *Mecopoda niponensis*

丘陵地の林縁や茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録されたのみで、山麓に局地的に分布すると考えられる。

ハヤシノウマオイ *Hexacentrus japonicus*

丘陵地から低山地の林縁に生息する。本調査では東丹沢のみで鳴く雄が記録された。東丹沢・北丹沢・西丹沢でそれぞれ記録された雌もおそらく本種と考えられる。

ハタケノウマオイ *Hexacentrus sp.*

おもに平地の草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

クビキリギリス *Euconocephalus javanicus*

平地から低山地の草地や林縁に生息する。本調査では、東丹沢で記録されたのみだが、山麓には広く分布すると考えられる。

シブイロカヤキリモドキ *Xestophrys javanicus*

平地から丘陵地の茂った草地やササやぶに生息する。本調査では、東丹沢の 1 例のみが記録された。

ヒメクサキリ *Ruspolia jezoensis*

丘陵地から山地の明るい林や茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 500~1200m で記録され、個体数も多かった。なお、山地産の本種は小型であるが、時に大型の個体もあり、長者舎の個体は体長が48mmであった。

クサキリ *Ruspolia lineosa*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢で記録され、前種よりも低標高地に少数が生息していた。

ホシササキリ *Conocephalus maculatus*

おもに平地の草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

オナガササキリ *Conocephalus gladiatus*

丘陵地の土堤などに生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢で記録されたが、山麓には広く分布すると考えられる。

ウスイロササキリ *Conocephalus chinensis*

平地から丘陵地の湿った草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

ササキリ *Conocephalus melas*

平地から低山地の林床に生息する。本調査では記録されなかったが、過去の東丹沢の記録がある。

ヒメツユムシ *Leptoteraura albicornis*

山地の林縁に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢で記録され、全域の低山帯に広く分布することが明らかになった。

セスジササキリモドキ *Xiphidiopsis spathulata*

低山地の林縁に生息する。本調査では、東丹沢の1例のみが記録された。

ヒメヤムキリモドキ *Tettigoniopsis forcipicercus*

山地のブナ林などの林床に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 600~1500m で記録された。

クロスジコバネササキリモドキ *Cosmetura ficifolia*

丘陵地から山地の明るい林に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。

コバネヒメギス *Melipotera bonneti*

平地から山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 200~1200m で記録された。

ヒメギス *Eobiana engelhardti subtropica*

平地から山地の湿原に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 400~

1500m で記録された。主稜線上で記録された 3 例はいずれも長翅型であった。

ヤブキリ *Tettigonia orientalis*

平地から山地の草地や林縁に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢で記録された。神奈川県に分布する本種には、ジャー——と連続的に鳴くタイプとチキチキチキの音節の区切りがあるタイプがあり、丹沢では低標高地には前者が、稜線部には後者が分布している。1993.9.10 の南丹沢の烏尾山(標高 1100m)での観察では、同一地点で両者が鳴いており、後者がやや小型なこと以外は顕著な形態の差は認められなかった。また、同様の 2 タイプは、北丹沢の長者舎付近でも同時に聞かれている。これらが同一種の変異であるのか別種であるのかは、松浦一郎氏によってタンザワヤブキリと仮称されているタイプも含めて検討が必要である。

2.1.21.3.2. コロギス科 *Gryllacrididae*

ハネナシコロギス *Nippancistroger testaceus*

丘陵地から山地の広葉樹林に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。

コロギス *Prosopogryllacris japonica*

丘陵地から山地の広葉樹林に生息する。本調査では、東丹沢が記録されたのみだが、南丹沢の過去の記録がある。

2.1.21.3.3. カマドウマ科 *Rhaphidophoridae*

カマドウマ *Diestrammena apicals*

丘陵地から山地の林床や建造物などに生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

マダラカマドウマ *Diestrammena japonica*

平地から山地に広く分布し、樹洞や洞窟などに生息し、しばしば建造物にも住み着く。本調査では、東丹沢・南丹沢で記録された。

コノシタウマ *Tachycines elegantissimus*

平地から山地の林床に生息する。本調査では、南丹沢・西丹沢の標高 1300m 以下で記録された。

クチキウマ *Anoplophilus acuticercus*

山地の森林内の枯れ木などに生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。クチキウマ類の分類は未完成だが、上記の個体は黒っぽくて金属光沢をもち、石川均氏に同定して頂いたところ、本種にあたるということであった。本種は県内からの初記録である。

チビクチキウマ(石川均氏仮称) *Anoplophilus* sp.

前種と同様の環境に生息し、本調査では西丹沢で記録された。前種よりやや小型で、褐色味が強く金属光沢を欠く。未記載種で石川均氏の同定によるとチビ

クチキウマにあたることである。本種も、県内からの初記録となる。なお、石川氏によると、本県にはクチキウマよりもさらに大型の別種も分布している可能性があるとのこと、今後の精査が必要である。

2.1.21.3.4. コオロギ科 *Gryllidae*

クロツヤコオロギ *Phonarellus ritsemae*

丘陵地の土堤に深い穴を掘って生息する。本調査では、南丹沢の1か所のみで記録された。

ツツレサセコオロギ *Velarifictorus micado*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、北丹沢・西丹沢で記録されただけであったが、山麓には広く分布すると考えられる。

クマコオロギ *Mitius minor*

平地から丘陵地の湿った草地や水田に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

ヒメコオロギ *Nemobiodes nipponensis*

丘陵地から低山地の茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高400m前後で記録された。

モリオカメコオロギ *Loxoblemmus sylvestris*

丘陵地から低山地の林床に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢で記録された。

ハラオカメコオロギ *Loxoblemmus campestris*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録され、前種よりも山麓部に多かった。

ミツカドコオロギ *Loxoblemmus doenitzi*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、北丹沢で記録された1例のみだったが、山麓には広く分布すると考えられる。

エンマコオロギ *Teleogryllus emma*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高800m以下で記録された。なお、山地型は顔の黒っぽいもので、上記の記録は県内は県内初記録である。

マツムシ *Xenogryllus marmoratus*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、南丹沢の1例のみが記録された。

アオマツムシ *Truljalia hibinonis*

中国原産の帰化種で、市街地を中心に分布を広げている。本調査では、南丹沢・西丹沢が記録されたただけだが、山麓の集落には普通である。秦野自然研究会(1983)によると、1982年に丹沢林道では菜の花台と表丹沢林道分岐では声が

聞かれたが、ヤビツ峠では聞かれなかったという。また、佐藤(1981)は 1979 年に東丹沢の宮ヶ瀬での多数目撃例をあげている。

スズムシ *Homoeogryllus japonicus*

平地から丘陵地のよく茂った草地に生息する。本調査では、南丹沢の 1 例のみが記録された。

カンタン *Oecanthus longicauda*

平地から山地のヨモギやクズの茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 600m 以下で記録された。

クサヒバリ *Paratrigonidium bifasciatum*

平地から丘陵地の林縁に生息する。本調査では、西丹沢の 1 例のみが記録されたが、山麓部には広く分布すると考えられる。

キンヒバリ *Anaxipha* sp.

平地から丘陵地のヨシ原などに生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

ヤマトヒバリ *Homoeoxipha lycoides*

丘陵地の林床に生息する。本調査では、北丹沢の 1 例のみが記録された。

キアシヒバリモドキ *Trigonidium* sp.

丘陵地から低山地の林縁の草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 700m 以下で記録された。

ヤチスズ *Pteronemobius ohmachii*

平地から丘陵地の湿った草地や水田に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

エソスズ *Pteronemobius yezoensis*

山地の湿った草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 400～600m で記録された。本県では従来、箱根山地でしか分布が知られていなかったもので、上記の記録は丹沢山地としての初記録となる。

マダラスズ *Dianemobius nigrofasciatus*

平地から山地の疎らな草地に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 1000m 以下で記録された。

カワラスズ *Dianemobius furumagiensis*

川の上中流の川原の砂礫地に生息する他、鉄道線路にも生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・西丹沢で記録され、各河川の上流部に分布する。なお、三保ダム本体の石積みの間には多数の本種が生息している。

ヒゲシロスズ *Polionemobius flavoantennalis*

丘陵地の土堤に生息する。本調査では、北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 400m 以下で記録された。

シバスズ *Pteronemobius mikado*

平地から低山地の背の低い草地に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢の標高 600m 以下で記録された。

2.1.21.3.5. カネタタキ科 *Mogoplistidae*

カネタタキ *Ornebius kanetataki*

平地から丘陵地の森林に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。山麓部には広く分布していると考えられる。

2.1.21.3.6. ノミバツタ科 *Tridactylidae*

ノミバツタ *Xya japonica*

平地から丘陵地の畑などに生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。

2.1.21.3.7. オンブバツタ科 *Pyrgomorphidae*

オンブバツタ *Atractomorpha lata*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では西丹沢のみで記録されたが、山麓に広く分布していると考えられる。

2.1.21.3.8. イナゴ科 *Catantopidae*

ハネナガイナゴ *Oxya japonica*

おもに水田に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢の過去の記録がある。

コバネイナゴ *Oxya yezoensis*

平地から低山地の湿った草地や水田に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 600m 以下で記録された。なお、上記の杉平橋産の雌は翅が腹端を著しく越えていた。

ツチイナゴ *Patanga japonica*

平地から丘陵地のクズなどの茂った草地に生息する。本調査では、東丹沢のみで記録された。

ハネナガフキバツタ *Eirenephilus longipennis*

山地の林縁に生息する。本調査では、北丹沢・西丹沢で記録された。上記の記録は本県からの初記録となる。

アオフキバツタ *Parapodisma subaptera*

山地の林縁や草地に生息する。本調査では、南丹沢で記録された。丹沢山地は本種の南限であり、従来、菩提峠のみに産することが知られていたが、今回上記の記録が得られ、分布域がやや広いことが明らかになった。

ヤマトフキバツタ *Parapodisma yamato*

丘陵地から低山地の林床や林縁に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 700m 以下で記録された。

タンザワフキバッタ *Parapodisma* sp.

丘陵地から低山地の林床や林縁に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢で記録され、山麓から稜線までの広い範囲に分布していた。低標高地では前種と混生し、高標高地では本種のみが見られた。本種には、全体が緑色の型と胸部背面または全身が赤褐色の型が見られるが、丹沢では雌の約4割、雄の約3割が胸部背面が赤褐色で、雌の全身赤褐色の個体は記録されなかった。なお、本種はメスアカフキバッタに近縁で、その亜種と考える説もあるが、その分類学的な位置づけは未確定である。

2.1.21.3.9. バッタ科 Acrididae

シヨウリヨウバッタ *Acrida cinerea antennata*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、南丹沢・西丹沢で記録されたが、山麓には広く分布すると考えられる。本種は眼の大きさにより2~3タイプに分けられるという説があるが、本調査では分けることができなかった。

シヨウリヨウバッタモドキ *Gonista bicolor*

丘陵地の土堤に生息する。本調査では、南丹沢の1例のみが記録された。

トノサマバッタ *Locusta migratoria*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、南丹沢でのみ記録されたが、山麓部には広く分布すると考えられる。

クルマバッタモドキ *Oedaleus infernalis*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、北丹沢・西丹沢でのみ記録されたが、山麓部に広く分布すると考えられる。

クルマバッタ *Gastrimargus marmoratus*

平地から丘陵地の草地に生息する。本調査では、記録されなかったが、東丹沢での確認例がある。

カワラバッタ *Eusphingonotus japonicus*

中流域の川原の砂礫地のみに生息する。本調査では記録されなかった。浅瀬の世附川には1992年には本種が見られたが、その後の河川工事の影響で絶滅した。また、北丹沢と西丹沢の記録も報告されている。

イナゴモドキ *Mecostethus alliaceus*

山地の草地に生息する。本調査では、西丹沢で記録された。本種は、県内では従来箱根と湯河原のみから知られていたため、上記は丹沢山地としての初記録となる。また、暗色型としたのは、本来黄褐色の部分が暗い汚褐色になった個体であり、こうした色彩のものが報告されたことはないと考えられる。

ナキイナゴ *Mongolotettix japonicus*

丘陵地から山地のススキ草地に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高1200m以下で記録された。

ヒロバネヒナバッタ *Megalaucobothrus latipennis*

山地の草地と林縁に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・南丹沢・西丹沢で記録され、山麓から稜線部まで広く分布していた。

ヒナバッタ *Chorthippus biguttulus maritimus*

平地から低山地の草地に生息する。本調査では、東丹沢のみで記録された。

タカネヒナバッタ *Chorthippus nippomontanus*

山地の草地に生息する。本調査では、西丹沢で記録されたが、これは県内初記録であり、本種の南限にあたる。丹沢山地に最も近い本種の分布地は、山梨県大菩薩山地であり、東京都からは記録がないため、分布上興味が持たれる。

2.1.21.3.10. ヒシバッタ科 *Tetrigidae*

トゲヒシバッタ *Criotettix japonicus*

平地の湿地や水田に生息する。本調査では、南丹沢で記録されたが、本種の生息環境から考えて例外的な記録である。

ハネナガヒシバッタ *Euparatettix insularis*

平地から丘陵地の湿った草地に生息する。本調査では記録されなかったが、東丹沢に過去の記録がある。

ハラヒシバッタ *Tetrix japonica*

平地から丘陵地の背の低い草地や畑に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 400m 以下で記録された。

ヤセヒシバッタ *Tetrix macilentia*

丘陵地から山地の林縁の草地などに生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・西丹沢の標高 400～800m で記録された。山麓の集落付近では前種が、山地内では本種が見られ、ほぼ住み分けていた。本種については市川顕彦氏に一部の標本を同定して頂いた。

コバネヒシバッタ *Formosatettix larvatus*

丘陵地から山地の林床に生息する。本調査では、東丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 600～1500m で記録された。本種については市川顕彦氏に一部の標本を同定して頂いた。

2.1.21.4. ナナフシ目 *PHASMIDA*

2.1.21.4.1. ナナフシ科 *Phasmatidae*

トゲナナフシ *Neohirasea japonica*

丘陵地から低山地の林床に生息する。本調査では、西丹沢の 1 例のみが記録された。

エダナナフシ *Phraortes illepidus*

丘陵地から山地の広葉樹林に生息する。本調査では、東丹沢・西丹沢で記録された。

トビナナフシ *Micadina phluctaenoides*

丘陵地の常緑広葉樹の多い林に生息する。本調査では、東丹沢のみで記録された。

ヤスマツトビナナフシ *Micadina yasumatui*

丘陵地から山地の広葉樹林に生息する。本調査では記録されなかったが、過去に西丹沢の大又沢・大山下社の記録がある。

ナナフシモドキ *Baculum irregulariterdentatum*

丘陵地から低山地の広葉樹林に生息する。本調査では、北丹沢・東丹沢・西丹沢で記録された。

2.1.21.5. ハサミムシ目 *DERMAPTERA*

2.1.21.5.1. ハサミムシ科 *Anisolabididae*

ヒゲシロハサミムシ *Gonolabis marginalis*

平地から丘陵地の林床に生息する。本調査では、西丹沢のみで記録された。

2.1.21.5.2. クギヌキハサミムシ科 *Forficulidae*

コブハサミムシ *Anechura harmandi*

山地の林縁や明るい林の低木上に生息し、樹皮下や崖の石の間で成虫越冬する。本調査では、北丹沢・南丹沢・西丹沢の標高 400~800m で記録された。本種の雄のはさみの形状には、2 型があるが、丹沢山地では約 3 分の 2 がルイス型、3 分の 1 がアルマン型であった。

エゾハサミムシ *Eparchus yezoensis*

山地の林縁に生息する。本調査では西丹沢で記録された。

キバネハサミムシ *Forficula mikado*

山地の林縁の低木上に生息する。本調査では、東丹沢・北丹沢・西丹沢の標高 600~1200m で記録された。

2.1.22. カワゲラ類

2.1.22.1. ヒロムネカワゲラ科 *Peltoperlidae*

ノギカワゲラ *Cryptoperla japonica*

飛沫のあたる岩盤や礫面にすむ。低地から高地まで広く分布するが、標高のあまり高くない所の方が多い。

ミヤマノギカワゲラ *Yoraperla uenoi*

主に流れの速い礫間、落葉の間にしがみついてすむ。ノギカゲワラよりも標高の高い所に分布する。

2.1.22.2. アミメカワゲラ科 *Perlodidae*

アミメカワゲラ科は現在十分な分類学的検討がなされておらず、特に *Isoperla* 属は種の同定に問題がある。

アサカワミドリカワゲラモドキ "*Isoperla*" *asakawae*

緩やかな流れの礫、落葉の間に多くすむ。低地から高地まで広く分布する。

フタスジミドリカワゲラモドキ *Isoperla nipponica*

緩流部の落葉中や植物の根の間などにすむ。主に低地に分布する。

ミドリカワゲラモドキ属の1種 *Isoperla* sp.2 = ? *Isoperla towadensis*

コグサアミメカワゲラ *Ostrovus mitsukonis*

河川の上流から中流域にかけて見つかる。

ヤマトヒロバネアミメカワゲラ *Pseudomegarcys japonica*

緩流部の落葉や礫の間にすむ。低地から高地まで広く分布する。

ニッコウアミメカワゲラ *Sopkalia yamadae*

礫間や岩盤の隙間にすむ。河川の源流部の近くに多い。

ヤマトアミメカワゲラ *Stavsolus japonicus*

比較的大きな河川のみから見つかった。

コウノアミメカワゲラ *Tadamus kohnonis*

高地に多いが、小さな沢などには生息しない。

2.1.22.3. カワゲラ科 *Perlidae*

ジョウクリカワゲラ *Acroneuria joukliei*

キカワゲラ *Acroneuria fulva*

モンカワゲラの1種 *Calineuria* sp.1

キアシクロフタツメカワゲラ *Gibosia hagiensis*

キフタツメカワゲラ *Gibosia hatakeyamae*

オオメフタツメカワゲラ "*Gibosia*" *thoracica*

フタツメカワゲラ *Neoperla geniculata*

ハルフタツメカワゲラ *Neoperla* sp.1

ヤマトカワゲラ *Niponiella limbatella*

カワゲラ *Kamimuria tibialis*

流れのある礫間にすむ。本種は標高 500m 以下に多くなる。次種に比べ本流の河川に多く生息するようである。

ウエノカワゲラ *Kamimuria uenoi*

流れのある礫間にすむ。本種は前種に比べ、支流や上流域の河川に多く生息するようである。

クロヒゲカワゲラ *Kamimuria quadrata*

流れのある礫間にすむ。低山から高地までの広い範囲に分布する。

オオヤマカワゲラ *Oyamia lugubris*

緩い流れの礫間にすむ。本種は標高の低いところに分布する。

スズキクラカケカワゲラ *Paragnetina suzukii*

速い流れの礫間や岩盤の隙間にすむ。

クラカケカワゲラ *Paragnetina tinctipennis*

速い流れの礫間や岩盤の隙間にすむ。

ミドリカワゲラ科 *Chloroperlidae*

ミドリカワゲラ科は現在十分な分類学的検討がなされておらず、属の所属と種の同定の両方に問題がある。したがって、この報告ではなるべく種名の使用をさけた。

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Suwallia* sp.1

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Suwallia* sp.2

セスジミドリカワゲラ *Sweltsa abdominalis*

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Sweltsa* sp.1="Isoperla" kinbunensis

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Sweltsa* sp.2

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Sweltsa* sp.3

ミドリカワゲラ科の 1 種 *Sweltsa* sp.4

2.1.22.4. トワダカワゲラ科 *Scopuridae*

ミネトワダカワゲラ *Scopura montana*

本州の東北地方より南の山岳域の細流に生息する。

2.1.22.5. ミジカオカワゲラ科 *Taeniopterygidae*

イマニシシタカワゲラ *Mesyatsia* sp.1

山地渓流域に生息する。

2.1.22.6. オナシカワゲラ科 *Nemouridae*

ジュッポンオナシカワゲラ *Amphinemura decemseta*

低山地渓流域から丘陵地帯にかけての様々な環境に生息する。

ヤジリオナシカワゲラ *Amphinemura sagittata*

山地の標高約 1000m 以上の渓流域などに生息する。

モンオナシカワゲラ *Amphinemura flavostigma*

山地渓流域などに生息する。

ナガトゲオナシカワゲラ *Amphinemura longispina*

山地渓流域などに生息する。

サトオビナシカワゲラ *Amphinemura dichotoma*

河川の緩流部に生息し、平地から低山にかけて分布する。

アカギオナシカワゲラ *Nemoura akagii*

山地渓流域などに生息する。

チノオナシカワゲラ *Nemoura chinonis*

山地渓流域などに生息する。

ウエノオナシカワゲラ *Nemoura uenoi*

山地渓流域などに生息する。

カワイオナシカワゲラ *Nemoura* sp.1

山地渓流域などに生息する。

ナラオナシカワゲラ *Nemoura naraiensis*

源流などの細い沢に多い。

ナガオナシカワゲラ *Nemoura longicercia*

山地渓流域などに生息する。

ハルミスジオナシカワゲラ *Nemoura redimiculum*

山地渓流域などに生息する。

イワミスジオナシカワゲラ *Nemoura trivittata*

本種の幼虫は水に濡れた垂直な岩盤上に生息する。

マルオミスジオナシカワゲラ *Nemoura ovocercia*

本種の幼虫は水に濡れた垂直な岩盤上に生息する。

トゲオナシカワゲラ *Nemoura fulva*

河川の緩流部に生息し、平地から高山にかけて広く分布する。

オナシカワゲラ属の1種 *Nemoura cercispinosa* Group sp.1

オナシカワゲラ属の1種 *Nemoura cercispinosa* Group sp.2

ホタカオナシカワゲラ *Protonemura hotakana*

山地渓流域などに生息する。

トワダオナシカワゲラ *Protonemura towadensis*

山地渓流域などに生息する。

ユビオナシカワゲラ属の1種 *Protonemura* sp.1

クロオナシカワゲラ *Indonemoura nohirae*

細流などに多い。

2.1.22.7. クロカワゲラ科 *Capniidae*

クロカワゲラ科は現在十分な分類学的検討がなされておらず、属の所属と種の同定の両方に問題がある。したがって、この報告ではなるべく種名の使用をさけた。

クロカワゲラ属の1種 *Capnia* sp.1

クロカワゲラ属の1種 *Capnia* sp.2

ミジカオクロカワゲラ属の1種 *Eucapnopsis stigmatica*

ミジカオクロカワゲラ属の1種 *Eucapnopsis quattuorsegmentata*

ミジカオクロカワゲラ属の1種 *Eucapnopsis* sp.1

チビクロカワゲラ *Isocapnia japonica*

2.1.22.8. ハラジロオナシカワゲラ科 *Leuctridae*

ハラジロオナシカワゲラ科は現在十分な分類学的検討がなされておらず、属の所属と種の同定の両方に問題がある。したがって、この報告ではなるべく種名の

使用をさけた。

モンハラジロオナシカワゲラ *Paraleuctra cercia*

山地渓流域などに生息する。

オカモトハラジロオナシカワゲラ "*Rhopalopsola*" *okamotoa*

山地渓流域などに生息する。

ハルホソカワゲラの 1 種 *Perlomyia* sp.1

ハルホソカワゲラの 1 種 *Perlomyia* sp.2

ハルホソカワゲラの 1 種 *Perlomyia* sp.3

ホソカワゲラの 1 種 *Rhopalopsola* sp.1

ホソカワゲラ *Rhopalopsola japonica*

2.1.23. トンボ類

2.1.23.1. イトトンボ科 *Coenagrionidae*

モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion*

低茎草本が生える湿地に生息する種類で、県内では休耕田での発生例が多いが、近年激減している。山麓部の谷戸で確認された。

キイトトンボ *Ceriagrion melanurum*

県内では休耕田を主とした湿地や池に見られるが、近年激減している。

アジアイトトンボ *Ischnura asiatica*

止水に広く分布する種類で、移動力は強い。山麓部の谷戸及び山中の新たに造られた池で確認された。

アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis*

沿岸に多い種であり移動力は大きい。ときに内陸部でも採集される。

セスジイトトンボ *Cercion hieroglyphicum*

止水や流水の緩流部に生息する種類で、山中の新たに造られた池で確認された。

クロイトトンボ *Cercion calamorum calamorum*

止水や流水の緩流部に生息する。

オオイトトンボ *Cercion sieboldii*

池や湿地に生息する種類で、山中の新たに造られた池で確認された。

2.1.23.2. アオイトトンボ科 *Lestidae*

アオイトトンボ *Lestes sponsa*

止水に生息する種類で、山中の新たに造られた池で確認された。

オオアオイトトンボ *Lestes temporalis*

比較的小規模な止水に好んで生息する種類で、山麓の谷戸、山中の小止水及び山中の新たに造られた池などで確認された。

オツネントンボ *Sympecma paedisca paedisca*